

教育等の振興に関する施策の大綱の主な施策の進捗状況等について

(その 4)

基本方向 6～10

平成 31 年 3 月

基本方向 6	私立学校の振興を図る
対策 (1)	教育環境の維持・向上に向けた支援

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>本県の学校教育における私立学校の果たす役割に鑑み、学校経営の健全性を高め、教育環境の維持・向上を図るため、運営費に対する助成を行います。</p> <p><具体的な事業> ・運営費に対する助成（私学・大学支援課）</p>	<p>ア 運営費に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問や校長会を活用して予算や補助内容を説明し、補助金について周知した。 ・私立学校運営費補助金（S51～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 3,147,478千円（9法人） H29年度補助実績 3,184,127千円（9法人） H30年度補助見込 3,116,391千円（9法人） ・私立特別支援学校運営費補助金（S51～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 57,175千円（1法人） H29年度補助実績 54,713千円（1法人） H30年度補助見込 50,945千円（1法人）
<p>【取組②】</p> <p>私立学校の教育力強化や教育課題の解決を図るため、特色ある学校づくりに対する助成を行います。</p> <p><具体的な事業> ・特色ある学校づくりに対する助成（私学・大学支援課）</p>	<p>ア 特色ある学校作りに対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問や校長会を活用して予算や補助内容を説明し、補助金について周知した。 ・教育力強化推進事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> 教育力強化推進事業（H22～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 74,722千円（9法人） H29年度補助実績 74,118千円（9法人） H30年度交付決定 79,500千円（9法人） ※教育力強化推進事業費補助金について、H30年度より、事業対象に「教員の負担軽減に係る取組」を追加 教育改革推進事業（H11～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 35,876千円（10法人） H29年度補助実績 36,708千円（10法人）
<p>【取組③】</p> <p>学校の防災機能・安全機能の強化を図り、児童生徒が安心して教育を受けられる環境を整備するため、耐震補強や学校施設の整備に対する助成を行います。</p> <p><具体的な事業> ・耐震補強や学校施設の設備に対する助成（私学・大学支援課）</p> <p><取組のKPI> ・耐震診断の実施：1棟（H30） ・耐震補強工事の実施：2棟（H30）</p>	<p>ア 耐震補強や学校施設の設備に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問や校長会を活用して予算や補助内容を説明し、補助金について周知した。 ・私立学校耐震化促進事業費補助金（H20～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 22,478千円（2施設 1法人） H29年度補助実績 7,407千円（1施設 1法人） H30年度補助決定 20,319千円（1施設 1法人） *国庫補助事業の上乗せ補助 ・私立学校施設耐震対策支援事業費補助金（H15～） <ul style="list-style-type: none"> H28年度補助実績 2,616千円（2施設 1法人） H29年度補助実績 3,317千円（2施設 1法人） H30年度補助決定 4,578千円（1施設 1法人）

**対策
の
概要**

学校経営の健全性を高め、教育環境の維持・向上を図るための支援を行うとともに、教育の国際化やキャリア教育の推進など社会の変化に応じた教育の改革や児童生徒の学力向上、教員の指導力向上、個別支援が必要な生徒への対応など学校が抱える課題を解決し教育力を強化しようとする取組を支援します。

C 取組の成果・課題	A 今後の取組の方向
<ul style="list-style-type: none"> ・私立学校の運営に対する支援について周知し、理解が図られた。 <p>私立学校において適正な運営がなされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して私立学校に対する助成を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の特色ある取組への支援について周知し、理解が図られた。 <p>各学校の特色を生かした取組や教育がなされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して私立学校に対する助成を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化に向けた取組が進められている。 <p>(平成 30 年度末の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強 実施率 93.2% (68/73) ・耐震診断 実施率 96.9% (31/33) 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して私立学校に対する助成を実施する。

基本方向 6

私立学校の振興を図る。

対策 (2)

私立学校に通う児童生徒の保護者の経済的負担の軽減

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																					
<p>【取組①】</p> <p>全ての生徒が安心して教育を受けられるよう、高等学校等の授業料に充てる高等学校等就学支援金や、教科書、教材費など授業料以外の教育費に充てる高校生等奨学給付金の支給を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校等就学支援金等の支給 (私学・大学支援課) 	<p>ア 高等学校等就学支援金等の支給</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校訪問や校長会を活用して予算や補助内容を説明し、補助金等について周知した。 私立高等学校就学支援金 (S22～) <table border="0"> <tr> <td>H28年度補助実績</td> <td>784,460千円</td> <td>(対象者数 4,361人)</td> </tr> <tr> <td>H29年度補助実績</td> <td>771,410千円</td> <td>(対象者数 4,305人)</td> </tr> <tr> <td>H30年度補助見込</td> <td>交付決定額 725,911千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(交付済額 544,236千円)</td> <td></td> </tr> </table> 私立高校生等奨学給付金 (H26～) <table border="0"> <tr> <td>H28年度給付実績</td> <td>57,322千円</td> <td>(給付者数 671人)</td> </tr> <tr> <td>H29年度給付実績</td> <td>59,288千円</td> <td>(給付者数 650人)</td> </tr> <tr> <td>H30年度給付済額</td> <td>55,937千円</td> <td>(給付者数 602人)</td> </tr> </table> 	H28年度補助実績	784,460千円	(対象者数 4,361人)	H29年度補助実績	771,410千円	(対象者数 4,305人)	H30年度補助見込	交付決定額 725,911千円			(交付済額 544,236千円)		H28年度給付実績	57,322千円	(給付者数 671人)	H29年度給付実績	59,288千円	(給付者数 650人)	H30年度給付済額	55,937千円	(給付者数 602人)
H28年度補助実績	784,460千円	(対象者数 4,361人)																				
H29年度補助実績	771,410千円	(対象者数 4,305人)																				
H30年度補助見込	交付決定額 725,911千円																					
	(交付済額 544,236千円)																					
H28年度給付実績	57,322千円	(給付者数 671人)																				
H29年度給付実績	59,288千円	(給付者数 650人)																				
H30年度給付済額	55,937千円	(給付者数 602人)																				
<p>【取組②】</p> <p>児童生徒の修学機会を確保するため、授業料の軽減措置を行う私立学校に対し助成を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業料の軽減措置を行う私立学校に対する助成 (私学・大学支援課) 	<p>ア 授業料の軽減措置を行う私立学校に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校訪問や校長会を活用して予算や補助内容を説明し、補助金等について周知した。 私立学校授業料減免補助金 (H12～) <table border="0"> <tr> <td>H28年度補助実績</td> <td>108,854千円</td> <td>(対象者数 1,471人)</td> </tr> <tr> <td>H29年度補助実績</td> <td>102,798千円</td> <td>(対象者数 1,420人)</td> </tr> <tr> <td>H30年度補助見込</td> <td>92,511千円</td> <td>(対象者数 1,282人)</td> </tr> </table> 私立中学校等修学支援実証事業費補助金 (H29～) <table border="0"> <tr> <td>H29年度補助実績</td> <td>41,426千円</td> <td>(対象者数 437人)</td> </tr> <tr> <td>H30年度補助見込</td> <td>15,700千円</td> <td>(対象者数 157人)</td> </tr> </table> 	H28年度補助実績	108,854千円	(対象者数 1,471人)	H29年度補助実績	102,798千円	(対象者数 1,420人)	H30年度補助見込	92,511千円	(対象者数 1,282人)	H29年度補助実績	41,426千円	(対象者数 437人)	H30年度補助見込	15,700千円	(対象者数 157人)						
H28年度補助実績	108,854千円	(対象者数 1,471人)																				
H29年度補助実績	102,798千円	(対象者数 1,420人)																				
H30年度補助見込	92,511千円	(対象者数 1,282人)																				
H29年度補助実績	41,426千円	(対象者数 437人)																				
H30年度補助見込	15,700千円	(対象者数 157人)																				

対策
の
概要

経済的に厳しい環境の児童生徒が安心して教育を受けられるよう、経済的負担の軽減を図ります。

C 取組の成果・課題	A 今後の取組の方向
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における教育費の負担軽減につながる支援について周知し、理解が図られた。 経済的に厳しい環境の児童生徒が安心して教育を受けられるよう、保護者の教育費の経済的負担の軽減を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得による区分によっては、制度を活用しても授業料の負担がある家庭がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して助成を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における教育費の負担軽減につながる支援について周知し、理解が図られた。 経済的に厳しい環境の児童生徒が安心して教育を受けられるよう、保護者の教育費の経済的負担の軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して助成を実施する。

基本方向 7 社会の期待に応えるため大学の魅力を高める

対策 (1) 地域活性化の核となる大学づくりの推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>産学官民連携センターを核として、県内のみならず、県外からもより多くの人材や知恵を呼び込み、テーマごとのワークショップやさまざまな講座を開催するなど、産学官民の交流の機会を積極的に設けます。また、この交流の中で生まれたさまざまなアイデアを、具体的な事業プランとして磨き上げていくことを支援することで、新たな事業展開へとつなげていきます。</p> <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 連続講座の参加者数：90人 	<p>ア 産学官民連携に関する相談窓口をココブラに常設し、様々な相談に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口の設置(月～金、8:30～17:15) 事業創出アドバイザーの委嘱(4名) <p>イ 県内外の企業や高等教育機関等の英知を結集し、県内でのイノベーションの創出を図るため、産学官民がともに学び合い、交流する場として、連続講座やワークショップ等を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> シーズ・研究内容紹介 【計画：20回/年】 5/16,5/30,6/6,6/20,7/4,7/18,8/1,8/29,9/5,9/19,10/3,10/31,11/7,11/21,12/12,12/19,1/16,1/30,2/6,2/20 計20回開催、延べ563名参加 経営者トーク 【計画：10回/年】 5/18,6/22,7/27,8/31,9/21,10/26,11/16,1/25,2/15,3/15 10回開催(予定)、370名(予定)参加 企業訪問キャラバン 【計画：10社/年】 5/28,6/19,8/23,9/7,9/19,11/26,3/4,3月8社訪問(予定) ビジネストレンドセミナー 【計画：5回/年】 6/13,8/27,9/21,11/30,2/26 5回開催、278名参加 連続講座 【計画：5講座開催】5講座開催、68名参加 7/25～3/8 (全8回) 目指せ！弥太郎 商人塾 6/28～10/25 (全5回) 商人塾短期集中セミナー in 幡多 7/11～9/18 (全9回) 社内起業家(イントラプレナー) 育成支援講座 9/16～11/25 (全12回) 土佐経営塾 10/4～2/22 (全5回) 新事業創出講座 <p>ウ 産学官民の交流の取組等から生まれたアイデア等の事業化に向けたココブラビジネスチャレンジサポート等による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ココブラビジネスチャレンジサポート 11件着手
<p>【取組②】</p> <p>大学の学生や教員が積極的に地域に入り、住民、NPO、県や市町村の職員などと連携することで、地域とのつながりを深め、産業振興の取組をはじめ、健康長寿県づくり、中山間地域対策、南海トラフ地震対策など、地域における課題の解決や活性化に協働で取り組む活動を積極的に推進します。</p> <p>県立大学等支援費(私学・大学支援課)</p>	<p>ア 県立大学における域学共生の取組(H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学実習Ⅰ 県内の24地域で1～3回生352名が履修登録(実習テーマ) <ul style="list-style-type: none"> 地域に住む女性らが活躍できる地域活性化策を考える(高知市) 高知県で唯一の離島(鞆来島と沖の島)で活動した「保健婦(現保健師)」の足跡を訪ね地域課題を学ぶ(宿毛市) どうしたら中山間地域で健康に暮らせるかを考える(橋原町) など 地域学実習Ⅱ 県内の各地域で2～4回生412名が履修登録(実習テーマ) <ul style="list-style-type: none"> 地域で行っている味噌づくりを地域の若者が継承できるようにし、味噌の美味しさを地域全体に普及させる(佐川町) 保育団体と地域住民とのかかわりから、子供が秘めた地域活性力について探る(広島市・高知市) 高須・鞆島地区地震、津波に関する取り組み～自主防災組織や自治体の取り組みについての調査～(高知市) など 域学共生実習 下記2つのテーマで4回生7名が履修登録(実習テーマ) <ul style="list-style-type: none"> 鞆来島が抱えている地域課題の調査と情報提供(宿毛市) 県大立志塾の企画運営(高知市) 立志社中 平成30年度の「立志社中」プロジェクトに採択された7チーム、のべ302人の学生が県内地域で地域活動に参画

対策
の
概要

地方では、産業集積が進んでいる都市部と異なり、自社で技術的な研究を進める大手企業が少なく、新たな技術開発等を行っていくためには、大学が有する研究開発力を活用するなど、知の集積が極めて重要です。このため、産学官民連携センターを核として、県内外の産学官民の交流と連携を更に深め、イノベーションの創出を図ります。また、地域のニーズに応える人材育成を行うとともに、大学における「地（知）の拠点」機能の充実・強化を図り、産業の振興や地域課題の解決に、地域住民、NPO、県や市町村などと連携・協働して取り組む活動を積極的に推進します。

C 取組の成果・課題

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・連続講座の参加者数

<成果>

連続講座の参加者数：68人（5講座）

<課題>

- ・産学官民の交流と連携の更なる促進のため、各セミナーや講座への参加者を確保することが肝要。
- ・セミナーや講座等において出てきたビジネスアイデアやプランについて、ココブラビジネスチャレンジサポート等を活用して、事業化に向けた支援を継続的に行っていくことが重要。

- ・ホームページ、SNS、メルマガでの情報発信のほか、関係機関等への呼びかけ等、積極的な広報活動を継続的に行う。

- ・サポートが必要な案件についてはココブラビジネスチャレンジサポートの活用や関係機関へ繋ぐこと等により、事業化に向けた支援を実施。

【成果】

- ・全学挙げて域学共生に取り組んでおり、地域に入り、地域の方々と協働で取り組む活動を積極的に推進している。

【課題】

- ・今年度末に地域共生推進士の第1号が誕生予定のため、認定までの手続きや卒業後のネットワークづくりについて検討し実行する。
- ・立志社中の活動について、学内外の認知度向上のため、HP等の広報を充実させる。

- ・県立大学では平成27年度から域学共生の取組をスタートしており、引き続き、地域の課題解決や活性化に向けて、県や市町村をはじめとする関係機関との連携強化を図りながら、学生と教員が地域に入り、地域とのつながりを深める活動を一層推進していく。

基本方向 7

社会の期待に応えるため大学の魅力を高める

対策 (2)

「学び続ける」社会の実現に向けた学び直しの機能の強化

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組①】

「夜間主コース」の設置や社会人入試制度の導入により、働きながら学べる機能を拡充するとともに、公開講座や県民開放授業の開催、履修証明プログラム、科目等履修制度の充実によって、社会人のニーズに応じた多様な学習プログラムを提供するなど、大学における生涯学習、社会人教育の機能の更なる充実・強化を図ります。

県立大学等支援費（私学・大学支援課）

・高知県立大学文化学部夜間主コースの入学者の状況

H30年度	定員	入学者数
推薦	10人	4人
社会人	20人	27人
3年時編入	3人	2人
合 計	33人	33人

・公開講座等の開催状況（H30）
 高知県立大学： 2,530人（受講者延べ人数）
 高知工科大学： 720人（同上）

【取組②】

産学官民連携センターにおいて、ビジネスの基礎から応用・実践力まで、受講者のニーズやレベルに応じて体系的に身に付けられる産学官民連携によるビジネス研修「土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）」の充実・強化を図ります。

<取組のKPI>

H30 受講者数（延べ）3,000人

ア 体験講座や気軽に相談できる場を設ける「おためしMBA」の開催
 ・4/23 高知市（入門講座体験、商人塾体験、経営塾体験）：90人
 ・4/24 四万十市（入門講座体験・MBAカフェ）：15人
 ・4/26 安芸市（入門講座体験・MBAカフェ）：17人
 ・7/22,23 高知市（エグゼクティブコース体験）：25人
 ・8/30 高知市（入門講座体験・MBAカフェ）：24人

イ 本科・実科の各講座の募集開始（4月～）

ウ 各講座の開講

【本科】 経営戦略コース（5/25～7/21）：317人

・マーケティング・商品開発コース（6/7～7/10）：282人

・会計コース（6/6～8/20）：316人

・財務戦略コース（7/3～8/8）：296人

・情報ビジネスコース（9/7～10/27）：235人

・組織・人的資源マネジメントコース（9/6～11/16）：260人

・事業管理コース（10/12～11/7）：216人

・スキルアップセミナー（7/18～9/25）：179人

・ビジネストレンドセミナー（6/13～2/26）：278人

・エグゼクティブコース（9/27～2/14）：19人

【実科】 土佐経営塾（9/16～11/25）：18人

・目指せ！弥太郎商人塾（7/25～3/8）：12人

・商人塾短期集中セミナーin 幡多（6/28～10/25）：8人

・社内起業家（イントラプレナー）育成支援講座（7/11～9/18）：12人

・新事業創出講座（10/4～2/22）：18人

【専科】 3,046人

<H30バージョンアップのポイント>

●情報発信の強化・学びを体験できる機会の提供

- ・おためしMBAを開催する。
- ・企業等への個別訪問、関係機関と連携したPRを強化する。

●ニーズに対応したカリキュラムへの再編

- ・入門講座を初心者にも興味を持っていたりやすい内容に統一する。
- ・演習や自社ビジネスに落とし込んで考える部分を強化する。
- ・事業戦略策定済企業のニーズに応じた講座の受講を推奨する。

●地域で学ぶ場づくり

- ・インターネットを活用して受講できる「サテライトプラットフォーム」ネット受講の仕組みを継続するとともに、企業へのPRを強化する。
- ・「目指せ！弥太郎商人塾」の短期集中セミナーを、幡多地域で試行的に開催する。

【参考】 受講者数 H28実績（延べ）3,006人

H29実績（延べ）4,313人

対策
の
概要

誰もが学び続け、夢や志に挑戦できる社会の実現に向け、大学における学び直しの機能を拡充し、社会人の学びを支援します。また、地域や産業を支える人づくりに向け、起業を目指す人材養成のためのビジネス研修をはじめ、社会人や企業のニーズに応じた実践的・専門的な教育プログラムの充実・強化を図ります。

C 取組の成果・課題

A 今後の取組の方向

【成果】

- ・夜間主コースに多くの社会人学生が入学しており、働きながら学べる場として機能している。
- ・公開講座や履修証明プログラム、リカレント講座等を活発に開催することで、生涯学習、社会人教育の機能が強化されている。

【課題】

- ・広報活動の充実

- ・引き続き広報活動を積極的に行い、認知度を上げていく。

【KPI の状況】

土佐 MBA 受講申込者数 3,000 人/年度

<成果>

- ・受講者数（見込）5,683人
- ・おためしMBAについては、今まで土佐MBAを受講したことのない方に多く受講していただき、実際の講座申込につながるなど、新たな受講者の掘り起こしができた。
- ・地域で学ぶ場づくりとして初めて実施した「商人塾短期集中セミナーin 幡多」は受講者が熱心に受講・修了して好評を得、地域での学びの機会につながった。

<次年度に向けての課題>

- 十分かつ的確な情報発信
 - ・社内の人材育成ニーズが相当程度存在しているが、情報が十分届いていない。
 - ・講座の内容が、実際以上にハードルが高く感じられている傾向がある。
- 事業戦略策定事業者のフォローアップと新たな事業創出に向けた支援強化
 - ・事業戦略策定企業等において、戦略策定・実行に当たってさまざまな課題あり。
 - ・多くの企業が「信用品・サービスの開発」「業務効率化・生産性向上」を経営課題として認識している。
- 地域での学びの意欲喚起と風土醸成
 - ・高知市以外の地域でも、学びの場を設ける必要がある。
 - ・学びと日々の業務の間に距離があり、受講に二の足を踏む方がまだまだ多い。

- 情報発信の強化・学びを体験できる機会の拡充
 - ・企業への個別訪問の強化、特に参加の少ない業種業界へのアプローチ強化
 - ・関係機関と連携したPRの強化
 - ・おためしMBAの拡充（開催場所・回数増）
- 課題解決と事業成長につながる学びの場を充実
 - ・事業戦略フォローアップ講座の実施と企業等のニーズに応じた講座への誘導
 - ・社内起業家育成支援講座等でのアフターフォローの強化、新しい事業創出をテーマとした事業創出コースの新設
 - ・県内企業の生産性向上を図り事業を成長につなげるため、事業マネジメント・業務改善コースをリニューアル。
- 地域での学びの場の拡大
 - ・個人・小規模事業者向けに、学びの意欲を喚起するための実践的な講座「ナリワイセミナー」を東部地域、幡多地域で開催。

基本方向 7

社会の期待に応えるため大学の魅力を高める

対策 (3)

若者の県内定着の促進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組①】

県内高校生の進学先の拡充を目的とする高知県立大学文化学部（夜間主コースを除く）の拡充※1や、高知工科大学経済・マネジメント学群の設置※2を機に、県内大学への地元出身入学者を更に増やすとともに、県外からの学生も呼び込むことを目指します。このため、高等学校との連携を一層強化するとともに、大学のオープンキャンパスや出前講座等の広報により県内大学の先進的な教育活動等を積極的に発信します。

- ※1 高知県立大学文化学部の入学定員
【(～H26) 80人 → (H27～) 150人】
- ※2 高知工科大学経済・マネジメント学群の入学定員 (H26 まではマネジメント学部)
【(～H26) 100人 → (H27～) 160人】

<具体的な事業>
県立大学等支援費（私学・大学支援課）

・高知県立大学文化学部（夜間主コースを除く）及び高知工科大学経済・マネジメント学群の入学者の状況

H30年度	定員	入学者数
県立大文化学部（夜間主コース除く）	120人	134人 (52人)
工科大経済・マネジメント学群	160人	186人 (79人)
合計	280人	320人 (131人)

※（ ）内は、県内出身者数

【取組②】

県内大学卒業者の県内就職を促進するため、県内企業に限定した就職セミナーの開催や県内企業に関する就職情報の発信等を行うとともに、高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知学園短期大学及び高知工業高等専門学校の県内5つの高等教育機関と、産業界、県等が連携・協働し、地域の雇用創出や大学生等の地元就職率の向上に取り組めます。

<具体的な事業>
県立大学等支援費（私学・大学支援課）

・高知県立大学及び高知工科大学は、県内企業に限定した就職セミナーを実施している。

<開催実績 (H30)>

高知工科大	26回 (参加延べ人数 193人)
高知県立大	8回 (同上 16人)

(参考：H29実績)

※高知県立大学では県内の企業を直接訪問し、その企業に関するだけでなく、仕事に対する意識向上を目的としたバスツアーの実施（計2回、のべ18名参加）、業界研究の一環として高知県内の食品流通・スーパーマーケット業界研究の場として業界研究フィールドワーク（5名参加）を実施した。

※高知工科大学では、通年（3月以降）受け付ける形式の個別会社説明会において、県内企業12社に28名が参加した。また、12月には県内製造業有志（6社）による業会研究会を香美キャンパスで開催し、17名が参加した。1月開催の学内合同業界研究セミナーでは香美・永国寺 両キャンパスで92社136名が参加した。

※新規の取り組みとして、県立大・工科大共催で、県内での勤務が見込まれる9団体による合同形式の「公務員教務セミナー」を開催し、42名（県立大28名、工科大14名）が参加した。

<県内高等教育機関の地元就職率>

	H29	H28
高知大	25.8%	29.3%
高知県立大	33.3%	39.6%
高知工科大	15.7%	19.8%
高知学園短大	71.1%	86.1%
高知高専	18.9%	10.0%

対策
の
概要

若者の県外流出を防止し、地域活性化の中心となる「ひと」の地方への集積を図るため、県内高校から県内大学への進学者を増やすとともに、県内大学卒業生の県内就職を促進します。

C 取組の成果・課題	A 今後の取組の方向
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 両学部（学群）とも、平成 27 年度の定員増とともに、県内高校からの入学者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県内高校との連携を強化するなど、県内高校からの進学者増加に取り組む。
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内企業に限定した就職セミナーを着実に実施している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内志向の学生には県内企業限定のセミナーは効果があるが、県外志向（県内との併願者含む）の学生を惹きつけるための効果的な情報発信等の対策が課題である。 売り手市場という状況もあり、より好待遇である県外企業等を選択する学生が多くなる傾向が出てきているので、こうした面に対する検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も県内企業に限定した就職セミナーを開催し、学生に向けて、県内企業に関する就職状況等を積極的に発信していくと同時に、県内 5 つの高等教育機関と、産業界、県等が連携・協働して地域の雇用創出や大学生等の地元就職率の向上に取り組んでいく。

基本方向 8	生涯にわたって学び続ける環境をつくる
対策 (1)	生涯学習の推進体制の再構築

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>社会教育関係者の専門的な資質・能力の向上を目指した研修を充実させるとともに、社会教育の指導的立場にある社会教育主事の養成を推進し、地域の学びを支える人材の育成を図ります。また、PTAをはじめとする社会教育関係団体の活動を支援するとともに、社会教育関係団体が多様な実践事例に学ぶ機会として交流会を開催することなどにより、関係者の輪を広げます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育推進人材育成事業（生涯学習課） ・社会教育活動活性化支援事業（生涯学習課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村社会教育担当者研修会各回の参加者数： <ul style="list-style-type: none"> 第1回（6月）40名以上 第2回（9月）50名以上 第3回（2月）40名以上 （計 延べ130名以上） ・社会教育実践交流会の参加者数：270名以上 	<p>ア 社会教育関係者の専門的な資質・能力向上のための研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村社会教育担当者の研修会の開催【計画：延べ参加者数130人以上】 <ul style="list-style-type: none"> 第1回（6月）、第2回（9月）、第3回（2月19日予定） <p>イ 社会教育主事の養成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国地区大学社会教育主事講習への派遣 <ul style="list-style-type: none"> 鳴門教育大学への派遣：2名（7月） 社会教育主事講習（B）への派遣 <ul style="list-style-type: none"> 愛媛大学（サテライト）への派遣：1名（1月） 国立教育政策研修所社会教育実践センターへの派遣：1名（1月） <p>ウ PTAをはじめとする社会教育関係団体の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会、研究大会の企画等に対する助言・指導及び事務支援 <ul style="list-style-type: none"> 第1回保幼小中高 PTA 連合体連絡協議会開催（6月） 中国・四国地区公民館連絡協議会定期会出席 高知県小中学校 PTA 連合会と高知県小中学校長会との懇談会出席（8月） 高知県小中学校 PTA 連合会と高知県教育委員会の教育研修会（1月） 第2回保幼小中高 PTA 連合体連絡協議会開催（1月） <p>エ 社会教育関係団体が実践事例に学ぶ交流会の開催による関係者の輪の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育実践交流会実行委員会の開催【1月、参加者数229名】 <ul style="list-style-type: none"> 社会教育関係団体の推薦による実行委員の選出（7名） 第1回実行委員会（7月）、第2回実行委員会（1月）、 第3回実行委員会（3月予定）
<p>【取組②】</p> <p>県民の多様な生涯学習ニーズに対し、県民の学びを次の学びへとつなげていくため、生涯学習機関のネットワーク化を図ることにより、各市町村が行う生涯学習講座の総合的な情報提供などを行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課活性化推進事業（生涯学習課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習支援センターへの相談件数：150件 	<p>ア 生涯学習機関のネットワーク化による各市町村が行う生涯学習講座の総合的な情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人高知県生涯学習支援センターに、生涯学習に関する各種講座の情報提供や相談業務、視聴覚ライブラリーの管理等を委託し実施 ・市町村における生涯学習に関する各種講座等の情報を提供（6、10月） ・体験活動ホームページの更新（6、7、8、9、10、11月） ・NPO法人高知県生涯学習支援センター永国寺ビル移転（6月） ・生涯学習の機能強化の検討

2 第2期高知県教育振興基本計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
県・市町村教育委員会及び公民館（類似施設含む）における社会教育学級・講座数（教育委員会所管分）	5,054	4,976	5,000 以上

対策
の
概要

現に社会教育を担っている関係者の持てる力を十分に生かしていただけるよう努めるとともに、これまで必ずしも社会教育に携わってこなかった人材の掘り起こしも図ることにより、生涯学習の推進体制を再構築していきます。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPI の状況】

- ・市町村社会教育担当者研修会の各回参加者 ※6月、9月、2月にそれぞれ確定
第1回研修会(6月) 参加者: 50名 研修会の肯定的評価: 81.5%
第2回研修会(9月) 参加者: 32名 研修会の肯定的評価: 80.6%
第3回研修会(2月19日予定)
社会教育実践交流会(1月)参加者: 229名 交流会の満足度: 95%

<成果>

- ・市町村社会教育担当者研修会では「今回の研修を機に様々な分野で(他の市町村と)協力したい」「気づいていない人的資源をうまく活用して社会教育の推進に努めていきたい」「演習が人権感覚や人権意識を高めるための参考になった」「実際に活動している方の話は説得力がある」などの意見が出され、肯定的評価も高かった。

社会教育実践交流会の参加者満足度は95%と高い評価を得た。

<課題>

- ・研修会参加者数が KPI に若干届いておらず(2回目までの合計)、第3回の参加者確保を図る必要がある。
- ・市町村社会教育担当者が研修会や講習を通じ、社会教育の基礎知識を習得するとともに、各地域で社会教育を活性化していく推進力を継続的に身に付けることが必要である。
- ・活動の活性化に向けて、各団体が自らの強みや課題を共有し、より良い活動につなげていくための交流の機会づくりを更に進めていく必要がある。
- ・社会教育実践交流会と同日に他団体の研修会が複数重なり、想定よりも出席者が少なかったため、他団体との日程調整が必要である。

- ・社会教育主事等研修の内容を充実し、担当者の参加を促進するとともに、県内担当者のネットワークを構築する。

- ・社会教育実践交流会を、社会教育関係団体の代表者による実行委員会が企画・運営を主体的に担う方式で実施。

【KPI の状況】

- ・生涯学習支援センターへの相談件数 130件(1月末現在) ※H29.1月末120件

<成果>

- ・NPO 法人高知県生涯学習支援センターのホームページをリニューアルしたことで、利用者が必要な情報を得やすくなった。

<課題>

- ・県民の様々なニーズに対応し、民間も含めた多様な生涯学習の情報を一元的に提供する仕組みを整える必要がある。

- ・市町村等が行う生涯学習講座のほか、大学や県、様々な民間団体が開催するため講座の情報を集約し、一元的に発信する仕組みを構築するため、生涯学習ポータルサイトを構築する。

基本方向 8

生涯にわたって学び続ける環境をつくる

対策 (2)

新図書館等複合施設を核とした県民の読書環境・情報環境の充実

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>県民の知的ニーズに応えるとともに、課題解決を支援するための図書館機能の充実に向け、研修等の充実による司書の専門性の向上や専門機関との関係づくりなどに取り組みます。また、データベースや電子書籍の提供など新図書館で行うサービスを開館前から実施します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館活動事業（県立図書館） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス件数：延べ 20,000 件 	<p>ア 研修等の充実による司書の専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権研修 (4/24、4/25)、データベース操作研修 (5/24、5/25、7/12)、レファレンス研修 (7/4、7/5)、カラーコピーデザイン (1/18)、情報サービス (12/21) の研修の実施 ・短期お話の講習会参加 (7/12 9/13 東京 1名参加) ・読書バリアフリー研究会 (9/29 高知 7名参加) ・全国図書館大会 (10/19~10/20) 東京 2名参加 ・アジア情報研修 (11/8~11/9 京都 1名) <p>イ 課題解決支援機能の充実に向けた専門機関や行政機関との関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ専門職員による専門機関訪問、来訪、電話・メールでの打ち合わせ 411件 (1月末現在) ・イベント、展示、セミナー・相談会等の共同実施 82回 (うち出前図書館 24回 (1月末現在)) ・県内の市町村立図書館 (図書室) 54 館室と連携した啓発展示 (がん征圧月間) <p>ウ 資料の充実及びデータベースや電子書籍による情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集状況 <ul style="list-style-type: none"> ・一般図書 24,834 冊、雑誌等 647タイトル (2/13 現在 ※寄贈は除く) ・データベースの整備 <ul style="list-style-type: none"> 24 種類 (高知新聞データベース、日経テレコン、官報情報検索サービス等) (延べ利用件数 2,448 回 <1月末日現在>) ・電子書籍の導入 (H29/10/18) <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度登録者数 367 名 (累計 976 名) <1/31 現在> 延べ閲覧回数 3,472 回 (累計 8,735 回) <1/31 現在> 延べ貸出数 1,221 回 (累計 3,084 回) <1/31 現在> ・利用者等を対象とした講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> 「データベース講習会」(10/4、11/28、12/13) 3回 参加者：延 51 人 「図書館活用講座」(11/6、12/4、1/8、2/5) 4回 参加者：延 42 人
<p>【取組②】</p> <p>ホームページ等を活用した情報発信や出前図書館等を通じて県立図書館の提供するサービスの周知を図ります。また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館活動事業（県立図書館） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立図書館等への年間総協力貸出冊数：32,000 冊以上 	<p>ア 市町村立図書館等への協力貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休館対応として長期貸出を実施中 <ul style="list-style-type: none"> <利用団体数> 31 館 (21 市町村 2 大学) <貸出冊数> 15,832 冊 ・市町村立図書館における企画展示実施のための資料の収集・貸出 <ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数：1,120 冊 ・協力貸出冊数 (1月末現在) 17,487 冊 <p>イ 市町村立図書館等の業務への助言・サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村巡回訪問 <ul style="list-style-type: none"> 訪問実績 (1月末現在) 30 市町村 (延べ 55 回) ・業務支援 <ul style="list-style-type: none"> 橋原町立図書館オープン支援のための職員派遣 (5/27~5/28) 仁淀川町学校図書館環境整備のための職員派遣 (9/19) <p>ウ 市町村職員等を対象とした研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続講座の実施 4回 (11/26、12/10、12/17、1/21) 参加者：延 94 人 ・図書館サービス基礎研修：総合編 4/26 (参加者数：35 名) ・どこでも研修の実施 4市町立図書館 (6回 参加者：延 41 名) <p>エ ホームページ等を通じたオーテピア高知図書館提供サービスの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレサイトの活用・ラジオ、TV 収録、広報誌「夢のかけ橋 (58 号)」 ・利用案内パンフレット、ポスター、チラシ等の作成、配布 ・高知家プロモーションホームページ サイト掲載記事の取材等 ・図書館見学 (館内ツアー) の実施 <ul style="list-style-type: none"> <見学> 54 団体 1408 人 <館内ツアー> 11 回 49 人 <視察> 26 団体 248 人 ・各種団体等が実施する会議等への講師派遣等 ・フェイスブック (97 件) やブログ (24 件) による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館等向けのブログによる情報発信 (1月に新設) 10 件 メールマガジン (図書館通信) の配信 (12月~) 3 件

対策の概要

「オーテピア高知図書館サービス計画」に基づき、図書館の貸出し等に加えて、関係機関と連携・協働しながら、課題解決支援サービスをはじめ、様々なサービスを実施していきます。
 また、県内の図書館の利用拡大に向け、遠方からでも市町村立図書館等を通じて県立図書館の本を利用できることや、一般的には購入が難しい高額な専門図書やデータベースが利用できることなど、県立図書館が実施しているサービスについて周知を図ります。併せて、県民がそれぞれの地域で、読書をし、役立つ情報が得られる環境を整えていくため、市町村立図書館等の充実・強化に向けた支援を行います。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPIの状況】

・レファレンス件数 22,100件 (7/24~1/31)

<成果>

・オーテピア開館後の状況 (1月末現在)

採館者数 579,747人

個人貸出冊数 541,124冊

利用登録件数 17,563件 (※共通利用カード新規登録者数)

開館後、約7ヶ月でレファレンス件数の目標値を達成。

・専門機関や行政機関と連携したイベントや相談会等を開催し、関係を深めることができた。開館後は、オーテピアを会場とした取組の実施、相談が増えつつある。
 ・ブックリスト (12種類) や調べものガイド (パスファインダー (7種類)) の作成

<課題>

・利用者から寄せられる多様なレファレンスに応え、質の高いサービスを提供していくため、OJT や県外の専門研修の受講などにより、司書の専門性をさらに高めていく必要がある。
 ・「図書館活用講座」の開催等により、図書館が提供する各種サービスを利用者や専門機関が効率的かつ効果的に利用できるよう、更なる周知を図る必要がある。
 ・課題解決支援に携わる専門機関や行政機関と連携・協働しながらサービスを提供するためには、情報の共有や関係の強化を図っていくことが必要である。
 ・暮らしや仕事の中で生じる様々な課題を解決するための資料が必要であり、また、必要な情報を探しやすくする工夫が必要である。
 ・開館後、想定を超える利用のため、開架の資料が少なくなるコーナーがあり、資料を充実させていく必要がある。

【KPIの状況】

・市町村立図書館等への年間総協力貸出冊数 17,487冊 (1月末現在)

<成果>

・企画展示用資料の収集、貸出しセット (20セット) の作成・実施

・県外の専門家による支援、研修事業の企画・実施

個別支援アドバイザー事業 (南国市立図書館) 3回

連続講座 2回×2会場 (香南市、日高村) 参加者: 延94人

・どこでも研修のメニュー化・実施

実施回数 6回 (梶原町、南国市、四万十市、土佐町) 参加者: 延41人

<課題>

・オーテピア高知図書館が提供する様々なサービス (市町村立図書館を通じた資料の貸出や、レファレンス・サービス、リクエストなど) について県民への周知が不十分である。
 ・市町村立図書館等において、住民のニーズに対応できる資料が十分に整備できていない。
 ・職員体制の関係もあり、市町村立図書館等の職員が研修を受講できる機会が少ない。

学校図書館との連携が十分ではなく、学校のニーズに沿った資料が提供できていない。

ア 研修等の充実による司書の専門性の向上

○レファレンス研修等司書の専門性アップ研修

○県外研修への派遣

医療健康情報サービス研修会フォローアップ研修 (2/26 大阪市)

・ビジネス・ライブラリアン講習会 (2/25~2/27 東京 1名参加)

デジタル化資料活用ワークショップ (3/7 京都府) (ほか)

◎外部講師招聘研修 (対象: 図書館職員)

乳幼児サービス (2/15)

イ 課題解決支援機能の充実に向けた専門機関や行政機関との関係づくり

○専門機関、行政機関とのイベントやセミナー・相談会等の共同実施

・11/27 発達障害に関するセミナー など

○行政機関等へのサービスの周知

・専門機関、行政機関へのメールマガジン送付

ウ 資料の充実及びデータベースや電子書籍による情報の提供

○地域や住民の自立的な判断に役立つ多様な資料の充実と必要な情報にアクセスしやすい環境 (ブックリスト、パスファインダー) の充実

○利用者等を対象とした図書館活用講座 (3/5) やデータベース講習会 (2/14, 2/28, 3/14) 等の実施

ア 市町村立図書館等への協力貸出

・課題解決に関する資料のセット貸し

・市町村立図書館における企画展示実施のための資料の収集・貸出

学校図書館のニーズに沿った団体貸出

イ 市町村立図書館等の業務への助言・サポート

・県外専門家による図書館運営等に関する助言

・市町村立図書館等においても課題解決型サービスが行えるよう支援

※レファレンスへの協力、企画展示等へのサポート

・市町村立図書館等が行う出前図書館のサポートなど、図書館の活用に向けた支援の実施

・巡回訪問等による図書館の充実に向けた、情報提供や働きかけを実施

ウ 市町村職員等を対象とした研修の実施

・ブロック別研修

(東部 3/25 中部 3/18 西部 3/11)

エ ホームページ等を通じたオーテピア高知図書館提供サービスの周知

・サービスチラシの作成・配布

・多様な広報媒体の活用や様々な機会を活用した情報発信により、幅広い層に図書館サービスを周知

・各種団体等が実施する会議等への講師派遣

・連携機関の広報ツールの活用

・メールマガジンの配信 (月1回)

・周辺公共施設と連携した広報

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組③】</p> <p>「高知県子ども読書活動推進計画」及び「図書館振興計画」の策定を通じて、子どもたちの読書習慣の定着や、県民全体の読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るための総合的な施策を検討し、推進していきます。</p> <p>また、子どもに小さい頃から読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や、読書の魅力を発信する読書ボランティアの養成などを行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 読書活動推進事業（生涯学習課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座参加者数 <ul style="list-style-type: none"> 地区別講座： 80 名 全県講座： 100 名 出張講座： 30 名 	<p>ア 高知県子ども読書活動推進計画における施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3次高知県子ども読書活動推進委員会による施策の推進の検討 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 11/21 取組の進捗状況について 子ども司書養成講座実施市町村（香美市、須崎市、中土佐町、四万十町、四万十市、津野町、いの町、日高村）（H30.6.時点の予定） 子ども司書養成講座視察（津野町 7/27、8/6） 市町村訪問による周知・啓発（訪問市町村数：10市町村（2月末現在）） <p>イ 図書館振興計画の策定及び周知、啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5回検討委員会実施（5/10） ・第6回検討委員会（6/12） パブリックコメントの実施（5/12～6/11）・7/20策定 市町村訪問による周知、啓発（訪問市町村数：33市町村（2月末現在）） 高知県市町村図書館等振興協議会の設置及び第1回協議会開催（2/14） <p>ウ 乳幼児期から本に触れる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ブックスタート応援事業 推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」作成・配布 <p>エ 読書ボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座実施 <ul style="list-style-type: none"> <地区別講座> 80名 <ul style="list-style-type: none"> 西部：10/7 四万十町立図書館大正分館 9名、12/16 四万十町立図書館 8名 中部：9/9 高知こどもの図書館 14名、10/28 高知こどもの図書館 12名 東部：9/24 香美市基幹集落センター 20名、11/4 香美市立図書館 17名 <全県講座> <ul style="list-style-type: none"> 11/11 県立大学永国寺キャンパス 51名 <出張講座> 68名 <ul style="list-style-type: none"> 10/14 宿毛市 40名、12/19 高知市立久重小学校 28名

2 第2期高知県教育振興基本計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
県民一人当たりの図書貸出冊数	4.0冊 ※H28年度		4.2冊以上

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座参加者数 地区別講座：81名、全県講座：51名、出張講座：68名 <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座のうち地区別講座、出張講座はKPIを上回っている。 策定検討委員会での議論やパブリックコメントを踏まえ、図書館振興計画を策定した。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座の全県講座がKPIを下回っており、幅広い周知が必要。引き続き、市町村や関係機関との連携を図り、講座の周知が必要である。 図書館振興計画の周知を図るとともに、計画に定める取組を着実に進める必要がある。 読書環境の厳しい地域において読書活動の推進を図るため読書活動を推進する人材を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティア養成講座について、市町村や関係機関と連携した幅広い周知により参加者を確保し、地域で読書活動の推進を担う人材を育成する。 作成した読書ボランティア登録簿の周知により、学校支援地域本部、子ども教室、児童クラブ等において人材の活用促進を図る。 図書館振興計画に基づき、市町村教育長等を訪問し、個々の図書館の目指す姿について検討を深める。併せて、新たに設置した高知県市町村図書館等振興協議会において、市町村立図書館等の振興策を検討する

	H29	H30	H31 目標値
市町村への協力貸出冊数	41,391 冊 ※H30.2 月時点		32,000 冊以上

基本方向 8

生涯にわたって学び続ける環境をつくる

対策 (3)

子どもも大人も学び合う地域づくり

7 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

【取組①】

学校支援地域本部や放課後子ども教室に多くの地域住民が参画し、学習活動への支援にとどまらず、子どもたちの地域行事や清掃活動への参加などさまざまな体験活動を支援するなどの取組を充実させることにより、地域住民と子どもたちとの交流を深め、地域コミュニティの活性化につなげます。このような取組を進める上で地域において中核的な役割を担う地域コーディネーターの育成・確保を図ります。

<具体的な事業>

- ・学校支援地域本部等事業（生涯学習課）
- ・放課後子ども総合プラン推進事業（生涯学習課）

<取組の KPI>

- ・地域学校協働本部における年間活動予定回数数の設定：21,800 回以上（H30）（100 日×小中 218 校）

【取組②】

より多く、より幅広い層の地域住民や団体等により主体的に学校における子どもたちの育ちに関わっていただくため、定期的に地域住民等と学校とが話し合う場を学校区ごとに設置し、地域の方々により深く子どもたちの現状を知っていただくとともに、地域の声を学校の活動に反映させる形をつくることで、「学校支援地域本部」の活動を、地域と学校がパートナーとして子どもたちを見守り育てる「地域学校協働本部」の活動へと展開していきます。

<具体的な事業>

- ・学校支援地域本部等事業（生涯学習課）

<取組の KPI>

- ・高知県版地域学校協働本部の3要件を満たした高知県版地域学校協働本部（市町村推進校）の数：28 校以上

D これまでの取組状況

ア 地域学校協働本部・放課後子ども教室における多くの地域住民が参画する多様な体験活動への支援の充実

- ・「高知県版地域学校協働本部モデル事例集」を全ての小中学校・義務教育学校、市町村の教育委員会、福祉担当部署、社会福祉協議会へ配布し啓発（3～4月）
- ・コレックを中心とした学び場人材バンク登録者の発掘と利用案内
- ・学び場人材バンク登録数（1月末現在）：計 376 名（H30.3 末現在：406 名）
- ・マッチング数（1月末）：延べ 292 名（H29 年間マッチング数：334 名）
- ・学校訪問等回数（1月末）：677 回（H29 年間訪問回数：669 回）

<年間活動回数（活動種類別・頻度別）（H30 国補助金実施計画より）>

（H30.7 月末現在）

	回数(延)	実施校数(実施率)	
		小学校	中学校
1 学習支援	9,420	109(79.0%)	45(66.2%)
うち放課後学習	3,617	36(26.1%)	23(33.8%)
2 学びによるまちづくり	378	21(15.2%)	7(10.3%)
3 地域課題解決型学習	515	18(13.0%)	10(14.7%)
4 地域人材育成	446	23(16.7%)	9(13.2%)
5 郷土学習	938	69(50.0%)	26(38.2%)
6 部活動指導	2,313	18(13.0%)	28(41.2%)
7 学校周辺環境整備	1,124	100(72.5%)	41(60.3%)
8 その他 (登下校安全指導・学校行事等)	8,921	104(75.4%)	46(67.6%)
計	24,055	-	-

イ 地域コーディネーターの育成・確保

- ・「高知県版地域学校協働本部モデル事例集」を全ての小中学校・義務教育学校、市町村の教育委員会、福祉担当部署、社会福祉協議会へ配布し啓発（3～4月）
- ・地域コーディネーター研修会
3 回（6/27、8/27、9/6、計 187 名、平均満足度 80.8%）
- ・高知県版地域学校協働活動研修会（全体：7/19 85 名、満足度 83%、中部：10/26）

ア 地域学校協働本部の活動を「高知県版地域学校協働本部」の活動へと展開する取組

- ・高知県版地域学校協働本部（市町村推進校）における取組

（参考）高知県版「地域学校協働本部」の要件

- ①充実した学校支援活動の実施
（4 種類以上の学校支援活動を、年間計 100 日以上実施）
- ②学校と地域との定期的な協議の場の確保
（年度初め及び学期末など、年間概ね 4 回以上の開催）
- ③民生・児童委員の参画による見守り体制の強化
（学校との個別の情報交換会等を、概ね月 1 回程度開催）

- ・学校地域連携推進担当指導主事（教育事務所、高知市教委）による支援訪問活動により学校への助言・関係者への協力要請等を実施（再掲）

- ・うち、高知県版地域学校協働本部（市町村推進校）の取組支援：207 回
- ・市町村・関係機関等との協議・協力要請、個別訪問等による啓発（生涯学習課・児童家庭課）
- ・市町村教育長会議、地区別校長会、県民生委員児童委員協議会連合会総会、市町村教育長訪問等訪問等回数（1月末現在）：41 回

- ・高知県版地域学校協働本部（市町村推進校）の設定をした市町村（1月末現在）：29 市町村 55 校（小 36 校、中 19 校）

- ・各市町村における H31 年度からの高知県版設置計画の作成を支援（～1 月）
- ・各市町村の高知県版設置計画をもとに、県全体の設置計画を検討・作成（2 月）

対策
の
概要

地域全体で子どもを見守り育てる体制をつくることにより、子どもも大人も学び合う地域づくりを進めます。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPI の状況】

- 地域学校協働本部における年間活動予定回数の設定
H30 年度実施計画 24,055 回 (6 月調査結果)

<成果>

地域学校協働本部の年間活動予定回数が 100 日 (100 回) 以上の箇所が増えてきており、体験活動への支援の充実につながっている。

<課題>

- 様々な体験活動が行われ、また、年間活動日数についても 100 日 (100 回) 以上取り組んでいる学校・地域が半数を超える一方、50 回未満のところも多くあり、取組状況には差がある。

- 引き続き地域コーディネーター人材の確保や育成を行っていく必要がある。

- 次年度も引き続き活動に参画する学校や地域の方を対象とした研修会を実施していく。

- 地域学校協働活動研修会 (全体 1 回、ブロック別 3 箇所×各 1 回)
- 地域コーディネーター研修会 (3 箇所×各 1 回)
- 地域学校協働活動実践ハンドブック (地域コーディネーター用) の作成・配布
- 放課後子ども教室のボランティア等を対象とした各種資質向上研修の実施

- 市町村等が高知県版の設置計画に基づき実施する地域・学校の資源や特色を生かした協働活動の推進に対し、県として後方支援を行っていく (通年)

【KPI の状況】

- 高知県版地域学校協働本部の 3 要件を満たした高知県版地域学校協働本部 (市町村推進校) の数: 55 校 (小 36 校、中 19 校)

<成果>

- 高知県版地域学校協働本部 (市町村推進校) の数は 55 校となり、当初の目標を大きく上回った。現在、各推進校で取組が進められている。

<課題>

- 各市町村が設定し次年度から展開する高知県版地域学校協働本部の取組が円滑に進むよう、県として支援を行っていく必要がある。

- 年度初めの教育長会や校長会等において県全体の設置計画に基づいた取組方針を説明・周知

- 学校地域連携推進担当指導主事等による支援
 - 学校経営計画の PDCA の仕組みを活用したチェック及び助言 (4 月～)
 - 学校訪問等による進捗状況確認及び助言 (4 月～)

- これまでの研修会の成果等を踏まえたコーディネーターの確保・育成に向けた取組の強化

- 地域学校協働活動研修会 (全体 1 回、ブロック別 3 箇所×各 1 回)
- 地域コーディネーター研修会 (3 箇所×各 1 回)
- 地域学校協働活動実践ハンドブック (地域コーディネーター用) の作成・配布

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

県立青少年教育施設等において、子どもも大人も参加できる魅力的な体験プログラムを実施します。

<具体的な事業>

- ・青少年教育施設振興事業（生涯学習課）

<取組のKPI>

- ・青少年教育施設の小・中・高校生の延べ利用者数：146,670人

ア 中1学級づくり合宿※の実施

- ・実施校数（2月末）：青少年センター 11校 幅多青少年の家 14校
- ※中学校と連携して、課題に合わせたプログラム構成を運用し、入学後の集団宿泊訓練を通して、規範意識や生活・学習習慣の定着とともに、円滑な学級づくりや仲間づくりを支援

イ 不登校対策事業※の実施

- ・実施回数（2月末）：青少年センター 5回 幅多青少年の家 4回
- ※不登校や不登校傾向にある小中高校生に体験活動や集団活動の場を提供することにより、自主性、社会性、人間関係能力等の向上を図る目的で実施する活動を支援する。

ウ 積極的な広報の実施

（青少年センター）

施設のパンフレットの配布によるPR

高知県教育支援センター連絡協議会で不登校対策事業のPR

主催事業のチラシを県内の全小学校及び関係機関に配布

（幅多青少年の家）

幅多地区6市町村教育委員会訪問によるPR

幅多地域小・中学校等に年間カレンダー配布（小40校、中21校、6地教委）

四国内大学サークル・スポーツ少年団等への利用案内送付

SNS（フェイスブック）による施設の情報発信

新聞社へ事業紹介（8/13高知新聞掲載）、県内・南予5校長会への参加広報

（香北青少年の家）

香美・香南・高知市の幼稚園及び保育所訪問によるPR

県内大学・専門学校・高等学校チラシ・ポスター配布によるPR

県内保育園及び小学校に主催事業のチラシ配布

香美・香南・南国の大学・高校に主催事業のチラシ配布（8月430枚）

（高知青少年の家）

いの町・土佐市内小学校訪問によるPR・主催事業チラシ配布（6,7,9月）

日高村・高知市内小学校に主催事業要項配布（6,7,9月）

高知新聞に主催事業要項のPR

いの町内小学校のコミュニティスクール担当者に事業PR

（塩見記念青少年プラザ）

オープニング事業の新聞折込や高校生・近隣住民・公共施設等配布

主催事業のチラシを市内近隣小学校訪問・公共施設配布

8月休館日無しのチラシ新聞折り込み

主催事業チラシを近隣マンション、中央部の高校に配布

主催事業をHP・ツイッターにアップ

【取組④】

小・中学校等における、長期間の集団での宿泊活動を通して、さまざまな自然体験や社会体験を行う取組を支援します。

<具体的な事業>

- ・長期宿泊体験活動推進事業（生涯学習課）

<取組のKPI>

- ・長期宿泊体験活動実施校：24校
- ・実施校対象アンケートにおける肯定的評価：100%

ア 小・中学校等での長期間の集団宿泊活動を通じた自然体験・社会体験の支援

- ・長期宿泊体験活動を行う学校への支援

実施校への支援と現地視察、来年度事業の説明

仁淀川町・津野町・土佐市（5月）、四万十市（6月）

本山町・宿毛市（7月）、土佐清水市、津野町（8月）

〔H30長期宿泊体験活動実施予定校：19校

四万十市立八束中学校・大用中学校・藤岡中学校、土佐清水市立下川口小

学校・三崎小学校・足摺岬小学校・清水小学校、宿毛市立松田川小学校・

橋上小学校、津野町立葉山小学校・精華小学校・中央小学校・葉山中学校、

香美市立片地小学校、土佐市立土佐南中学校、仁淀川町立仁淀中学校・池川

中学校、本山町立本山小学校・吉野小学校

・※H28：6校、H29：13校

- ・各市町村教育委員会の訪問による実施の要請（6月）

- ・これまでの実施を踏まえ、より教育効果の高い長期宿泊のプログラムを青少年教育施設と連携し検討

長期宿泊体験活動推進協議会（1月）

市町村教育委員会、参加希望学校への周知・説明（11月～2月）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPI の状況】

- ・青少年教育施設の小・中・高校生の利用実績: 104,686人 (12月末) (前年度 112%)

<成果>

- ・(青少年センター)
 - ・中1学級づくり合宿において、新設校等新規利用の実績があった。
 - ・改築により、平日の会議室利用や週末の宿泊利用が増加している。
- ・(幡多青少年の家)
 - ・校長会での広報により、閑散期の利用者増が見られる。

<課題>

- ・(幡多青少年の家)
 - ・施設の老朽化により利用者の受け入れに影響が出ることが予想され、修繕や設備の更新が必要である。
 - ・新規団体や旅行者を通じた利用者は、施設の老朽化がマイナスイメージとなり、リピート利用に繋がらない。

- ・自然体験の充実や交通手段の提供など、施設の特長やスタッフのノウハウを活かした活動プログラムを提供することにより、さらなる利用促進を図る。
- ・不登校対策事業について、学校への周知を強化し、参加者拡大を図る。

(青少年センター)

- ・リニューアルによる施設機能の充実を有効に活用し、利用者の多様な活動を実現させ、利用促進につなげる。

(幡多青少年の家)

- ・市町村等のニーズを把握し、必要な施設の老朽化対策を検討する。

【KPI の状況】

- ・長期宿泊体験活動実施予定校: 19校 (2月末時点)
- ・実施校対象アンケートによる評価: 満足度平均 78.9%

<成果>

- ・実施校から、事業を通して集団作りを行った結果、全国学力調査結果が全国平均を大きく上回るなど学力の向上につながっているとの報告や、休校舎等の利用により、地域との協働、活性化につながったなどの報告が寄せられている。
- ・また、保護者アンケートでは、子どもの自尊感情や家庭での役割意識の向上がうかがえたとの意見が寄せられている。

<課題>

- ・学校の授業時数確保や期間(3泊4日以上)に対する児童生徒・教員の負担感、また事業効果を十分周知できていないこと等から、実施校数が KPI を下回っている。
- ・事業実施時期の調整による青少年教育施設の有効的活用。

- ・市町村・学校訪問等により、広域市町村での合同実施や学校統合に伴う集団づくりへの本事業の効果を説明するとともに、体験活動の教育課程への位置づけ例、効果の高い活動プログラムや学校のニーズに応じたプログラムの提供を通じて、実施を働きかける。

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組⑤】</p> <p>高知市が設置する高知みらい科学館の運営支援を通じて、県内全域を対象とした理科教育・科学文化振興を図ります。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知みらい科学館運営事業（生涯学習課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：60,000人（H30） ・プラネタリウム観覧者数：20,000人（H30） ・科学館理科学習等利用学校数：120校（H30） 	<p>ア 県内全域を対象とした理科教育・科学文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の運営への参画 <ul style="list-style-type: none"> 県指導主事の派遣及び市職員との併任（4月～） 県市実務者レベルによる協議「科学館事業検討会」 <ul style="list-style-type: none"> 第一回開催（4/25）、第二回（6/21）、第三回（9/18）、第四回（10/10） 第五回（11/14）、第六回（12/12）、第七回（1/9） ・科学館で行う事業に全国的な視点を取り入れるための体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> 運営に意見を述べる「科学館協議会」委員の選任（4～5月） <ul style="list-style-type: none"> 第一回「科学館協議会」（7/6）、第二回（2/15） 中長期的な方向性に意見を述べる「科学館スーパーバイザー」の選任（6～7月） <ul style="list-style-type: none"> スーパーバイザーによる助言・関係者への講演会等 <ul style="list-style-type: none"> 小川義和氏（国立科学博物館参与・科学コミュニケーション分野） 10/20～21 小川正賢氏（東京理科大学教授・理科教育分野） 10/26～27 観山正見氏（元国立天文台台帳・宇宙天文分野） 11/23～24 ・開館に向けた高知市との協議等 <ul style="list-style-type: none"> さん SUN 高知7月号特集 ・当課職員による開館時の運営支援（7/24～8/5の間）
<p>【取組⑥】</p> <p>自然体験や環境学習を推進する指導者を養成し、学校や青少年育成団体等の求めに応じて派遣します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習推進事業（生涯学習課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動実施団体数：5団体 ・自然体験活動指導者育成数：24名 	<p>ア 自然体験・環境学習を推進する指導者の養成及び派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成研修等（自然体験活動企画担当者セミナー） <ul style="list-style-type: none"> 業務委託（6/25） セミナー開催（12/8・9） ・体験活動推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 実施団体募集（市町村、各種団体へ周知） 実施団体 <ul style="list-style-type: none"> 宿毛市立東中学校（7/12） 栲原学園（8/6） 高知市立江陽小学校（9/27） 四万十市立貝同小学校（12/1） 高知市立春野中学校（1/20） ボーイスカウト高知第8回（1/27、天候不良のため中止）

2 第2期高知県教育振興基本計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している学校の割合(当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した割合)【再掲】	・小：84.0% ・中：76.7%	・小：95.3% ・中：88.2%	・小：100% ・中：100%
地域学校協働本部が設置された学校数【再掲】	・小：115校 ・中：73校 ・義：2校	・小：154校（見込） ・中：86校（見込） ・義：2校（見込）	・小：150校以上 ・中：80校以上

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入館者数：204,086人 プラネタリウム観覧者数：36,915人 科学館理科学習等利用学校数：245校 ※上記数値は1月末時点 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 県が運営に積極的に関与する体制を構築できた。 開館から約 48 日で来館者数 10 万人を超えるなど、多くの県民の皆様に来館いただいております。プラネタリウムや「サイエンスショー」などに好評を得ています。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが何度も来館したくなる、また、科学への関心をより高め、ひいては、理系分野の科目にも興味を持ってもらうよう、設置者である高知市と連携して事業内容の更なる充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 派遣指導主事や併任職員、また、「科学館事業検討会」の定期的な開催により、科学館の運営に日常的に関与する。 開館後の状況や、「科学館運営協議会」での意見、「科学館スーパーバイザー」によるスーパーバイズを踏まえ、高知市と協議のうえ H31 年度事業計画を策定するとともに、さらなる事業内容の充実に向け、科学館の体制を強化する。
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験活動実施団体数：5団体 自然体験活動指導者育成数：25名 <p><成果></p> <p>体験活動実施校からは、来年度以降も事業の活用を希望する声が上がっている。PTA 事業での活用をチラシ等で周知した結果、5 団体中 3 団体が、保護者も交えた活動となった。</p> <p><課題></p> <p>育成した自然体験指導者の派遣先の開拓が必要。また、大人も子どもも自然体験離れが進んでおり、体験活動等の機会の創出も必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校、各施設団体への事業の周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や市町村教育委員会へのチラシの配付等により、体験活動の教育効果や重要性、PTA 行事等での活用について周知・啓発を行う。

	H29	H30	H31 目標値
放課後子ども教室及び放課後児童クラブの設置率 (小学校) 【再掲】	94.3%	95.8%	95%以上
県立青少年教育施設の利用者数 (小・中・高校生)	110,475 人	人	160,000 人以上

基本方向 8

生涯にわたって学び続ける環境をつくる

対策 (4)

「学び続ける」社会の実現に向けた学び直しの機能の強化

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組①】

「夜間主コース」の設置や社会人入試制度の導入により、働きながら学べる機能を拡充するとともに、公開講座や県民開放授業の開催、履修証明プログラム、科目等履修制度の充実によって、社会人のニーズに応じた多様な学習プログラムを提供するなど、大学における生涯学習、社会人教育の機能の更なる充実・強化を図ります。

県立大学等支援費（私学・大学支援課）

【取組②】

産学官民連携センターにおいて、ビジネスの基礎から応用・実践力まで、受講者のニーズやレベルに応じて体系的に身に付けられる産学官民連携によるビジネス研修「土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）」の充実・強化を図ります。

<取組のKPI>

H30 受講者数（延べ）3,000人

・高知県立大学文化学部夜間主コースの入学者の状況

H30 年度	定員	入学者数
推薦	10人	4人
社会人	20人	27人
3年時編入	3人	2人
合計	33人	33人

・公開講座等の開催状況（H30）

高知県立大学：2,530人（受講者延べ人数）
高知工科大学：720人（同上）

ア 体験講座や気軽に相談できる場を設ける「おためしMBA」の開催

- ・4/23 高知市（入門講座体験、商人塾体験、経営塾体験）：90人
- ・4/24 四万十市（入門講座体験・MBAカフェ）：15人
- ・4/26 安芸市（入門講座体験・MBAカフェ）：17人
- ・7/22,23 高知市（エグゼクティブコース体験）：25人
- ・8/30 高知市（入門講座体験・MBAカフェ）：24人

イ 本科・実科の各講座の募集開始（4月～）

ウ 各講座の開講

【本科】・経営戦略コース（5/25～7/21）：317人

・マーケティング・商品開発コース（6/7～7/10）：282人

・会計コース（6/6～8/20）：316人

・財務戦略コース（7/3～8/8）：296人

・情報ビジネスコース（9/7～10/27）：235人

・組織・人的資源マネジメントコース（9/6～11/16）：260人

・事業管理コース（10/12～11/7）：216人

・スキルアップセミナー（7/18～9/25）：179人

・ビジネストレンドセミナー（6/13～2/26）：278人

・エグゼクティブコース（9/27～2/14）：19人

【実科】・土佐経営塾（9/16～11/25）：18人

・目指せ！弥太郎商人塾（7/25～3/8）：12人

・商人塾短期集中セミナーin 幡多（6/28～10/25）：8人

・社内起業家（イントラプレナー）育成支援講座（7/11～9/18）：12人

・新事業創出講座（10/4～2/22）：18人

【専科】3,046人

<H30バージョンアップのポイント>

●情報発信の強化・学びを体験できる機会の提供

- ・おためしMBAを開催する。
- ・企業等への個別訪問、関係機関と連携したPRを強化する。

●ニーズに対応したカリキュラムへの再編

- ・入門講座を初心者にも興味を持っていただきやすい内容に統一する。
- ・演習や自社ビジネスに落とし込んで考える部分を強化する。
- ・事業戦略策定済企業のニーズに応じた講座の受講を推奨する。

●地域で学ぶ場づくり

- ・インターネットを活用して受講できる「サテライトプラットフォーム」「ネット受講」の仕組みを継続するとともに、企業へのPRを強化する。
- ・「目指せ！弥太郎商人塾」の短期集中セミナーを、幡多地域で試行的に開催する。

【参考】受講者数 H28実績(延べ)3,006人

H29実績(延べ)4,313人

対策
の
概要

誰もが学び続け、夢や志に挑戦できる社会の実現に向け、大学における学び直しの機能を拡充し、社会人の学びを支援します。また、地域や産業を支える人づくりに向け、起業を目指す人材養成のためのビジネス研修をはじめ、社会人や企業のニーズに応じた実践的・専門的な教育プログラムの充実・強化を図ります。

C 取組の成果・課題

A 今後の取組の方向

【成果】

- ・夜間主コースに多くの社会人学生が入学しており、働きながら学べる場として機能している。
- ・公開講座や履修証明プログラム、リカレント講座等を活発に開催することで、生涯学習、社会人教育の機能が強化されている。

【課題】

- ・広報活動の充実

- ・引き続き広報活動を積極的に行い、認知度を上げていく。

【KPIの状況】

土佐 MBA 受講申込者数 3,000 人/年度

<成果>

- ・受講者数 (見込) 5,683 人
- ・おためし MBA については、今まで土佐 MBA を受講したことのない方に多く受講していただき、実際の講座申込につながるなど、新たな受講者の掘り起こしができた。
- ・地域で学ぶ場づくりとして初めて実施した「商人塾短期集中セミナー in 幡多」は受講者が熱心に受講・修了して好評を得、地域での学びの機会につながった。

<次年度に向けての課題>

- 十分かつ的確な情報発信
 - ・社内の人材育成ニーズが相当程度存在しているが、情報が十分届いていない。
 - ・講座の内容が、実際以上にハードルが高く感じられている傾向がある。
- 事業戦略策定事業者のフォローアップと新たな事業創出に向けた支援強化
 - ・事業戦略策定企業等において、戦略策定・実行に当たってさまざまな課題あり。
 - ・多くの企業が「信用品・サービスの開発」「業務効率化・生産性向上」を経営課題として認識している。
- 地域での学びの意欲喚起と風土醸成
 - ・高知市以外の地域でも、学びの場を設ける必要がある。
 - ・学びと日々の業務の間に距離があり、受講に二の足を踏む方がまだまだ多い。

- 情報発信の強化・学びを体験できる機会の拡充
 - ・企業への個別訪問の強化、特に参加の少ない業種業界へのアプローチ強化
 - ・関係機関と連携した PR の強化
 - ・おためし MBA の拡充 (開催場所・回数増)
- 課題解決と事業成長につながる学びの場を充実
 - ・事業戦略フォローアップ講座の実施と企業等のニーズに応じた講座への誘導
 - ・社内起業家育成支援講座等でのアフターフォローの強化、新しい事業創出をテーマとした事業創出コースの新設
 - ・県内企業の生産性向上を図り事業を成長につなげるため、事業マネジメント・業務改善コースをリニューアル。
- 地域での学びの場の拡大
 - ・個人・小規模事業者向けに、学びの意欲を喚起するための実践的な講座「ナリワイセミナー」を東部地域、幡多地域で開催。

基本方向 9

文化芸術の振興と文化財の保存と活用を図る

対策 1- (1)

県民一人一人が文化芸術に親しむ環境づくりの推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																																																																																							
<p>【取組①】</p> <p>美術館をはじめとする県立文化施設において、質の高い文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、地域に向向いてのワークショップやクラシック音楽教室の実施などのアウトリーチ活動を通して、文化芸術を身近に感じてもらえる取組を推進します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城歴史博物館管理運営委託（文化振興課） ・美術館管理運営委託（文化振興課） ・歴史民俗資料館管理運営委託（文化振興課） ・坂本龍馬記念館管理運営委託（文化振興課） ・文学館管理運営委託（文化振興課） ・県民文化ホール管理運営委託（文化振興課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立文化施設への来館機会の創出（各館の年間観覧者数の目標(H30年度)） ・高知城歴史博物館：120,000人 ・美術館：50,000人 ・歴史民俗資料館：33,000人 ・坂本龍馬記念館：200,000人 ・文学館：25,000人 ・県民文化ホール：15,000人 	<p>県立文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの県立施設の管理・運営を指定管理者に委託し、様々な企画展示やホール事業、教育普及活動を実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>(利用者数)</th> <th>1月末時点</th> <th>(29年度実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知城歴史博物館</td> <td>92,810人</td> <td>(188,049人)</td> </tr> <tr> <td>美術館</td> <td>30,402人</td> <td>(102,966人)</td> </tr> <tr> <td>歴史民俗資料館</td> <td>19,705人</td> <td>(34,498人)</td> </tr> <tr> <td>坂本龍馬記念館</td> <td>182,202人</td> <td>(休館)</td> </tr> <tr> <td>文学館</td> <td>22,591人</td> <td>(22,055人)</td> </tr> <tr> <td>県民文化ホール</td> <td>196,460人</td> <td>(243,722人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・アウトリーチ活動を通じた取組（30年度実施予定（29年度実績））</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(高知城歴史博物館)</th> <th>(美術館)</th> <th>(歴史民俗資料館)</th> <th>(坂本龍馬記念館)</th> <th>(文学館)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前授業</td> <td>出前びじゅつ講座</td> <td>史跡めぐり・バスツアー</td> <td>出張派遣授業</td> <td>出前授業</td> <td>7校(4校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>出前クラシック教室</td> <td></td> <td></td> <td>紙芝居普及活動</td> <td>7校(4校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>出前演劇教室</td> <td></td> <td></td> <td>出張朗読会</td> <td>6校(5校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>児童生徒文学作品朗読コンクール</td> <td>3校(2校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2回(1回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4校(6校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10校(延59校)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40回(69回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3回(3回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>680人(916人)</td> </tr> </tbody> </table>	(利用者数)	1月末時点	(29年度実績)	高知城歴史博物館	92,810人	(188,049人)	美術館	30,402人	(102,966人)	歴史民俗資料館	19,705人	(34,498人)	坂本龍馬記念館	182,202人	(休館)	文学館	22,591人	(22,055人)	県民文化ホール	196,460人	(243,722人)	(高知城歴史博物館)	(美術館)	(歴史民俗資料館)	(坂本龍馬記念館)	(文学館)		出前授業	出前びじゅつ講座	史跡めぐり・バスツアー	出張派遣授業	出前授業	7校(4校)		出前クラシック教室			紙芝居普及活動	7校(4校)		出前演劇教室			出張朗読会	6校(5校)					児童生徒文学作品朗読コンクール	3校(2校)						2回(1回)						4校(6校)						10校(延59校)						40回(69回)						3回(3回)						680人(916人)
(利用者数)	1月末時点	(29年度実績)																																																																																						
高知城歴史博物館	92,810人	(188,049人)																																																																																						
美術館	30,402人	(102,966人)																																																																																						
歴史民俗資料館	19,705人	(34,498人)																																																																																						
坂本龍馬記念館	182,202人	(休館)																																																																																						
文学館	22,591人	(22,055人)																																																																																						
県民文化ホール	196,460人	(243,722人)																																																																																						
(高知城歴史博物館)	(美術館)	(歴史民俗資料館)	(坂本龍馬記念館)	(文学館)																																																																																				
出前授業	出前びじゅつ講座	史跡めぐり・バスツアー	出張派遣授業	出前授業	7校(4校)																																																																																			
	出前クラシック教室			紙芝居普及活動	7校(4校)																																																																																			
	出前演劇教室			出張朗読会	6校(5校)																																																																																			
				児童生徒文学作品朗読コンクール	3校(2校)																																																																																			
					2回(1回)																																																																																			
					4校(6校)																																																																																			
					10校(延59校)																																																																																			
					40回(69回)																																																																																			
					3回(3回)																																																																																			
					680人(916人)																																																																																			
<p>【取組②】</p> <p>県民一人一人が文化芸術活動に主体的に参加できる環境を更に整えます。また、高知城歴史博物館や坂本龍馬記念館など、県民が地域の歴史や文化に楽しみながら触れることができるとともに、新たなにぎわいを生み出すことができる施設を整備します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂本龍馬記念館整備事業（文化振興課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂本龍馬記念館の整備完了 	<p>県立文化施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂本龍馬記念館の整備が完了し、平成30年4月21日にグランドオープン 																																																																																							
<p>【取組③】</p> <p>学校等との連携により、各文化施設の特徴に応じた、地域の歴史学習や鑑賞活動を促進するとともに、出前授業や体験学習などのさまざまな学習機会を活用して、文化芸術活動を推進します。</p>	<p>教育普及活動</p> <p>※取組①のとおり</p>																																																																																							

**対策
の
概要**

県民一人一人が文化芸術に普段から親しむことにより、心豊かな人生を送ることができるよう、文化芸術に親しむ環境づくりを推進します。

C 取組の成果・課題	A 今後の取組の方向
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展やホール事業、教育普及事業を実施し、来館機会の創出に努めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出前授業等の取組を広げていくには、学校や教員の理解を得ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術振興ビジョンに基づき、幼少期から文化芸術に触れる機会の創出や児童生徒の文化芸術活動の促進につなげられるよう、各市町村の教育委員会や学校へ働きかける。 アウトリーチ活動を引き続き行う。
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 坂本龍馬記念館新館建築及び既存館改修工事の完了 	<ul style="list-style-type: none"> 県立文化施設として取組①をはじめ、企画展や関連事業を開催することにより、地域の歴史や文化に楽しみながら触れることのできる取組を行う。
<p>教育普及活動 ※取組①のとおり</p>	<p>教育普及活動 ※取組①のとおり</p>

基本方向 9

文化芸術の振興と文化財の保存と活用を図る

対策 1- (2)

文化芸術等を活用した地域活性化の推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>県民が自主的に文化芸術活動を行った成果としての発表会や、県民に優れた芸術活動の鑑賞機会を提供する「高知県芸術祭」を開催します。</p> <p>また、県内各地の民間団体が行う文化芸術活動を支援することにより、県民が文化芸術に親しむ環境づくりを推進します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術振興ビジョン推進事業（文化振興課） <p><取組の KPI></p> <p>文化人材育成プログラム受講者（H30）</p> <ul style="list-style-type: none"> アートビジネス講座（延べ 150 人） アートクリエイション講座（15 人） アートマネジメント講座（延べ 60 人） 	<p>1 文化芸術に触れる機会の充実</p> <p>(1) 発表の場の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種イベント（お城祭り、豊稷祭、クルーズ船寄港時等）における発表機会の創出のために関係機関と調整（随時、9月末：延べ 11 団体） <p>(2) 高知県芸術祭の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> チエコ・フィルハーモニー管弦楽団公演に向けた調整（4月～） →12/11開催 371人 Kochi Art Projects（14 事業）募集（5/31 締切） →15 事業採択 東京キャラバンの開催に向けた調整（9/16 開催） 地元アーティスト出演 5 団体・個人 <p>(3) 文化芸術団体の情報収集と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術ホームページ（芸事図鑑）の充実 62件 <p>2 人材の育成（文化人材育成プログラム）</p> <p>(1) アートビジネス講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術を観光振興や産業振興に生かすために必要なマーケティングや商品企画などの手法を具体的な実践事例を基に学ぶことができる講座を実施 →年 6 回 6/29（23 人）、7/27（15 人）、8/31（27 人）、10/5（18 人）、11/2（12 人）、12/7（8 人） <p>(2) アートクリエイション講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の力を産業振興に生かすため、文化芸術面における創造的な人材の育成を図る。具体的には、総合芸術である舞台演劇やショートフィルム等の制作体験を通じて、必要な技術や知識を習得する。さらに、アドバイザーのネットワークを生かし、全国の多様な文化人を招へいすることを通じて、本県人材とのネットワークづくりにつなげていく。 →募集（5月～、締切 5/18） 98 応募 ・オーディションの開催（5/26） →受講生の決定（16 名） ・講座①6/16、②7/13、14、③8/16、④9/17、⑤10/8、⑥10/21 オープン講座 ⑦11/24、⑧12/16、⑨1/26 <p>(3) アートマネジメント講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 芸術祭（KAP）などを核として、文化芸術と自然や歴史、産業等の幅広い分野をつなぎ、県内各地で文化芸術に触れる機会の創出を図ることのできる人材を育成する。 →年 5 回 6/30（43 人）、9/9（20 人）11/4（8 人）、1/27（8 人）、2/23 予定
<p>【取組②】</p> <p>山、海、川の豊かな自然から生まれた本県の文化や歴史、人を文化広報誌により県内外に向け積極的に発信していきます。高知県を新たな視点から紹介することにより、それぞれの地域への関心を高め、交流人口の増加や、観光・産業振興につなげていきます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化広報誌発行事業（文化振興課） 	<ul style="list-style-type: none"> 文化広報誌「とさぶし」の発行（7,9,12,3月） ・23号の発行（7/31） ・24号の発行（9/30） ・25号の発行（12/27） ・26号の発行準備（12/21、1/26 編集会議、3月末発行予定）

対策
の
概要

県民の文化芸術活動を支援するとともに、本県の文化芸術や歴史等を発信し、交流人口の増加や観光振興等につなげるにより、地域の活性化を推進します。

C 取組の成果・課題

A 今後の取組の方向

【課題】

- ・観光イベント等における発表の機会の創出のために必要な文化芸術団体に関する情報を一元化し、団体とイベント主催者が直接出演調整を行う
- ・芸術祭について、県民や文化芸術団体等へのさらなる周知
- ・文化人材育成プログラムの周知

【成果】

- ・本物の芸術や新しい文化を創出する機会を提供することで、県民の文化芸術に触れる機会の創出が図られた。

- ・県文化財団と連携し、情報の収集発信を行い、観光イベント等の主催者と文化芸術団体とのマッチングや発表の場の創出を図り、今後は団体とイベント主催者が直接調整を行うことができるよう、情報の一元化をさらに進める。

- ・芸術祭の助成事業や共催・協賛行事であることを周知するために芸術祭ロゴの使用の徹底を図る。

- ・協賛・共催事業や参加者の増加を目指し、高知県芸術祭の活性化を図る

本県の文化資源を活用したプログラムを構築し、文化芸術を産業につなげるなど、講座の充実を図る。

【成果】

- ・高知県ならではの文化や地域に埋もれた文化を広く県内外に発信。

【課題】

- ・県外イベント等での情報発信に関する効果の測定

- ・文化広報誌を活用した高知文化の発信

基本方向 9 文化芸術の振興と文化財の保存と活用を図る

対策 2- (1) 高知城の保存管理と整備の推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>高知城は、多くの建造物が建築後 200 年を超え、昭和の解体修理からも 60 年が経過しており、保全のための対応が必要な箇所が増加しています。このため、引き続き適切な維持修繕に取り組むとともに、南海トラフ地震に備えるための取組を進めます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城保存管理事業（文化財課） <p><取組の KPI></p>	<p>ア 高知城の適切な維持修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修理工事（控え柱修復 6/27 契約）→加工状況確認（9/20） ・台風 21 号（H29/10/22 接近）による梅の段北側石垣の修理積算施工監理委託(5/14 契約) 実施設計（6/28 契約）→工事費積算（9 月補正予算）→工事発注(12/12 契約) 発掘調査の委託（7/2 契約）→発掘調査実施 史跡高知城跡整備計画推進委員会石垣部会（8/1 開催） 史跡高知城跡整備計画推進委員会(1/18 開催) <p>イ 高知城の南海トラフ地震に備える取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知公園北出入口及び弘徳館北側斜面の保全に向けた検討（道路管理者協議 8/15） →国庫補助金配分確認(3/10 ヒアリング) ・前年度施工箇所の経過観察（保全状況の確認及び工法評価）→7 月初旬の豪雨では、異常なし ・石垣カルテ作成委託（7/2 契約）→現地調査（9/18～）
<p>【取組②】</p> <p>高知城を訪れる方々の満足度の向上を図るため、継続的な景観対策等を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城保存管理事業（文化財課） <p><取組の KPI></p>	<p>ア 高知城の継続的な景観対策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追手門大棟及び元藤並神社石垣の支障木の剪定（5/18 発注） ・専門家協議（8/3） →八幡宮跡北側支障木伐採(1/28 発注)
<p>【取組③】</p> <p>高知城の文化財的価値についての理解を深めるため、高知城歴史博物館と連携し、現地講座の開催や建造物内の説明看板の改修（多言語化）などの取組を行うとともに、重要文化財建造物の調査を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城保存管理事業（文化財課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城入場者数：年計画 270,000 人 	<p>ア 高知城歴史博物館と連携した現地講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの高知城探検開催（8 月 4 日） <p>イ 高知城アプリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までに利用の前提となる Wi-Fi ネットワークの整備（現地に表示） ・広報媒体（フライヤー原稿）の作成（行事での配付及び宿泊施設等への配付） ・ガイドボランティア団体への情報提供 ・おはようこうち（高知県広報番組）での P R(9/9) <p>ウ 重要文化財建造物の調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井工業大学調査資料の確認（大雨により中止→8/27 協議） 一國一城令までに建築された望楼型天守と異なる近代的な架構天守と本丸御殿が一体的な機能を持つ建造物として捉えることの検討 ※基本的な視点の整理 →県外博物館資料調査の実施（関係資料 2.6 点、うち近世資料 3 点）

対策の概要

次世代に高知城（国史跡・重要文化財）を良い状態で引き継ぐため、適正な管理や計画的な修理と併せて、継続的な景観の改善に取り組みます。
また、文化財的価値についての理解を深めるため、高知城歴史博物館と連携した取組や重要文化財建造物の調査を推進します。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

<p>【KPI の状況】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 高知城梅の段北側石垣の復旧に向けて、工事発注の準備を進めることができた。 前年度施工箇所は、問題なく経過は良好である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 施工時における文化財の保存 石垣解体修理範囲を最小限とした上で、オリジナルの石垣を保全する。石垣の一部の石の積み方が新しく、石垣背後の発掘調査で近代以降の時期を示す遺物が数点出土。これにより崩壊した石垣が近代以降に構築された可能性がある可能性が高いことが判明。 斜面保全工事の施工時及び竣工後の文化財及び景観や周辺への配慮 ①現状変更を最小限に留めること、②施工時及び竣工後の景観及び利用に配慮すること、③周辺交通への影響が見込まれることから、道路管理者などと十分な調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事（控え柱修復） 工事竣工（平成 31 年 3 月予定） 梅の段北側石垣の修理 工事竣工（平成 31 年 3 月予定） 斜面保全工事 道路管理者との協議 事業費積算（平成 31 年度予算） 国庫補助金申請(2/8) 石垣カルテ 測量及び現地調査 次年度調査計画の作成
<p>【KPI の状況】</p> <p><成果></p> <p>追手門の瓦と藤並神社石垣の破損を防ぐとともに、追手門を望む景観の維持が図られた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財や景観を保全するための樹木の管理（剪定、伐採）が必要であることの県民理解の促進。 <p>今回、崩壊した石垣の西側の石垣上に同規模の高木があり、石垣の変状が始まっていることから、早期に伐採する必要がある。→県民への広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> 専門家との協議（エリアごとの管理計画、剪定及び伐採対象の検討）に基づき、経費積算等の管理剪定実施に向けた作業を進める。 樹木区など関係者との意見交換を行い日常の剪定や除草など管理作業の技術向上に努めるとともに管理計画に対する意見募集を行い、継続的な景観管理作業の推進と理解促進につなげていく。 管理計画の県民への広報
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知城入場者数：302,410 人（1 月末）昨年度同月比 41,971 人増 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 高知城アプリは、新たな情報提供手段が整備できた。ダウンロード数が 499 回（12 月末）と少ないため、今後の丁寧な PR が大切。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 高知城に関する資料調査と分析のためには資料の整理等を行う必要がある。現在までのところ、高知城天守に関する検討資料は見つかっていない。県外博物館等調査範囲を拡大する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地講座の企画 次年度に向けて連携の取組を具体化できないが協議を行う。 高知城アプリの活用 広報に努め、利用の拡大を図る。 報告会の開催（3/24 開催予定） (内容) 県外博物館等資料の調査（江戸期の再建時の資料確認及び整理）で解った課題 先行して調査を進めている坂井市（丸岡城）の事例と類例調査などで明らかになった高知城の価値の報告

2 第2期高知県教育振興基本計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
高知城の入場者数	309,345人 (うち小・中・高校生 41,385人)		270,000人以上 (うち小・中・高校生 38,000人以上)

基本方向 9 文化芸術の振興と文化財の保存と活用を図る

対策 2- (2) 文化財の保存と活用の推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																		
<p>【取組①】</p> <p>国・県指定文化財の保存と活用を図るため、文化財に関する専門知識を持つ文化財保護指導員や市町村教育委員会と連携した文化財に対する巡視活動等に基づき、文化財の保存上必要な事業に対する財政的支援や技術的指導を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財管理調査事業（文化財課） <p><取組の KPI></p>	<p>ア 文化財保護指導員や市町村教育委員会と連携した文化財の巡視活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護指導員（各地域の文化財専門家による巡視活動：44 名委嘱）の推薦依頼→文化財巡視を実施中 文化財保護指導者講習会（6/21 開催 113 名参加） ※参加対象者：文化財保護指導員及び市町村教育委員会文化財担当者 市町村担当者会（9/13 49 名参加）文化財保護法改正について研修 文化財保護連絡協議会研修会（11/26 開催 111 名参加） <p>イ 文化財の保存上必要な事業に対する財政的支援・技術的指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付決定 <table border="1"> <tr> <td>4月 1日</td> <td>18 団体 18 事業</td> <td>34,918 千円交付決定</td> </tr> <tr> <td>4月 13日</td> <td>12 団体 15 事業</td> <td>2,636 千円交付決定</td> </tr> <tr> <td>6月 22日</td> <td>2 団体 3 事業</td> <td>3,106 千円交付決定</td> </tr> <tr> <td>10月 5日</td> <td>1 団体 1 事業</td> <td>242 千円交付決定</td> </tr> <tr> <td>1月 8日</td> <td>2 団体 2 事業</td> <td>96 千円交付決定</td> </tr> <tr> <td>1月 17日</td> <td>1 団体 1 事業</td> <td>227 千円交付決定</td> </tr> </table>	4月 1日	18 団体 18 事業	34,918 千円交付決定	4月 13日	12 団体 15 事業	2,636 千円交付決定	6月 22日	2 団体 3 事業	3,106 千円交付決定	10月 5日	1 団体 1 事業	242 千円交付決定	1月 8日	2 団体 2 事業	96 千円交付決定	1月 17日	1 団体 1 事業	227 千円交付決定
4月 1日	18 団体 18 事業	34,918 千円交付決定																	
4月 13日	12 団体 15 事業	2,636 千円交付決定																	
6月 22日	2 団体 3 事業	3,106 千円交付決定																	
10月 5日	1 団体 1 事業	242 千円交付決定																	
1月 8日	2 団体 2 事業	96 千円交付決定																	
1月 17日	1 団体 1 事業	227 千円交付決定																	
<p>【取組②】</p> <p>県保護有形文化財旧岡家住宅のバックアップ</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財管理調査事業（文化財課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 第一四半期に保存修理設計委託 第二四半期に保存修理工事発注 第四四半期に主屋の修理完了 	<p>ア 県保護有形文化財旧岡家住宅（西の岡）の修理を田野町へ要請（H29/9/21、11/8）→文化財保存助成事業で平成 30・31 年度の 2 カ年をかけて修理を行う。</p> <p>イ 保存修理に係る設計書・仕様書の打ち合わせ（4/11）</p> <p>ウ 保存修理実施設計ができ、保存修理発注準備の打ち合わせ（10/19）</p> <p>エ 保存修理工事の入札（3 度）を行うが施工業者が決まらず、補助金の増額変更（12/6）</p> <p>オ 今後の執行について打ち合わせ（1/28・31）</p>																		

対策
の
概要

国・県指定文化財の保存上必要な事業に対する財政的支援や技術的指導を行うとともに、不足している文化財建造物に関する専門的知識を持つ人材を育成することや、文化財の計画的な調査を実施することにより、文化財的価値の向上に資する文化財の保存と活用を推進します。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPI の状況】

<成果>

保存修理等を実施中

<課題>

・文化財を継承する地域の人口減少など活力の低下に加え市町村に文化財専門職員が少なく、地域の文化財保護活動の担い手育成が重要である。
 研修内容等について、参加者から要望が寄せられており、研修計画に反映させる。
 また、市町村担当者会については、昨年度は 25 市町村 30 名の参加であったが、30 市町村 49 名と改善した。文化財保護連絡協議会研修会は、昨年度 30 市町村 108 名が 26 市町村 111 名となり、参加者は増えたものの参加市町村が減少している。今後とも、日程及び会議の内容を工夫するとともに、日常業務における連携を密にして参加の呼びかけを強める。

- ・文化財保護指導者講習会や研修会の内容を受講者の要望も踏まえ見直すとともに、参加者増に向けて、市町村等に働きかけを強める。
 また、巡視などの日常活動の実施状況を丁寧に把握し、破損箇所等の早期発見による迅速な修理の実施、保存活動の現状把握を行い効果的な助言を行うこと、また、地域住民との連携強化により地域における保護活動の活性化につなげる。
- ・市町村の文化財保護審議会委員を対象とした研修会を開催し、文化財保護の専門知識を持った人材の育成を進める。
- ・文化財保護法改正 (H31/4/1) 施行にむけて、県条例の改正 (2 月議会予定) 及び大綱策定 (平成 31 年度予定) に向けた準備を進める。

【KPI の状況】

- ・保存修理工事発注の業者が未決定
- ・主屋の修理を繰越し、工期を平成 31 年 10 月上旬に変更

<成果>

・保存修理調査の結果、建築当時の状況が判明した。

<課題>

来年度の蔵・付属棟の保存修理工事について、実施設計額が地盤改良を含め倍増となり、蔵・付属棟の保存修理の見通しが立たなくなった。町としては主屋のみを保存修理する方針
 期間がかかっても保存修理を行って貰うよう再度町に要請する。

4 月頃主屋の保存修理工事発注

10 月上旬に主屋の修理完了

蔵・付属棟の保存修理を要請

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組③】</p> <p>文化財を保存し後世に伝えるとともに、その価値についての理解を深めるため、計画的な調査と文化財指定等を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財管理調査事業（文化財課） <p><取組のKPI></p>	<p>ア 文化財の計画的な調査と文化財指定等</p> <p>※既指定文化財について、衰亡や管理上の課題のあったものについて現地確認及び対策の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国史跡・天然記念物 龍河洞の公開活用協議(4/26)→文化庁指導(2/7) 国特別天然記念物カモシカ合同調査委員会(5/9,10/10.11,2/4) 国特別天然記念物オオサンショウウオ生息地調査 (5/23,9/20) 関係者及び専門家協議 (8/9) 県天然記念物 吾北村のヤブツバキの現地確認 (5/1) →指定解除の諮問 (8/8 文化財保護審議会) →指定解除 (9/21) 県保護有形文化財 旧赤岡町の土佐芝居絵屏風調査立会 (4/17) 調査報告書提出 (5/20) →応急修理終了 (11/25) 大川上美良布神社社殿修理状況確認(4/18,5/11) <p>新指定に向けた調査 木毘沙門天立像 (5/24 長法寺 四万十市) →指定見送り</p> <p>・台風被害を受けた文化財への対応</p> <p>現地調査を実施し、所有者と修理について協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 国重要文化財 朝倉神社 県保護有形文化財（建造物）修理協議 (4/13) 補助金交付決定 (6/23) 大川上美良布神社社殿の応急修理費用に対し、補助金の交付 (4/1) →修理完了 (12/17) <p>旧陸軍歩兵第44連隊跡地</p> <p>文化庁及び財務省と跡地の保存活用について協議を実施</p> <p>・平成31年度立ち上げ予定の事業調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ●民俗芸能調査（専門家協議 6/5,7/26,9/10）→市町村担当者会で事業説明 地教連教育長会議で事業説明 <p>調査準備委員の選任等の調整→国庫補助金交付申請(2/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐神社本殿・幣殿・拝殿屋根及び楼門修理、朝倉神社本殿屋根修理調整 (10/17~19) →国庫補助金交付申請(2/8) <p>・文化財の公開</p> <p>「明治元年の日本と土佐」（高知県立高知城歴史博物館 3/21~5/28）</p> <p>国宝 1件（3点）、重要文化財 3件（3点）</p>

2 第2期高知県教育振興基本計画における指標の状況

※計画における指標の設定なし

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組
<p>【KPI の状況】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の現状調査を一部であるが、実施できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> カモシカの特別調査については、新たな項目である下層植生調査及び自動撮影調査の設計を専門家の指導の下、実施方法の調整が必要。 新たに指定対象となる文化財の調査検討を進める必要がある。 オオサンショウウオについては、生息地の保全を図りつつ、工事関係者への情報公開や県民に対する周知が必要。また、移入個体との指摘があり、遺伝子解析を国立科学博物館で実施中。 旧陸軍歩兵第 44 連隊跡地について、弾薬庫及び講堂登録有形文化財又は県保護有形文化財（建造物）に相当するとの答申を受けたこととこの場所の刻んだ歴史を踏まえ、保存活用の検討及び財務省と財産に関する協議を進める必要がある。調査を実施した物件については、平成 30 年度第 2 回の文化財保護審議会に向け、調査結果をもとに指定の可否を判断する資料を作成する必要がある。 既指定文化財の適切な保存及び活用を進める必要がある。昨年台風 21 号により被災した文化財もあり、文化庁や専門家の指導を受け、早期復旧を図る必要がある。また、平成 31 年度の事業化が必要な物件については、早期調査を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定対象となる文化財の検討 →第 2 回文化財保護審議会の開催 協議された課題や本年度の指定候補案件について検討を進める。 保存に課題のある文化財の現地確認と対策の実施。 巡視で課題を確認したものについて、現地確認 民俗芸能調査の準備 関係者との調整、調査体制、方法の検討 市町村との事前調整 オオサンショウウオの保護について文化庁の現地指導要請 カモシカ特別調査委員会の開催（現地調査） 室戸市開催予定（3月開催予定） 平成 31 年度実施予定の保存修理等の事前調整を図る。 旧陸軍歩兵第 44 連隊跡地の土地の歴史などの調査を進め、保存に向けた検討を進める。

基本方向 9 文化芸術の振興と文化財の保存と活用を図る

対策 2- (3) 埋蔵文化財の発掘調査・保護の推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を円滑に行うため、事前の試掘確認調査を実施するとともに、関係機関と十分に連携します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財発掘調査事業（文化財課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 試掘確認調査実施日数：年計画 54 日 	<p>ア 開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のための事前試掘確認調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 県道奈比賀川北線に伴う試掘確認調査を実施(5/18~5/22 安芸市奈比賀)し、工事着手に支障が無いと判断した。 県道右山角崎線に伴う試掘確認調査(5/29,6/1,8/27,8/28 四万十市角崎)の実施 安芸道路建設に伴う試掘確認調査(9/11,9/12,9/14,9/18 安芸市伊尾木)の実施 県道窪川船戸線建設に伴う試掘確認調査(10/25,10/26 中土佐町大野見)の実施 南国安芸道路に伴う試掘確認調査(6/13~6/15 芸西村和食中地区)の実施 県道大久保伊尾木線に伴う試掘確認調査(7/26~7/27)の実施 安芸道路建設に伴う試掘調査(12/10,12/11,1/16,1/18,1/21 香南市西野)の実施 <p>イ 発掘調査の円滑化のための関係機関との十分な連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 県道奈比賀川北線(関係機関:安芸土木事務所) 県道大久保伊尾木線(関係機関:安芸土木事務所) 県道右山角崎線(関係機関:幡多土木事務所) 若宮ノ東遺跡(関係機関:中央東土木事務所) 高田遺跡(関係機関:四国地方整備局土佐国道事務所)
<p>【取組②】</p> <p>埋蔵文化財の適切な保存と活用を図るため、発掘調査で出土した遺物は、埋蔵文化財センターで適切に保存するとともに、各種講座や市町村と連携した地域展等を開催します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財センター管理運営事業（文化財課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財センター入館者数：年計画 3,700 人 	<p>ア 埋蔵文化財センターにおける出土遺物の適切な保存</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28・29 年度に実施した発掘調査によって出土された遺物についての洗浄・註記・実測・トレース、現場図面をもとに製図等の整理作業 ※高田遺跡、若宮ノ東遺跡、高知城跡北曲輪 <p>イ 埋蔵文化財に関する各種講座や市町村と連携した地域展等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報普及事業 企画展等展示会「花ひらく天平の器たち」の開催(4/29~7/6) 出前考古学教室【計画:当期 60 校/年 70 校】 (67 校 延べ 2,159 人) (1 月末) 公開講座の実施【計画:年 70 回】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 親子考古学教室【30/32 回】(7/29:台風のため中止) 古代ものづくり【16/20 回】 考古学から学ぶ史跡の見方【3/4 回】 先生のための遺跡調査入門講座【3 回】 遺跡解説会【3 回】 まいぶんセンターまつり【11/11(301 人)】 巡回展「四国の彩り」【7/16~9/21】 </div> <p><今後の予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展「土佐 焼物のなりわい」【10/14~3/29】 地域展「安芸市の遺跡展」【安芸市歴史民俗資料館(2/2~3/3)】

2 第 2 期高知県教育振興基本計画における指標の状況

※計画における指標の設定なし

対策
の
概要

開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を円滑に実施し出土遺物を保存するとともに、市町村との連携により地域の歴史や文化を知る機会を設けるなど、埋蔵文化財の発掘調査や保護を推進します。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組

【KPI の状況】

・試掘確認調査実施日数：23日(1月末)

<成果>

・早めに情報収集ができたことにより、事業者にとっては事業着手がスムーズにできることとなった。

<課題>

・開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を円滑に行うに当たっては、その必要性の有無を把握するための事前試掘確認調査として、当該計画区域内外の用地境界、工程、方法、以降の手続き等について関係機関や地元自治体と十分に調整する必要がある。

・引き続き関係機関等と十分に連携し、事前試掘確認調査及び発掘調査を円滑に実施していく。

【KPI の状況】

・埋蔵文化財センター入館者数：9,219人(1月末) 昨年度当月比182人減

<成果>

・若宮ノ東遺跡(南国市)の調査成果に係る県民に向けた現地説明会が10/14(日)に開催され、80名の参加者があった。【県内で初めて平安時代の白磁碗が出土し、弥生時代後期以降の遺構などが確認された】

・高田遺跡(吾南市)の調査成果に係る県民に向けた現地説明会が12/16(日)に開催され、95名の参加者があった。【古代官道とみられる県内最大の道路遺構の確認。道幅約10mの直線道路で律令国家が整備した南海道の一部の可能性。】

<課題>

・埋蔵文化財センターの知名度は向上してきているものと思われるが、更に、埋蔵文化財に関する核となる施設として調査研究や埋蔵文化財に対する関心や親しみが広がるよう努める必要がある。

・各種講座等の企画や実施について、さまざまな広報ツールを活用して積極的に情報提供するとともに地域や歴史教育に欠くことのできない施設であることを一層アピールしていく。

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 1- (1) 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組①】

総合型地域スポーツクラブ等を、各市町村のスポーツ活動の拠点「地域スポーツハブ」として育成し、地域のニーズに応じた公益性の高いスポーツ活動の展開を支援することにより、地域スポーツを通じたビジネス化の促進や地域におけるスポーツ活動の活性化につなげます。
また、地域スポーツハブ等の運営を中心的に担い、スポーツ活動の企画・運営・調整等を行う「地域スポーツコーディネーター」を育成します。

<具体的な事業>

- ・地域スポーツハブ展開事業（スポーツ課）
- ・地域スポーツコーディネーター等養成塾（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標 4）
- ・促進委員会の開催（全 5 回予定）
※設置後に促進委員会にて地域のスポーツ資源やニーズについて情報共有を行い、各ハブで取組決定→KPIに反映

ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実

①地域スポーツハブの設置に向けた説明会の開催

- ・土佐市（5 回実施）
- ・南国市（5 回実施）
- ・土佐清水市（4 回実施）
- ・四万十町（6 回実施）
- ・合同説明会（5/21）

②地域スポーツコーディネーターの配置

- ・土佐市（総合クラブとさ）：4 月
- ・土佐清水市（スポーツクラブスクラム）：7 月
- ・南国市（まほろばクラブ南国）：7 月

③促進委員会の開催

- ・土佐市(2 回実施)・南国市(6 回実施)・土佐清水市(4 回実施)

④事業の実施

1) 地域スポーツハブ事業

- ・土佐市【3 事業(12 回)】・土佐清水市【4 事業(7 回)】・南国市【1 事業(1 回)】

2) 地域スポーツハブ（広域型）事業

- ・遊びの広場（南国市：11/23、越知町：1/21）

イ 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

- ・養成塾の実施

日程	テーマ	講師
第1回 (7/21)	総論	中島 勝海(県スポーツ課長)・黒須 充(順天堂大学)
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎 I	講師 長積 仁(立命館大学) 松永 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎 II	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 春香(香川県体育協会)
第4回 (9/22)	地域における総合型 SC の役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 泰子(高知大学)
第5回 (10/13)	NPO法人事務 (法改正、会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他
第6回 (12/1)	NPO法人事務 (税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)
第7回 (11/12)	NPO法人事務 (法務・労働基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)
第8回 (2/2)	ファンドレイジング (資金調達)	東森 歩(ファンドレイジング・マーケティング)

【取組②】

1 つの市町村では解決できないスポーツ活動の課題を、広域のスポーツ関係者等が連携して解決する「広域スポーツエリアネットワーク」による取り組みを支援します。

<具体的な事業>

- ・広域エリアネットワーク促進事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの参加者数（H29 年度比 5 % 増）
- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの、開催市町村以外からの参加者数（H29 年度比 5 % 増）

ア エリアごとの取組の推進

①物部川・嶺北地区

- ・エリアネットワーク会議（4/27、11/27）
- ・事業開始（7 月～）

②高岡・吾川地区

- ・第 1 回エリアネットワーク会議に向けた打合せ会議（5/9）
- ・H30 年度事業「ソフトボール教室」事業日程等調整会議（5/12）
- ・エリアネットワーク会議（5/24、2/21）
- ・事業開始（7/25～）

③幡多地区

- ・エリアネットワーク会議（6/8、8/20、11/29）
- ・事業開始（7/29～）

対策の概要

既存の総合型地域スポーツクラブ等を核として地域のスポーツ活動の拠点「地域スポーツハブ」の育成を進めるとともに、多分野の関係者の連携による取組を支援することにより、民間活力やノウハウ等を活用したスポーツの産業化を目指し、地域の実情や地域住民の多様なニーズに応じたスポーツ活動の充実を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点

【KPIの状況】

- ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4）
設置数：3（土佐市、南国市、土佐清水市）※四万十町は調整中
- ・促進委員会の開催（全5回予定）
土佐市：2回（7/18、10/22）
南国市：6回（7/20、8/20、9/18、10/16、11/12、1/29）
土佐清水市：4回（7/27、9/28、11/15、1/31）
※H31.3月に最終確認

<成果>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
 - ・3市町で地域スポーツハブが設置され、促進委員会が開催された。
 - ・土佐市、土佐清水市、南国市では、促進委員会からの提案に基づき事業が実施された。
 - ・HP、SNS等による情報発信が各地域スポーツハブで行われた。
 - ・県体育協会事業として地域スポーツハブ事業（広域型）が2地域で実施された。

イ 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

- ・今年度から県体育協会に配置されたクラブアドバイザーと連携し、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー育成に向けた研修会を実施し、受講者から高い評価があった。また、10名がアシスタントマネージャー資格試験に合格した。

<課題>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
 - ・新規連携先の開拓
 - ・収集するスポーツ情報の内容の精査・拡充
 - ・効果的な情報発信の方法
 - ・情報収集に基づいた事業の磨き上げ
 - ・四万十町の地域スポーツハブ立ち上げに向けたコーディネーターの確保

イ 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

- ・参加者の継続的な確保と拡大

【KPIの状況】

- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの参加者数（H29年度比5%増）
※H31.3月に最終確認
- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの開催市町村以外からの参加者数（H29年度比5%増）
※H31.3月に最終確認

<成果>

- ・各エリアで本年度の事業が実施された。

<課題>

- ①物部川・嶺北地区
 - ・事業不参加市町に向けた31年度事業参加に向けた働きかけ
- ②高岡・吾川地区
 - ・事業情報拡散ルートの確立
- ③幡多地区
 - ・事業に関する諸規程の整理・確認

A 今後の取組の方向

ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実

- ・事業参加企業拡大に向けた企業訪問の実施
- ・スポーツ情報やニーズの調査対象の拡大
- ・HPやSNS等情報発信ツールの活用方法の検討
- ・効果的な情報発信ルートの開拓
- ・収集した情報の整理・分析
- ・市、町のニーズや特性に基づく効果的な事業展開の立案
- ・事業実施に向けた関係団体との調整
- ・本年度事業の評価
- ・各地域スポーツハブにおける次年度事業計画の作成
- ・次年度地域スポーツハブ候補団体の選出
- ・各地域スポーツハブにおいて児童・生徒のスポーツ環境拡充に向けた取り組み
- バドミントン体験教室等の実施

イ 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

- ・参加者増に向けたクラブ関係者等への広報活動の充実
- ・事業の評価と次年度計画の立案

日程	テーマ	講師
第1回 (7/21)	総論	中島 勝博(県スポーツ課長)・ 黒須 宏(順天堂大学)
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎I	講師 長瀬 仁(立命館大学) 松本 敏子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎II	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山崎 孝幸(香川県体育協会)
第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 純秀(総合型スポーツクラブピロレット) 常行 泰子(高知大学)
第5回 (10/13)	NPO法人事務 (法改正・会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他
第6回 (12/1)	NPO法人事務 (税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)
第7回 (1/12)	NPO法人事務 (法務・労務基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)
第8回 (2/2)	ファンドレイジング (資金調達)	東森 歩(ファントレイジング・マーケティング)

- ・地域スポーツ活動の活性化に向けた取り組みを継続して実施する。

<物部川・嶺北地区>

- ・事業実施（7月～）
- ・エリア会議（3月）

<高岡・吾川地区>

- ・事業実施（7月～）

<幡多地区>

- ・事業実施（7月～）
- ・エリア会議（3月）

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

総合型地域スポーツクラブの質的向上と自立的運営を促進するため、県体育協会が行う総合型地域スポーツクラブの創設から自立までを一体的に支援するクラブアドバイザーや、総合型地域スポーツクラブの運営の核となるクラブマネージャーの育成を支援します。

<具体的な事業>

- ・地域スポーツコーディネーター養成塾（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・アシスタントマネージャー資格新規取得（4人）
- ・コーディネーター養成塾への延べ参加者数（120人）

**ア 地域のスポーツ活動を支える人材の育成
・育成塾の実施**

日程	テーマ	講師
第1回 (7/21)	総論	中島 勝海(県スポーツ課長)・ 黒須 充(順天堂大学)
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅰ	講師 長積 仁(立命館大学) 松永 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅱ	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 春香(香川県体育協会)
第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 泰子(高知大学)
第5回 (10/13)	NPO法人事務 (法改正、会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他
第6回 (12/1)	NPO法人事務 (税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)
第7回 (1/12)	NPO法人事務 (法務・労働基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)
第8回(2/2)	ファンドレイジング (資金調達)	東森 歩(ファントレイジング・マーケティング)

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
総合型地域スポーツクラブの会員数	7,726人		8,500人以上
運動やスポーツを行っているが、もっと行いたいと思う人の割合	25.2% (H28)		30%以上
運動やスポーツに関心が無い人の割合	13.3% (H28)		10%以下
各地域スポーツハブでのスポーツ活動数	-		地域スポーツハブ立ち上げから3年後のスポーツ活動数が、立ち上げ年度比で10%増

C 取組の成果・課題

【KPIの状況】

- ・アシスタントマネージャー資格新規取得（4人）
 ※資格試験合格者10名（10名受験）
- ・コーディネーター養成塾への延べ参加者数（120人）
 ※延べ77名

<成果>

- ・今年度から県体育協会に配置されたクラブアドバイザーと連携し、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー育成に向けた研修会を実施し、受講者から高い評価があった。また、10名がアシスタントマネージャー資格試験に合格した。

<課題>

- ・参加者の継続的な確保と拡大

A 今後の取組の方向

- ・各講座の実施
- ・参加者増に向けたクラブ関係者等への広報活動の充実

日程	テーマ	講師
第1回 (7/21)	総論	中島 勝洋(県スポーツ課長)・ 黒須 孝(順天堂大学)
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅰ	講師 長瀬 仁(立命館大学) 松水 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅱ	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 聖香(香川県体育協会)
第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピポットフット) 常行 泰子(高知大学)
第5回 (10/13)	NPO法人事務(法改正・会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他
第6回 (12/1)	NPO法人事務(税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)
第7回 (12/12)	NPO法人事務(法務・労働基準)	加藤 彩子(岡山NPOセンター長)
第8回(2/2)	ファンドレイジング(資金調達)	東森 歩(ファウンディング・マーケティング)

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 1-(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

7 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>幼児期の運動機会を増やすため、モデル園に運動遊びを専門的に指導できる人材を派遣し、その実践活動の普及を図るとともに、家庭において親子で運動遊びを楽しむことができる教室の実施などの取組を推進します。</p> <p>また、運動遊びコーディネーターを養成するための研修会や「幼児期運動指針」に沿った理論と実技を学ぶことができる研修会の開催など、運動遊びの指導ができる人材の育成に取り組みます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の身体活動推進事業（保健体育課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル園において、幼児期運動指針の趣旨を生かした取組が実践される。 ・運動遊びコーディネーター研修会の参加者 50名以上。 	<p>ア 保育園・幼稚園等への運動遊びを専門的に指導できる人材の派遣</p> <p>①研究指定園（4園）による「幼児期運動指針」に基づく運動遊びの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的指導者による研究指定園への訪問 浜改田保育園：4/27、5/22、7/10、9/18、11/18 城南保育園：4/24、5/9、9/11、10/31、12/4 日の出保育園：4/26、5/18、8/10、10/12、11/30 池川保育園：4/25、6/9、7/25、10/29、11/13 <p>②親子で楽しむ運動遊び事業【計画：県内8か所】</p> <ul style="list-style-type: none"> たちばな幼稚園ホール（6/10） 芸西小学校体育館（6/19） 松葉川保育所ホール（6/26） 芸西村民会館ホール（6/30） 佐賀保育所遊戯室（11/8） 栲原こども園ホール（11/13） 大方中央保育所（11/14） 四万十町大正体育館（1/18） <p>③運動遊びコーディネーター研修会の開催</p> <p>8/27 講師は吉田伊津美氏（東京学芸大学教授） 要項を県内幼稚園、保育所、こども園等に配布済。</p>
<p>【取組②】</p> <p>地域スポーツハブや総合型地域スポーツクラブ等が提供するスポーツ活動が、子どもから高齢者、子育て世代、職場、女性、障害者などの多様なニーズに応じた取組として拡充するよう支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツハブ展開事業（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4） ・促進委員会の開催（全5回予定） <p>※設置後に促進委員会にて地域のスポーツ資源やニーズについて情報共有を行い、各ハブで取組決定→KPIに反映</p>	<p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <p>①地域スポーツハブの設置に向けた説明会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市（5回実施） ・南国市（5回実施） ・土佐清水市（4回実施） ・四万十町（6回実施） ・合同説明会（5/21） <p>②地域スポーツコーディネーターの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市（総合クラブとさ）：4月 ・土佐清水市（スポーツクラブスクラム）：7月 ・南国市（まほろばクラブ南国）：7月 <p>③促進委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市（2回実施）・南国市（6回実施）・土佐清水市（4回実施） <p>④事業の実施</p> <p>1) 地域スポーツハブ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市【3事業（12回）】・土佐清水市【4事業（7回）】・南国市【1事業（1回）】 <p>2) 地域スポーツハブ（広域型）事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの広場（南国市：11/23・越知町：1/21）

対策の概要

地域の実情や多様なニーズに応じたスポーツ環境の充実に向けて、地域スポーツハブ等が核となって行う取組を支援するとともに、多様なスポーツ活動への参加機会の拡充を図ります。また、運動遊びコーディネーターを養成するための研修会や「幼児期運動指針」に沿った理論と実技を学ぶことができる研修会の開催など、運動遊びの指導ができる人材の育成に取り組みます。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPIの状況】

- ・モデル園において、「幼児期運動指針」の趣旨を生かした取組が実践される。
※指導主事等の訪問により、指導者の指導方法の姿容を観察する。
- ・運動遊びコーディネーター研修会の参加者 50 名以上。
参加者 25 名

<成果>

モデル園では、保育士への質問紙調査から、日々の保育において、「様々な遊びに取り組む」「子どもの発達特性を考慮した遊びを取り入れる」「運動遊びを子どもたちを決めさせる」といった、多様な動きの経験や主体的な活動を促す取組が進んでいる。

<課題>

講師依頼作成：県内の幼稚園、保育所、認定こども園において、国が作成した「幼児期運動指針」に基づく運動遊び指導の在り方の周知や保育士や教員の指導力を高める対策が必要である。

研修会の参加者数を増やす工夫が必要である。

幼児期に関する研修会の実施については、教育センターと連携して合同開催することにより、受講をしやすいとして、保育士や教員の指導力向上に取り組む。

【KPIの状況】

- ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標 4）
設置数：3（土佐市、南国市、土佐清水市）※四万十町は調整中
- ・促進委員会の開催（全 5 回予定）
土佐市：2 回（7/18、10/22）
南国市：6 回（7/20、8/20、9/18、10/16、11/12、1/29）
土佐清水市：4 回（7/27、9/28、11/15、1/31）
※H31.3 月に最終確認

<成果>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- ・3 市町で地域スポーツハブが設置され、促進委員会が開催された。
 - ・土佐市、土佐清水市、南国市では、促進委員会からの提案に基づき事業が実施された。

HP、SNS 等による情報発信が各地域スポーツハブで行われた。
県体育協会事業として地域スポーツハブ事業（広域型）が 2 地域で実施された。

<課題>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- 新規連携先の開拓
 - ・収集するスポーツ情報の内容の精査・拡充
 - ・効果的な情報発信の方法
 - ・情報収集に基づいた事業の磨き上げ
- 四万十町の地域スポーツハブ立ち上げに向けたコーディネーターの確保

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- ・事業参加企業拡大に向けた企業訪問の実施
 - ・スポーツ情報やニーズの調査対象の拡大
 - ・HP や SNS 等情報発信ツールの活用方法の検討
 - ・効果的な情報発信ルートの開拓
 - ・収集した情報の整理・分析
 - 市、町のニーズや特性に基づく効果的な事業展開の立案
 - ・事業実施に向けた関係団体との調整
 - ・本年度事業の評価
 - 各地域スポーツハブにおける次年度事業計画の作成
 - ・次年度地域スポーツハブ候補団体の選出
 - ・各地域スポーツハブにおいて児童・生徒のスポーツ環境拡充に向けた取り組み
→バドミントン体験教室等の実施

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

運動部活動の指導者の資質向上のための取組や、優秀な外部指導者の招へいなどにより、運動部活動の更なる充実を図ります。

<具体的な事業>

- ・運動部活動サポート事業（保健体育課）
- ・運動部活動指導員派遣事業（保健体育課）

<取組のKPI>

- ・市町村立中学校では、市町村教育委員会が策定する「運動部活動の方針」に則り、「部活動の活動方針」を策定し、その活動方針に沿った運営をしている中学校の割合 100%
- ・県立学校では、県が策定した「運動部活動ガイドライン」に則り、「部活動の活動方針」を策定し、その活動方針に沿った運営をしている学校の割合 100%

ア 外部指導者等の招へい

①運動部活動サポート事業

- ・派遣校 ・ 高校 17校 58部(40名)
- ・ 中学 30校 92部 (55名)

②運動部活動指導員派遣事業

- ・派遣校 ・ 高校 11校 (14部 14名)
- ・ 特別支援学校 1校 (1部 1名)
- ・ 中学校 5校 (8部 8名)

【取組④】

「高知龍馬マラソン」、「県民スポーツフェスティバル」、「レクリエーション大会」など、県民の誰もが参加しやすいスポーツイベントを開催することを通じて、スポーツ活動への参加機会を提供します。

<具体的な事業>

- ・高知龍馬マラソン（スポーツ課）
- ・県民スポーツフェスティバル（スポーツ課）
- ・全国レクリエーション大会（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・高知龍馬マラソン：1万人規模の大会継続
- ・県民スポーツフェスティバルへの参加者数（H29年度比5%増）
- ・全国レクリエーション大会参加者数：5,000人以上

ア スポーツイベントの開催

①高知龍馬マラソンの開催

- ・ファンラン種目に関する協議（4月～）
- ・他県大会の聞き取り調査（4月～）
- ・関係機関等との調整
 - 高知県社会福祉協議会（4/9、6/28）
 - 帯屋町商店街（5/16、10/16）
 - 県警（5/18、6/7、6/13、7/20、8/23、9/13、10/30）
 - 障害者スポーツセンター（7/3）
 - とさでん交通㈱（10/12）

②県民スポーツフェスティバル2018

- ・パークゴルフ実施に向けた関係者打合せ（4/13）
- ・担当者会（4/24）
- ・大会後援申請（5/1）
- ・大会冊子の発注（5/16）
- ・大会情報の公開【大会・冊子・パンフレットの配布とHP公開】（6/7）
- ・ポスターの作成・配布（8/1）
- ・第2回担当者打合せ（8/28）
- ・県民スポーツフェスティバル開催（〔 〕：参加者数）

- 6月 (6/24) フォークダンス (153人)
- 8月 (8/31) ゴルフ (86)
- 9月 [9/16] ターゲット・バードゴルフ (20)
- [9/17] アクアスロン (17)、陸上競技 (60)
- [9/27] ボーリング (39)
- [9/30] スカッシュバレー、ソフトボール、ゲートボール、弓道、ラグビーフットボール、テニス、グラウンド・ゴルフ、柔道、弓道、バウンドテニス、サイクリング (以上、中止)
- 10月 [10/7] ソフトテニス (120)、フットサル (67)、ペタンク (80)、バレーボール (104)、スポーツチャンバラ (18)、水泳 (124)
- [10/14] バドミントン (確認中)、武術太極拳 (確認中)
- [10/21] クレー射撃 (50)、ラージボール卓球 (242)
- 11月 [11/1] パークゴルフ (確認中)
- [11/4] ディスクゴルフ (確認中)
- [11/23] ポッチャ
- 12月 [11/25、12/2、12/9] 軟式野球
- ・申込数 H30 (3,299人) ※H29年度 (3,459人) 比で4.7%減少

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・市町村立中学校では、市町村教育委員会が策定する「運動部活動の方針」に則り、「部活動の活動方針」を策定し、その活動方針に沿った運営をしている中学校の割合
→34 市町村が今年度中に策定する予定
- ・県立学校では、県が策定した「運動部活動ガイドライン」に則り、「部活動の活動方針」を策定し、その活動方針に沿った運営をしている学校の割合
→H31 年 1 月に「高知県立学校に係る運動部活動の方針」を策定し、県内の県立学校に周知。H31 年 4 月から実施予定。

<成果>

学校における適正な運動部活動の運営の方針が策定され、各市町村や各県立学校では、その方針に則した計画が着実に進んでいる。

<課題>

生徒のニーズに対応した外部人材の活用や適正な運動部活動運営に向けての課題について、今後も検討していく必要がある。

「運動部活動指導員」の配置を拡大し、生徒のニーズに対応した部活動の充実を図る。

適正な運動部活動の運営に向けて、「運動部活動指導者ハンドブック」を運動部顧問に配布し、周知徹底を図る。

「高知県運動部活動改革推進委員会」を継続して開催し、これからの部活動の在り方における課題について協議する。

【KPI の状況】

- ・高知龍馬マラソン：1 万人規模の大会継続
フルマラソンエントリー数 13,481 人 (昨年度実績 12,827 人)
フルマラソン出走者数 11,956 人 (昨年度実績 11,194 人)
ファンランエントリー数 352 人 (うち伴走者 98 人)
ファンラン参加者数 314 人 (うち伴走者 77 人)
- ・県民スポーツフェスティバルへの参加者数 (H29 年度比 5%増)
申込み人数 3,829 人 (+1.7%)、参加人数 2,019 人 (-33%)
※台風による大会中止の影響
- ・全国レクリエーション大会参加者数：5,000 人以上
当初参加人数延べ 10,000 人 → 14,548 人が参加

<成果>

- ・各々の大会の開催に向けて関係者との調整・協議が順調に進んでいる。
- ・中央公園の無料イベントなど、県民の人にレクリエーションを知ってもらおうきっかけになった。
- ・障害者スポーツ協会やスポーツ推進委員との連携など、他団体との交流をおこなうことにより、枠を超えたレクリエーション活動がおこなえた。

<課題>

- ①高知龍馬マラソンの開催
魅力ある大会づくり
次回大会 (2020 大会) をより安全で魅力ある大会にするため、課題を整理して準備を進める必要がある。
- ②県民スポーツフェスティバル
・県民スポーツフェスティバルへの参加者数は、年々減少する傾向にある。
誰もが参加しやすい機会を拡充する必要がある。
- ③第 72 回全国レクリエーション大会 in 高知
・大会の成果を生かして、さらにレクリエーション活動の普及発展につなげる必要がある。

- ①高知龍馬マラソンの開催
次回大会に向けて関係者と 2019 大会の検証反省を行う。(3月)
- ②県民スポーツフェスティバル
「障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、誰もが参加しやすい大会・イベント」として、競技団体の独自性を生かしやすい形での開催。
- ③第 72 回全国レクリエーション大会 in 高知
・大会の成果を生かせるよう今後の取組を検討

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
	<p>③第72回全国レクリエーション大会 in 高知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会総会の開催 (4/11) ・専門部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 特別行事部会 (5/14) (6/5) (7/10) (8/7) (9/4) 式典部会の開催 (5/14) (7/10) (8/7) (9/4) 研究フォーラム部会 (5/15)(7/10)(9/13) 総務・企画部会 (5/15) (7/11)(9/5) 種目別交流大会部会 (6/5) (8/8) (9/3)(9/5) 運営委員会(7/11) 大会リハーサル 9/20 大会 9/21~9/23 参加者数 延べ 14,548 人
<p>【取組⑤】</p> <p>県老人クラブ連合会が開催する「ろうれんピック」及び高知県社会福祉協議会が開催する「こうちシニアスポーツ交流大会」、「ねんりんピック」への選手派遣の支援を通し、高齢者の健康と生きがいづくりの推進を図ります。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県老人クラブ連合会活動促進事業（高齢者福祉課） ・高齢者の生きがいと健康づくり事業（高齢者福祉課） 	<p>ア 大会の開催及び選手派遣</p> <p>①こうちシニアスポーツ交流大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合開会式 (5/10) ・種目別競技会 (20 種目) の開催 (4/28~6/10) <p>②ねんりんピック富山 2018 への選手派遣支援：開催期間 (11/3~11/6)</p> <p>③ろうれんピックの開催支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部会場 (芸西村) 10/24 ・中部会場 (高知市) 10/11 ・西部会場 (黒潮町) 11/15

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
1週間の層運動時間が60分未満の児童生徒の割合	小学5年男子：7.3% (6.3%) 小学5年女子：12.7% (11.6%) 中学2年男子：9.7% (6.0%) 中学2年女子：22.4% (19.1%) ※ () は全国平均		全国平均値
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する男性(20代・30代・40代)の割合	38.3% (H28)		45%以上
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する女性(20代・30代・40代)の割合	27.5% (H28)		32%以上
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する男性(50代・60代)の割合	46.8% (H28)		55%以上
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する女性(50代・60代)の割合	49.9% (H28)		60%以上
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する男性(70代)の割合	58.2% (H28)		69%以上
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する女性(70代)の割合	51.2% (H28)		60%以上
高知県障害者スポーツ大会への参加者数	1,471人	1,539人	1,600人以上

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPI の状況】</p> <p><成果></p> <p>①こうちシニアスポーツ交流大会の開催 1,344 名が参加 (対前年度比 11 名増)</p> <p>②ねんりんピック富山 2018 への選手派遣 22 種目、135 名の選手が参加 (対前年度比▲1 種目、▲15 名)</p> <p>③ろうれんピックの開催支援 7 種目、651 名の選手が参加 (対前年度比▲272 名) ※天候不良のため、東部会場のグラウンドゴルフ及び中部会場のベタシクグラウンドゴルフが中止</p> <p><課題></p> <p>参加者数のさらなる増加をはかるため、広報活動の強化など関係団体と連携して認知度を高めていく取組みが必要である。</p>	<p>・大会への参加者数が伸び悩みまたは減少傾向にあることから、生きがいや健康づくりに資する活動についてより広く認知してもらえよう、関係団体の取組を支援していく。</p> <p>①こうちシニアスポーツ交流大会の開催 ・実行委員会の開催 (2 月頃予定)</p> <p>②ねんりんピックへの選手派遣支援 ・ねんりんピック紀の国わかやま 2019 : 開催期間 (11/9~12) 総合開会式 (11/9) / 競技会 (11/10~12)</p> <p>③ろうれんピックの開催支援 (県老人クラブ連合会への補助金交付) ・東部、中部、西部の 3 会場で開催予定。</p>

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 1- (3) 障害者のスポーツ参加機会の拡充

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

【取組①】

県障害者スポーツセンターが、スポーツ推進委員をはじめとする各地域のスポーツ関係者や地域スポーツハブと連携する取組を支援し、地域における障害者のスポーツ活動を支援する体制づくりを促進します。

<具体的な事業>

- ・障害者スポーツ推進プロジェクト（スポーツ課）
- ・障害者スポーツ競技力向上支援事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・県障害者スポーツセンター利用者数が全年度比で5%増加する。

D これまでの取組状況

ア 障害者のスポーツ活動を支援する体制づくり

①障害者スポーツ推進プロジェクト（4団体で実施）

- 第1回障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会の開催（7/20）

- ・4団体の取組内容説明及び各課題の把握、課題解決に向けた協議。

②第2回障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会の開催（11/13）

- ・4団体の事業進捗状況報告及び各取組課題の把握、課題解決に向けた協議。

○高知県障がい者スポーツ指導者協議会（再委託団体①）

- ・検討会議の開催（7/27、9/10、10/26、11/19）、審判調整会議（10/5）

- ・陸上教室（10/27、28、12/1、2）、博多陸上大会（11/10）

○特定非営利活動法人まほろばクラブ南国（再委託団体②）

- ・対象学校である山田養護学校（管理職、体育主任等）、まほろばクラブ南国（理事長）、県スポーツ課（担当者）の3者での打合せを実施（6/21）

- ・検討会議の開催（9/14、12/12）

- ・バドミントン部への指導者派遣（9～11月13回）

- ・放課後スポーツ体験教室（10/20、11/20、12/7）

- ・まほろばクラブ南国感謝祭（10/27）、地域ハフイベント（11/20）

- ・健康きらびフェア（12/15）、多目的スポーツ体験イベント（11/19）

○特定非営利活動法人総合クラブとさ（再委託団体③）

- ・対象学校である日高養護学校（管理職、体育主任等）、総合クラブとさ（クラブマネージャー）、県スポーツ課（担当者）の3者での打合せを実施（5/17）

- ・検討会議の開催（7/12、11/29）、同窓会スポーツ体験教室（8/18）

- ・放課後スポーツ体験教室（9/6、9/13、10/22、10/25、10/29、11/1）

- ・多目的スポーツ体験イベント 小・中学部（11/6）高等部（12/5）

- ・スポーツ体験教室 作業所とさ（10/13）ひまわり舎（10/18）

○特定非営利活動法人くぼかわスポーツクラブ（再委託団体④）

- ・検討会議の開催（8/20、10/30）

- ・明成会スポーツ体験教室（9/14、9/27、28）

- ・さくら福祉事業所スポーツ体験教室（9/20、9/26、27雨天中止）

- ・由菜の里スポーツ体験教室（9/21、10/9、10/19）

- ・「四万十ふくふくまつり」でのスポーツ交流大会（12/8）

②障害者スポーツ競技力向上支援事業

- ・コーディネーターの配置（5/1）

- ・特別強化指定選手を含めた、パラクライミング選手3名の専門体力測定実施（6/3）

- ・特別強化選手を対象とした第1回メンタルサポート講習会実施（7/19）

- ・S指定ウィルチェアラグビー選手、A指定パラクライミング選手、パラ射撃選手の3名参加。

- ・第2回メンタルサポート指導者講習会実施（9/3）

- ・S指定ウィルチェアラグビー選手の参加。

- ・第2回メンタルサポート選手講習会実施（9/6）

- ・A指定パラクライミング選手、パラ射撃選手の2名参加。

○障害者スポーツの活動状況の把握（選手・指導者・活動実績のリスト化）

- ・特別強化指定選手へのヒアリング（全7名実施 6/11）

- ・パラ卓球選手（嶺北高校）へのヒアリング実施（6/22）

- ・県内障害者スポーツチームへの実態アンケート調査（全17チーム実施）

○障害者スポーツへの参加拡大（選手・指導者・サポーター）

- ・各特別支援学校長への協力依頼（全9校実施 6/11）

- ・普通高校への協力依頼（6校実施 8/10～10/31）

対策
の
概要

県障害者スポーツセンターや地域スポーツハブ等が核となって、学校、競技団体、福祉関係者などが連携する仕組みづくりを行うことにより、地域で障害者が安心してスポーツ活動に参加できる環境を創出し、障害者のスポーツ参加の増加を目指します。
また、障害者をはじめ配慮が必要な多様な人々が、スポーツを通じて社会参画できるよう、障害者スポーツの理解啓発や、障害の有無に関わらず誰もが一緒に活動することができる機会の拡充などを通じて、共生社会の実現を目指します。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・県障害者スポーツセンター利用者数が全年度比で5%増加する
※12月末時点の利用者数34,814名、H31.3月に最終確認

<成果>

①障害者スポーツ推進プロジェクト

- ・実施4団体で概ね計画通りに準備が進んでいる
- ・実行委員会において、4団体の課題やモデルづくりの視点の共有ができた
計画通りに取組ができています
関係者間の連携、協力体制が構築されている

②障害者スポーツ競技力向上支援事業

- ・実態把握において、対象の選手や団体には事業の趣旨を理解いただき協力を得ている
- ・既存の障害者スポーツチームや選手の活動状況は、ヒアリング及びアンケートによって、概ね把握することができた
報道関係者への障害者スポーツ情報の提供を実施
既存の障害者スポーツチーム情報をスポーツ課HPに掲載

<課題>

①障害者スポーツ推進プロジェクト（4団体で実施） ※スポーツ庁委託事業

- ・モデル事業として成果を広く普及できるように内容の充実を図る必要がある
- ・ささえる人材（指導者）の確保が必要
- ・在宅者へのアプローチが必要
- ・事業を円滑に進めるためには、対象学校等の職員の協力が必要
- ・早めの連絡調整や対象者への周知が必要
休日等に関催するスポーツ体験イベントの広報については、保護者や教員に対するアプローチが必要

②障害者スポーツ競技力向上支援事業

- ・障害者スポーツをサポートする人材の確保
- ・障害者スポーツチームの周知・広報が必要
- ・既存チームの高齢化に伴う選手不足、活動資金不足
- ・活動場所、移動手段の確保
- ・障害者スポーツ競技力向上のための関係団体のネットワークの構築や支援体制の充実

①障害者スポーツ推進プロジェクト

- ・実施団体には、これまでの課題を解決するための対策やモデル事業としての視点を明確にして事業に取り組むことを徹底する
- ・協力が得られる指導者の確保について競技団体に依頼する
- ・実施団体が市町村や学校などに協力を求めて、地域住民に広く事業の周知がなされるよう促す
○各団体による事業展開（9月～2月）
- ・対象学校の教員に対し、生徒へのイベント周知など、検討委員会等で協力を要請する

②障害者スポーツ競技力向上支援事業

- ・障害者スポーツ競技力向上支援事業コーディネーターにより、指導者の発掘・確保を行う
- ・障害者へのスポーツ医科学面からのサポート（専門体力測定等）について、日本スポーツ振興センターの協力を得て、アドバイザーの派遣やサポートに関する助言により、質の高いサポートを展開する
- ・県のホームページに障害者スポーツチームの情報を掲載するとともに、学校やスポーツ団体等に情報提供する
- ・県内特別支援学校卒業生（過去5年）を対象とした、障害者スポーツに関するアンケートを実施し、スポーツに対する意識やスポーツ活動の実情を把握し、今後の障害者スポーツ振興につなげる
- ・障害者スポーツ選手の競技結果等の定期的な情報収集と発信
- ・障害者スポーツに関係する団体等と課題解決に向けた協議を行い、高知県スポーツ振興県民会議につなげる。
- ・県出身者等の障害者スポーツ選手の競技結果等の情報提供と報道依頼

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組②】

地域や学校におけるオリンピック・パラリンピック教育を強く推進し、障害者スポーツ等の理解や共生社会の実現に向けた学習機会の充実を図ります。

<具体的な事業>

- ・オリンピック・パラリンピック・ムーブメント 全国展開事業（保健体育課）

<取組のKPI>

- ・県内の公立小中学校でのオリンピック・パラリンピック教育を実施した割合が70%

ア オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピック・パラリンピック教育研修会の実施 8/24 2/19

あすチャレ！ School in KOCHI の実施 ・ ・ 7小学校

ゆめチャレ！ School in KOCHI の実施 ・ ・ 2小学校

パラスポ体験教室の実施 ・ ・ ・ ・ ・ 6小学校、1中学校

障がい者スポーツ選手による記念講演会の実施 ・ ・ 1小学校、3中学校

トップアスリート夢先生派遣事業の実施 ・ ・ 20小学校、9中学校

宿毛市（教育推進地域）によるオリパラ教育の実践

指導資料（Impossible）を活用した授業実践

教職員対象の研修会（ゴールボールの体験）及び講演会の開催

<高等学校のみ>

モデル校による「スポーツの価値教育」の推進（公益財団法人日本アンチドーピング機構（JADA））

モデル校：県立須崎高等学校、県立窪川高等学校

モデル校授業公開：県立須崎高等学校（8/29,8/31）

県立窪川高等学校（9/10,9/13）

※3学期に東京にて実践発表 ・ ・ 2/3

【取組③】

障害者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に参加しやすい環境を整備するため、地域スポーツハブ等が、市町村、学校、競技団体、福祉関係者などと連携する取組を支援します。

<具体的な事業>

- ・地域スポーツハブ展開事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4）

- ・促進委員会の開催（全5回予定）

※設置後に促進委員会にて地域のスポーツ資源やニーズについて情報共有を行い、各ハブで取組決定→KPIに反映

ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実

①地域スポーツハブの設置に向けた説明会の開催

- ・土佐市（5回実施）

- ・南国市（5回実施）

- ・土佐清水市（4回実施）

- ・四万十町（6回実施）

- ・合同説明会（5/21）

②地域スポーツコーディネーターの配置

- ・土佐市（総合クラブとさ）：4月

- ・土佐清水市（スポーツクラブスクラム）：7月

- ・南国市（まほろばクラブ南国）：7月

③促進委員会の開催

- ・土佐市（2回実施）・南国市（6回実施）・土佐清水市（4回実施）

④事業の実施

1) 地域スポーツハブ事業

- ・土佐市【3事業(12回)】・土佐清水市【4事業(7回)】・南国市【1事業(1回)】

2) 地域スポーツハブ（広域型）事業

- ・遊びの広場（南国市：11/23、越知町：1/21）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・県内の公立小中学校でのオリンピック・パラリンピック教育を実施した割合が 70%
小学校 47.7% (H29:22.8%) 中学校 53.6% (H29:43.1%)
 平成 30 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査)

<成果>

- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた取組が着実に進んでいる。
- ・小学校・中学校においては、指導資料 (Impossible) の活用が広がりつつある。推進地域の教員間での教材価値の共有ができています。
- ・高等学校では、授業の公開によってスポーツの価値への理解が深まった。

<課題>

- ・オリンピック・パラリンピック教育は進みつつあるが、未実施の学校への対策が必要である。
- ・パラスポーツ体験等を指導する講師が不足している。
- ・高等学校に対するオリンピック・パラリンピック教育の推進についてもさらに検討する必要がある。

- ・日本体育大学、日本財団パラリンピックサポートセンター、高知県障害者スポーツセンター、県内の総合型地域スポーツクラブ等と連携した取組を進める

体育主任研修会等において、オリンピック・パラリンピック教育に関する指導資料 (Impossible) の活用やオリパラ研修会への参加、推進地域や推進校の実践、パラスポーツ体験の実施等を通して、県内の全公立学校での取組を推進する。

【KPI の状況】

- ・「地域スポーツハブ」設置数 (設置目標 4)
 設置数: 3 (土佐市、南国市、土佐清水市) ※四万十町は調整中
- ・促進委員会の開催 (全 5 回予定)
 土佐市: 2 回 (7/18、10/22)
 南国市: 6 回 (7/20、8/20、9/18、10/16、11/12、1/29)
 土佐清水市: 4 回 (7/27、9/28、11/15、1/31)
 ※H31. 3 月に最終確認

<成果>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- ・3 市町で地域スポーツハブが設置され、促進委員会が開催された。
- ・土佐市、土佐清水市、南国市では、促進委員会からの提案に基づき事業が実施された。
- ・HP、SNS 等による情報発信が各地域スポーツハブで行われた。
- ・県体育協会事業として地域スポーツハブ事業 (広域型) が 2 地域で実施された。

<課題>

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- ・新規連携先の開拓
- ・収集するスポーツ情報の内容の精査・拡充
- ・効果的な情報発信の方法
- ・情報収集に基づいた事業の磨き上げ
- ・四万十町の地域スポーツハブ立ち上げに向けたコーディネーターの確保

- ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実
- ・事業参加企業拡大に向けた企業訪問の実施
- ・スポーツ情報やニーズの調査対象の拡大
- ・HP や SNS 等情報発信ツールの活用方法の検討
- ・効果的な情報発信ルートの開拓
- ・収集した情報の整理・分析
- ・市、町のニーズや特性に基づく効果的な事業展開の立案
- ・事業実施に向けた関係団体との調整
- ・本年度事業の評価
- ・各地域スポーツハブにおける次年度事業計画の作成
- ・次年度地域スポーツハブ候補団体の選出
- ・各地域スポーツハブにおいて児童・生徒のスポーツ環境拡充に向けた取り組み
- バドミントン体験教室等の実施

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

<p>【取組④】 障害者のスポーツ活動を支援する指導者やボランティアを育成します。 <具体的な事業> ・障害者スポーツ指導員養成事業（スポーツ課） ・障害者スポーツ指導員養成講習会派遣事業（スポーツ課） <取組の KPI> ・障害者スポーツ指導員の増加 （218名→230名）</p>	<p>ア 指導者等の育成 ○障がい者スポーツ指導員養成講習会派遣 ・高知県障がい者スポーツ指導者協会との委託契約の締結（5/10） ・上級障がい者スポーツ指導員養成講習会への派遣 （前期）（8/30～9/2実施） （後期）（11/3～11/6実施） ◎障がい者スポーツ指導員養成講習会開催 ・高知県障がい者スポーツ指導者協会との委託契約の締結（9/12） ・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催（11/25、12/8、12/9）</p>
<p>【取組⑤】 県内トップ選手の活動をさらに充実させるための経費面の支援を行うとともに、県競技団体が中央競技団体と連携し、計画的・戦略的にトップ選手の育成・強化を行う一貫指導体制の整備を支援します。 <具体的な事業> ・競技スポーツ選手育成強化事業〔特別強化選手支援〕（スポーツ課） <取組の KPI> ・特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数 （S指定：10名、A指定：25名、B指定：55名）</p>	<p>ア トップ選手の育成・強化 ・活動費の交付（4月～） ＊S指定 8名 （水泳（飛込）、スリング、フライング、ウルフ・アークビー、テフ陸上、パラバドミントン） ＊A指定 23名 （水泳（競泳）、陸上競技、卓球、剣道、クレー射撃、スリング、ゴルフ、ソフトボール、パラ射撃、パラカミング） ＊B指定 50名 （水泳（競泳・飛込・アーティスティックスイミング）、陸上競技、ホッケー、バスケットボール、卓球、柔道、スリング、ゴルフ、ソフトボール、パラカー、車いすバスケットボール） ○特別強化指定選手を対象とした第1回メンタルサポート講習会実施（7/19）</p>

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

対策4-（3）の指標	H29	H30	H31目標値
障害者がスポーツ参加しやすい仕組みを構築している総合型地域スポーツクラブ等の数	2団体		4団体

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツ指導員の増加（218名→230名） （10月現在 220名）（12月現在 222名） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 8月～12月に実施する指導員養成講習会への派遣及び講習会の開催に向けて準備が進んでいる。 上級障がい者スポーツ指導員養成講習会〔前期〕〔後期〕への派遣養成講習会が計画通りに開催された。障がい者スポーツ指導員の増加 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 受講者の増加 	<p>障害者スポーツ指導員養成講習会（中級）の実施 （次年度8月～12月頃までに前期・後期、各4日の計8日間の開催予定）</p>
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数（S指定：10名、A指定：25名、B指定：55名） 2019年度の特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数の確定数 （S指定：12名、A指定：30名、B指定：38名） ※平成30年度の特別強化選手の数 （S指定：8名、A指定：23名、B指定：50名） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツ選手育成強化事業の取組により、特別強化選手の中で、全国大会入賞や世界大会出場・優勝などの成果が出ている。 特別強化S指定選手（ウィルチェアーラグビー選手：日本代表キャプテン）が、8/5～8/10にオーストラリアで開催された世界選手権で優勝。 特別強化S指定選手（パラバドミントン選手）アジアパラ大会に日本代表として出場し、SL3男子シングルスベスト8。 特別強化A指定選手（パラ射撃選手）アジアパラ大会に日本代表として出場。 <p>【主な成績】</p> <ul style="list-style-type: none"> *S指定：ウィルチェアーラグビー（世界選手権 優勝）、リリング（世界大会出場、IH 3位、アジア選手権 2位）、飛込（日本選手権 1位） *A指定：リリング（IH 1,2位）、卓球（IH 3位、日本代表） *B指定：リリング（世界大会出場、全国中学選抜 1位）、陸上（日本Jr. 3位）、飛び込み（世界大会出場） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の選手や競技団体の実情に応じた支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 選手の活動状況や関係者のサポート体制などについて、該当者へのヒアリングにより実態を把握する（9月～3月）

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 1-(4) 中山間地域におけるスポーツ活動の充実

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																											
<p>【取組①】</p> <p>市町村のスポーツ関係者等が市町村の枠を越えて連携・協働する「広域エリアネットワーク」により、市町村単独では解決できない課題を解決する取組や集落活動センターにおけるスポーツ活動を支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域エリアネットワーク促進事業（スポーツ課） ・集落活動センター推進事業（中山間地域対策課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの参加者数（H29年度比5%増） ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの、開催市町村以外からの参加者数（H29年度比5%増） 	<p>ア エリアごとの取組の推進</p> <p>①物部川・嶺北地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアネットワーク会議（4/27・11/27） ・事業開始（7月～） <p>②高岡・吾川地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回エリアネットワーク会議に向けた打合せ会議（5/9） ・H30年度事業「ソフトボール教室」事業日程等調整会議（5/12） ・エリアネットワーク会議（5/24） ・事業開始（7/25～） <p>③幡多地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアネットワーク会議（6/8・8/20・11/29） ・事業開始（7/29～） <p>④幡多地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアネットワーク会議（6/8・8/20） ・事業開始（7/29～） <p>イ 集落活動センター等で行う健康づくり活動や運動会等、スポーツ活動に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター推進事業費補助金等による支援 集落活動センター下川口家（4/29 運動会実施） 集落活動センターしらいし（5/20 運動会実施） 集落活動センター「汗見川」（6/10 運動会実施） 																											
<p>【取組②】</p> <p>地域の実情に応じたスポーツ機会が拡充するよう、県体育協会が行う既存の総合型地域スポーツクラブの質的向上の取組を支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツコーディネーター養成塾（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アシスタントマネージャー資格新規取得（4人） ・コーディネーター養成塾への延べ参加者数（120人） 	<p>ア 地域のスポーツ活動を支える人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成塾の実施 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">日程</th> <th style="text-align: center;">テーマ</th> <th style="text-align: center;">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 (7/21)</td> <td>総論</td> <td>中島 勝海(県スポーツ課長)・黒須 充(順天堂大学)</td> </tr> <tr> <td>第2回 (8/18)</td> <td>アシスタントマネージャー 基礎Ⅰ</td> <td>講師 長積 仁(立命館大学) 松永 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)</td> </tr> <tr> <td>第3回 (9/1)</td> <td>アシスタントマネージャー 基礎Ⅱ</td> <td>松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 春香(香川県体育協会)</td> </tr> <tr> <td>第4回 (9/22)</td> <td>地域における総合型SCの役割</td> <td>桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 泰子(高知大学)</td> </tr> <tr> <td>第5回 (10/13)</td> <td>NPO法人事務(法改正、会計)</td> <td>岡田 雅彦(岡田会計事務所)他</td> </tr> <tr> <td>第6回 (12/1)</td> <td>NPO法人事務(税務)</td> <td>岡田 雅彦(岡田会計事務所)</td> </tr> <tr> <td>第7回 (17/12)</td> <td>NPO法人事務(法務・労働基礎)</td> <td>加藤 彰子(岡山NPOセンター長)</td> </tr> <tr> <td>第8回 (8/22)</td> <td>ファンドレイジング(資金調達)</td> <td>東森 歩(ファンドレイジング・マーケティング)</td> </tr> </tbody> </table>	日程	テーマ	講師	第1回 (7/21)	総論	中島 勝海(県スポーツ課長)・黒須 充(順天堂大学)	第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅰ	講師 長積 仁(立命館大学) 松永 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)	第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅱ	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 春香(香川県体育協会)	第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 泰子(高知大学)	第5回 (10/13)	NPO法人事務(法改正、会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他	第6回 (12/1)	NPO法人事務(税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)	第7回 (17/12)	NPO法人事務(法務・労働基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)	第8回 (8/22)	ファンドレイジング(資金調達)	東森 歩(ファンドレイジング・マーケティング)
日程	テーマ	講師																										
第1回 (7/21)	総論	中島 勝海(県スポーツ課長)・黒須 充(順天堂大学)																										
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅰ	講師 長積 仁(立命館大学) 松永 敬子(龍谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)																										
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎Ⅱ	松田 雅彦(大阪大学附属高校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山家 春香(香川県体育協会)																										
第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 泰子(高知大学)																										
第5回 (10/13)	NPO法人事務(法改正、会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)他																										
第6回 (12/1)	NPO法人事務(税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)																										
第7回 (17/12)	NPO法人事務(法務・労働基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)																										
第8回 (8/22)	ファンドレイジング(資金調達)	東森 歩(ファンドレイジング・マーケティング)																										

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
広域エリアネットワーク事業で開催したスポーツイベントでの参加者数			平成29年度比で10%増

対策
の
概要

市町村の枠を越えたスポーツ関係者等のネットワーク化を促進し、中山間地域で行うことができるスポーツ機会の充実を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPIの状況】

- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの参加者数（H29年度比5%増）
※H31.3月に最終確認
- ・広域エリアネットワークで開催したスポーツイベントへの開催市町村以外からの参加者数（H29年度比5%増）
※H31.3月に最終確認

<成果>

- ・各エリアで本年度の事業が実施された。

<課題>

- ①物部川・嶺北地区
 - ・事業不参加市町に向けた31年度事業参加に向けた働きかけ
- ②高岡・吾川地区
 - ・事業情報拡散ルートの確立
- ③幡多地区
 - ・事業に関する諸規程の整理・確認

- ・地域スポーツ活動の活性化に向けた取り組みを継続して実施する。

<物部川・嶺北地区>

- ・事業実施（7月～）
- ・エリア会議（3月）

<高岡・吾川地区>

- ・事業実施（7月～）

<幡多地区>

- ・事業実施（7月～）
- ・エリア会議（3月）

- イ 集落活動センター等で行う健康づくり活動や運動会等、スポーツ活動に対する支援
- ・集落活動センター推進事業費補助金等による支援

KPIの状況】

- ・アシスタントマネージャー資格新規取得（4人）
※資格試験合格者10名（10名受験）
- ・コーディネーター養成塾への延べ参加者数（120人）
※延べ77名

<成果>

- ・今年度から県体育協会に配置されたクラブアドバイザーと連携し、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー育成に向けた研修会を実施し、受講者から高い評価があった。また、10名がアシスタントマネージャー資格試験に合格した。

<課題>

- ・参加者の継続的な確保と拡大

- ・各講座の実施
- ・参加者増に向けたクラブ関係者等への広報活動の充実

日種	テーマ	講師
第1回 (7/21)	総論	中島 勝海(県スポーツ課長)・ 黒須 敦(徳島大学)
第2回 (8/18)	アシスタントマネージャー 基礎I	鎌部 泰博(立命館大学) 松水 敬子(徳谷大学) 中阪 雅則(和歌山県海南市産業振興課)
第3回 (9/1)	アシスタントマネージャー 基礎II	松田 雅彦(大阪大学附属高槻校) 田井 直子(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長) 山梨 孝彦(香川県体育協会)
第4回 (9/22)	地域における総合型SCの役割	桑田 健秀(総合型スポーツクラブピボットフット) 常行 孝子(高知大学)
第5回 (10/13)	NPO法人事務(法改正、会計)	岡田 雅彦(岡田会計事務所) 他
第6回 (12/1)	NPO法人事務(税務)	岡田 雅彦(岡田会計事務所)
第7回 (1/12)	NPO法人事務(法務・労働基礎)	加藤 彰子(岡山NPOセンター長)
第8回(2/2)	ファンドレイジング(資金調達)	東森 歩(ファンドレイジング・マーケティング)

基本方向 10	スポーツの振興を図る
対策 1- (5)	多様なスポーツ機会の提供

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>サイクリングや登山、カヌーなど本県の自然環境を生かしたスポーツアクティビティの活性化に向けて、インフルエンサーからのアドバイスなどを環境整備や効果的なプロモーションに生かし取組を進めます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進 (スポーツ課) <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500人(5大会) ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人 	<p>ア サイクリング</p> <p>①「ぐるっと高知サイクリングロード」環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングコース環境整備に向けた道路課との協議(随時) <p>②サイクリング観光のプロモーション強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行会社及びインフルエンサー(タイ)の招へいによるプロモーションビデオの製作・公開(12/12) ・SNSやパンフレットを活用したPR活動(随時) ・サイクリングイベント出展によるPR(三重県:8/18、19)(愛媛県10/27、28) 千葉県(11/8~10) <p>③県境をまたぐサイクリングの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十・南予横断2リバービューライド担当者会(5/10、8/6) ・四万十・南予横断2リバービューライド → 荒天のため中止(9/9) ・四国4県連携イベント担当者会(4/20、9/6) ・サイクリングアイランド四国推進協議会(5/23、10/30) <p>イ サーフィン</p> <p>①サーフィン高知県知事杯担当者会(5/11、6/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーフィン大会の開催(10/22)
<p>【取組②】</p> <p>国内外で開催されるサイクリングイベントへの出展やサイクリング関連雑誌等での紹介などにより、県推奨のサイクリングコース(「ぐるっと高知サイクリングロード」)のプロモーション強化を行うとともに、四国一周サイクリングルートのプロモーションの実施や、県域を跨ぐサイクリングイベント等を開催します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進 (スポーツ課) <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500人(5大会) ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人 	<p>ア サイクリング</p> <p>①「ぐるっと高知サイクリングロード」環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングコース環境整備に向けた道路課との協議(随時) <p>②サイクリング観光のプロモーション強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行会社及びインフルエンサー(タイ)の招へいによるプロモーションビデオの製作・公開(12/12) ・SNSやパンフレットを活用したPR活動(随時) ・サイクリングイベント出展によるPR(三重県:8/18、19)(愛媛県10/27、28) 千葉県(11/8~10) <p>③県境をまたぐサイクリングの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十・南予横断2リバービューライド担当者会(5/10、8/6) ・四万十・南予横断2リバービューライド → 荒天のため中止(9/9) ・四国4県連携イベント担当者会(4/20、9/6) ・サイクリングアイランド四国推進協議会(5/23、10/30)
<p>【取組③】</p> <p>平成30年度に本県で開催する全国レクリエーション大会をはじめ、大規模大会の誘致や新たなスポーツ大会、イベントの開催を支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国レクリエーション大会(スポーツ課) <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国レクリエーション大会参加者数: 5,000人以上 	<p>ア 第72回全国レクリエーション大会 in 高知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会総会の開催(4/11) ・専門部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 特別行事部会(5/14)(6/5)(7/10)(8/7)(9/4) 式典部会の開催(5/14)(7/10)(8/7)(9/4) 研究フォーラム部会(5/15)(7/10)(9/13) 総務・企画部会(5/15)(7/11)(9/5) 種目別交流大会部会(6/5)(8/8)(9/3)(9/5) 運営委員会(7/11) 大会リハーサル 9/20 大会9/21~9/23 参加者数 延べ14,548人

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
新たなスポーツ大会やイベントの数(高知県観光コンベンション協会の助成金を活用して開催した新たなスポーツ大会やイベント)	1	1	6

対策
の
概要

本県の豊かな自然環境を生かしたスポーツ活動を推進するとともに、全国規模の大会の誘致や新たなスポーツ大会の開催を支援することにより、県内の地域間交流の活性化や県外・国外からの参加による交流人口の拡大を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500 人(5大会)
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500 人

<成果>

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 227 人(2大会)
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 726 人

<課題>

ア サイクリング

- ①自転車活用推進法に基づく、国土交通省のガイドラインが未設定のため、整備が遅れる可能性がある。
- ②出展イベントの選定が必要(効果の大きいイベントの調査)
- ③参加者増に向けた大会の磨き上げが必要
- ④集客増につながる取組の検討が必要(効率の良い集客方法等)
- ⑤4県連携事業の協議が必要(開催方法などで課題がある)

イ サーフィン

- ①サーフィン高知県知事杯のPR強化が必要(ギャラリーなど)

ア サイクリング

- ①道路課と連携したコース環境の整備
- ②インフルエンサーを活用したPR活動(招請、動画UP等)
- ③各イベント開催に向けた関係者との協議
- ④イベントの開催
- ⑤4県連携サイクリングイベントの検討(サイクリングアイランド四国)

イ サーフィン

- ①担当者会の開催
- ②サーフィン知事杯の開催

【KPI の状況】

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500 人(5大会)
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500 人

<成果>

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 227 人(2大会)
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 726 人

<課題>

ア サイクリング

- ①自転車活用推進法に基づく、国土交通省のガイドラインが未設定のため、整備が遅れる可能性がある。
- ②出展イベントの選定が必要(効果の大きいイベントの調査)
- ③参加者増に向けた大会の磨き上げが必要
- ④集客増につながる取組の検討が必要(効率の良い集客方法等)
- ⑤4県連携事業の協議が必要(開催方法などで課題がある)

ア サイクリング

- ①道路課と連携したコース環境の整備
- ②インフルエンサーを活用したPR活動(招請、動画UP等)
- ③各イベント開催に向けた関係者との協議
- ④イベントの開催
- ⑤4県連携サイクリングイベントの検討(サイクリングアイランド四国)

【KPI の状況】

- ・全国レクリエーション大会参加者数：5,000人以上
- ・当初参加人数延べ10,000人 → 14,548人が参加

<成果>

- ・中央公園の無料イベントなど、県民の人にレクリエーションを知ってもらいきっかけになった。
- ・障害者スポーツ協会やスポーツ推進委員との連携したレクリエーション活動を行うことができた

<課題>

- ・大会の成果を生かして、さらにレクリエーション活動の普及発展につなげる必要がある。

- ・大会の成果を生かせるよう今後の取組を検討。

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 1-(6) スポーツを通じた健康増進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>高知家健康パスポート事業の啓発を行い、総合型地域スポーツクラブ等運動施設の利用やスポーツイベントへの参加等による健康づくりを推進します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none">高知家健康パスポート事業（健康長寿政策課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none">高知家健康パスポートI取得者数総合型地域スポーツクラブの健康パスポート事業参加率ヘルシーポイントが付与された主要なスポーツイベントの数	<p>ア 健康パスポート事業を活用した総合型地域スポーツクラブの利用促進</p> <ul style="list-style-type: none">関係機関の取組状況の把握（H30.3）さんSUN高知4月号やPRパンフレット、市町村広報誌による広報の実施未参加の総合型地域スポーツクラブに事業協力依頼を実施（H30.7） <p>イ 主要なスポーツイベントでのヘルシーポイント付与</p> <ul style="list-style-type: none">市町村説明会の実施、協力依頼（H30.2） <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none">健康パスポート取得促進イベントを県内2会場で実施（H30.9）
<p>【取組②】</p> <p>住民の運動習慣定着への機会の拡大を図るため、市町村や事業所、関係機関等と連携し、高知家健康パスポート事業を活用した運動イベントの実施を促進します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none">高知家健康パスポート事業（健康長寿政策課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none">健康パスポートを活用したインセンティブ事業（運動）の実施市町村数高知県ワークライフバランス推進企業認証制度「健康経営部門」の認証企業数（認証には健康パスポートの活用その他、健康宣言や受動喫煙対策の取組が必須）	<p>ア 健康パスポートを活用したインセンティブ事業（運動）を実施する市町村への支援</p> <ul style="list-style-type: none">PRパンフレットへの掲載など広報の実施 <p>イ 健康マイスター制度の開始</p> <ul style="list-style-type: none">健康マイスターのデザイン決定（H30.5-8月）9月から実施の健康マイスター制度の運用等に係る市町村説明会を開催（H30.8）健康マイスター制度を開始（H30.9）健康マイスター認定式を開催（H30.9） <p>ウ 健康経営に取り組む事業所への支援</p> <ul style="list-style-type: none">高知県ワークライフバランス推進企業認証制度「健康経営部門」開始（H30.4～）関係機関（協会けんぽ、協定締結損保会社）との調整業界団体の研修会や企業への個別訪問による周知・申請への働きかけこうち健康企業プロジェクト（高知新聞主催）による「高知家健康経営アワード」の実施（H30.7～）職場の健康づくり応援研修会を県内6会場で開催（H30.6～8）アクサ生命（共催：商工会議所）による健康経営セミナーを開催（H30.7）健康経営として、企業における健康パスポートの活用を働きかけ、壮年期男性の取得率向上を図る。 →民放3局でテレビCM（150本）の放映（H30.9） →こうち健康企業プロジェクト（高知新聞主催）による「高知家健康経営アワード表彰式」の開催（H30.11）

対策
の
概要

成人の身体活動の増加と運動習慣の更なる定着を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・高知家健康パスポート I 取得者数 34,683 名 (H31.1.31 時点)
- ・総合型地域スポーツクラブの健康パスポート事業参加率 59% (17 クラブ)
- ・主要なスポーツイベントでのヘルシーポイント付与
 - ・スポーツ大会 14 (四万十川桜マラソン、宿毛マラソン、大方シーサイドはだしマラソン、北山林道駆け足大会、いごっそうアクアスロン大会、くわいんぼマラソン、龍馬脱藩マラソン、四万十川ウルトラマラソン、室戸岬健康マラソン、さめらの御湖畔マラソン、仁淀川ふれあいマラソン、ひだか茂平マラソン、吾川、仁淀川駅伝競走大会、室戸岬一周駅伝)

<成果>

- ・健康パスポートの取得者数は、目標を上回るペースで増加しており、健康づくりに取り組む県民の増加につながっている。

<課題>

- ・市町村等のスポーツ行政担当等と健康増進担当の連携強化を図る必要がある。
- ・総合型地域スポーツクラブの一部では、運営体制が脆弱なため健康政策との連携には積極的でないクラブがある。

- ・スポーツ参加機会を拡充するため、主要なスポーツイベントでヘルシーポイントを付与する。

【KPI の状況】

- ・健康パスポートを活用したインセンティブ事業 (運動) の実施市町村数 27 市町村
- ・高知県ワークライフバランス推進企業認証制度「健康経営部門」の認証企業数 14 社 (H31.1.1 時点)
- ・健康経営の取り組みとして従業員にパスポートの取得を促進している事業所数 47 社 (2,441 名の従業員がパスポートを取得) (H30.12.31 現在)

<成果>

- ・H30 から健康パスポートを活用したインセンティブ事業が全市町村で実施され、県民の健康的な生活習慣定着への機会拡大につながっている。
- ・人材不足等企業側のニーズもあり、業界団体等を通じて健康経営に取り組む必要性を働きかけることで、企業側の健康経営に対する意識が向上している。

<課題>

- ・健康パスポート取得者数は、目標を上回るペースで増加しているが、健康行動を継続・定着させるための仕組みが不十分
- ・健康パスポートを活用したインセンティブ事業で、運動習慣定着の内容が含まれていない市町村がある。
- ・取得機会に男女差はないものの、男性の取得が女性に比べて少ない (取得者の約 7 は女性)。男性は運動施設などを利用したがる人も多い。
- ・経営者や従業員が職場の健康づくりに取り組みやすくするための仕組みやさらなるインセンティブが必要

- ・健康づくり無関心層に健康情報を届けるため、ゴミにより健康づくりを広められる「高知家健康サポーター (仮称)」を育成する。
- ・スポーツ参加機会を拡充するため、健康パスポートを活用したインセンティブ事業 (運動) 未実施の市町村に対し、実施できるよう助言を行う。
- ・事業所の健康づくりを促進するため、職場でのスポーツ大会や健康づくりセミナーでヘルシーポイントを付与する。
- ・事業所の健康経営への理解及び取り組みを促進するため、高知版健康経営ハンドブックを作成する

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

健康づくりにおける運動の効果や重要性について、出前講座の実施や健康づくりひとくちメモ等、マスメディアも活用することで広く啓発を行います。また、手軽な運動として、引き続きウォーキングの普及に取り組みます。

<具体的な事業>

- ・働きざかりの総合啓発（健康長寿政策課）
- ・健康づくりひとくちメモ（健康長寿政策課）

<取組のKPI>

- ・出前講座（運動編）実施回数
- ・健康づくりひとくちメモ（運動編）テレビ放送回数

- ア 働きざかりへの総合啓発の実施
- ・県政出前講座のPR（広報広聴課）
 - ・健康づくりひとくちメモの活用

イ 健康パスポートアプリの運用開始

- ・日々のウォーキングや血圧測定でヘルシーポイントが貯まるアプリの開発に着手（H30.5）
- ・マイスター・アプリの9月開始に向けたテレビCMを放送（H30.8）
- ・9月から実施のアプリの運用等に係る市町村説明会を開催（H30.8）
- ・健康パスポートアプリの運用開始（H30.9）

【取組④】

スポーツ医学の知見に基づき、地域スポーツハブをはじめ、総合型地域スポーツクラブ、県レクリエーション協会などのスポーツ団体や広く県民に対して、健康づくりにつながる効果的な運動プログラムなどを普及・提供します。

<具体的な事業>

- ・スポーツ体験等を通じた健康・体力づくり推進事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・いきいきチャレンジ！延べ参加者数 120 名以上
- ・チャレンジ！体力年齢延べ参加者数 100 名以上

ア ニーズに応じた運動プログラムなどの提供

①いきいきチャレンジ！（スポーツ体験事業）

○中高年齢向けスポーツ体験事業

- ・はじめてのラージボール卓球（6/7、14、28、7/5）
- ・ノルディック・ウォーク（11/7、14、21、28）

②一般スポーツ愛好者体力測定（チャレンジ！体力年齢）

○一般スポーツ愛好者向け体力測定、トレーニングメニューの紹介

- ・5/15（1名）、6/24（1名）、7/4（2名）、7/13（2名）、8/2（2名）、8/11（3名）、8/21（1名）、9/8（1名）、10/18（2名）、10/25（6名）、10/26（8名）、12/20（1名）、1/5（1名）

【取組⑤】

地域スポーツハブや総合型地域スポーツクラブ等が提供するスポーツ活動が、子どもから高齢者、子育て世代、職場、女性、障害者などの多様なニーズに応じた取組として拡充するよう支援します。【再掲】

<具体的な事業>

- ・地域スポーツハブ展開事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4）
- ・促進委員会の開催（全5回予定）
- ※設置後に促進委員会にて地域のスポーツ資源やニーズについて情報共有を行い、各ハブで取組決定→KPIに反映

ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実

①地域スポーツハブの設置に向けた説明会の開催

- ・土佐市（5回実施）
- ・南国市（5回実施）
- ・土佐清水市（4回実施）
- ・四万十町（6回実施）
- ・合同説明会（5/21）

②地域スポーツコーディネーターの配置

- ・土佐市（総合クラブとさ）：4月
- ・土佐清水市（スポーツクラブスクラム）：7月
- ・南国市（まほろばクラブ南国）：7月

③促進委員会の開催

- ・土佐市（2回実施）・南国市（6回実施）・土佐清水市（4回実施）

④事業の実施

1) 地域スポーツハブ事業

- ・土佐市【3事業(12回)】・土佐清水市【4事業(7回)】・南国市【1事業(1回)】

2) 地域スポーツハブ（広域型）事業

- ・遊びの広場（南国市：11/23・越知町：1/21）

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県政出前講座（運動編）：2回 ・健康づくりひと回メモ（運動編）：テレビ放送5回 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリによるブルーシール（運動）交付実績：延べ1,482名（シール25,800枚）（H31.1.31現在） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病を予防し、活動的な生活を送るためには、県民の健康意識の更なる醸成と運動習慣など健康的な保健行動の定着化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の開催や健康づくりひとくちメモの放送を継続する。 ・健康パスポートアプリの運用によるヘルシーポイントの付与を継続し、周知のためのイベント開催やテレビ・ラジオ等メディアを活用した広報を実施する。 ・ウォーキングのさらなる促進を図るため、健康パスポートアプリに任意のグループ同士による歩数競争機能を追加する。 ・福祉保健所において、「スポーツ施策&スポーツイベント一覧」リーフレットを県民に配布する。
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきチャレンジ！延べ参加者数 120 名以上 参加人数延べ 93 名 ・チャレンジ！体力年齢延べ参加者数 100 名以上 ※H30.2月時点 33名 ※H31.3月に最終集計 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市、香南市の広報に掲載された ・チャレンジ体力年齢について昨年に引き続き、企業の参加が決定した <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ①いきいきチャレンジ！（スポーツ体験事業） <ul style="list-style-type: none"> ・参加者増加のための広報活動 ②一般スポーツ愛好者体力測定（チャレンジ！体力年齢） <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の増加 ・参加者増加のための広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ①いきいきチャレンジ！（スポーツ体験事業） 総合型地域スポーツクラブの活動などへつなげていく。 ②一般スポーツ愛好者体力測定（チャレンジ！体力年齢） <ul style="list-style-type: none"> ・県ホームページへの掲載や定期的な事業の周知の徹底。 ・県民スポーツフェスティバルの各競技大会など、県内のスポーツ大会や関連イベントにおいて事業を周知。 ・高知県スポーツ科学センターの事業へつなげていく。
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4） 設置数：3（土佐市、南国市、土佐清水市）※四万十町は調整中 ・促進委員会の開催（全5回予定） 土佐市：2回（7/18、10/22） 南国市：6回（7/20、8/20、9/18、10/16、11/12、1/29） 土佐清水市：4回（7/27、9/28、11/15、1/31） ※H31.3月に最終確認 <p><成果></p> <p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3市町で地域スポーツハブが設置され、促進委員会が開催された。 ・土佐市、土佐清水市、南国市では、促進委員会からの提案に基づき事業が実施された。 ・HP、SNS等による情報発信が各地域スポーツハブで行われた。 ・県体育協会事業として地域スポーツハブ事業（広域型）が2地域で実施された。 <p><課題></p> <p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規連携先の開拓 ・収集するスポーツ情報の内容の精査・拡充 ・効果的な情報発信の方法 ・情報収集に基づいた事業の磨き上げ ・四万十町の地域スポーツハブ立ち上げに向けたコーディネーターの確保 	<p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業参加企業拡大に向けた企業訪問の実施 ・スポーツ情報やニーズの調査対象の拡大 ・HPやSNS等情報発信ツールの活用方法の検討 ・効果的な情報発信ルートの開拓 ・収集した情報の整理・分析 ・市、町のニーズや特性に基づく効果的な事業展開の立案 ・事業実施に向けた関係団体との調整 ・本年度事業の評価 ・各地域スポーツハブにおける次年度事業計画の作成 ・次年度地域スポーツハブ候補団体の選出 ・各地域スポーツハブにおいて児童・生徒のスポーツ環境拡充に向けた取り組み →バドミントン体験教室等の実施

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
日常生活における歩数の増加	※平成28年 20歳～64歳 男性：6,387歩 女性：6,277歩 65歳以上 男性：4,572歩 女性：4,459歩		20歳～64歳 男性：9,000歩 女性：8,500歩 65歳以上 男性：7,000歩 女性：6,000歩 (平成35年度)
健康パスポートI取得者数	24,935人 (平成30年3月末)	34,683人 (平成31年1月末)	50,000人 (平成33年度)

基本方向 10	スポーツの振興を図る
対策 1-(7)	スポーツに親しむ場の確保

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																																								
<p>【取組①】</p> <p>学校の体育施設の開放を進めるとともに、施設が利用者にとってより利用しやすいものとなるよう、公共施設の開放状況等の情報共有など市町村等と連携して取り組みます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に応じた公共施設の有効利用の促進（保健体育課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 開放している学校の使用施設数及び団体登録数が昨年度を上回る。 	<p>ア 公共施設の有効利用の促進</p> <p>① 開放事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 開放している学校数・(市町村数)〈施設数〉・・29校(17市町村)〈56施設〉 →うち利用学校数・(市町村数)〈施設数〉・・22校(14市町村)〈33施設〉 ・団体登録数・・83団体 																																								
<p>【取組②】</p> <p>スポーツ施設や設備について、市町村や競技団体と連携し、必要な整備を計画的に進めます。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 拠点施設の整備（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ参加人口の拡大や競技力向上、新たな大会の開催や合宿誘致など、多面的なスポーツ振興につながる整備計画ができています。 	<p>ア 拠点施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> エリアの拠点となるスポーツ施設や各競技団体の活動拠点となるスポーツ施設の整備 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>整備内容</th> <th>取り組み状況</th> <th>所管課</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立青少年センター</td> <td>陸上競技場の改修</td> <td>計画どおり</td> <td>生涯学習課</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">須崎市海洋スポーツセンター</td> <td>船庫（既存）・管理研修棟の整備</td> <td>整備済み</td> <td rowspan="3">須崎市（スポーツ課）</td> </tr> <tr> <td>新船庫・トレーニング室の整備</td> <td>整備済み</td> </tr> <tr> <td>かまこし（1,000m）の整備</td> <td>整備済み</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内運動場防球ネットの改修</td> <td>計画の見直し ※着工時期</td> <td>公園下水道課（スポーツ課）</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内水泳場天井の耐震改修</td> <td>整備済み</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>野球場の耐震改修</td> <td>計画どおり</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>体育館防災施設照明LED化整備</td> <td>計画の見直し ※大別野（2020年度）</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内運動場防災施設照明LED化整備</td> <td>計画の前倒し （※2019.8）</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>土佐西南大規模公園</td> <td>テニスコート改修（張芝）</td> <td>整備済み</td> <td>公園下水道課</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	整備内容	取り組み状況	所管課	県立青少年センター	陸上競技場の改修	計画どおり	生涯学習課	須崎市海洋スポーツセンター	船庫（既存）・管理研修棟の整備	整備済み	須崎市（スポーツ課）	新船庫・トレーニング室の整備	整備済み	かまこし（1,000m）の整備	整備済み	春野総合運動公園	屋内運動場防球ネットの改修	計画の見直し ※着工時期	公園下水道課（スポーツ課）	春野総合運動公園	屋内水泳場天井の耐震改修	整備済み	公園下水道課	春野総合運動公園	野球場の耐震改修	計画どおり	公園下水道課	春野総合運動公園	体育館防災施設照明LED化整備	計画の見直し ※大別野（2020年度）	公園下水道課	春野総合運動公園	屋内運動場防災施設照明LED化整備	計画の前倒し （※2019.8）	公園下水道課	土佐西南大規模公園	テニスコート改修（張芝）	整備済み	公園下水道課
施設名	整備内容	取り組み状況	所管課																																						
県立青少年センター	陸上競技場の改修	計画どおり	生涯学習課																																						
須崎市海洋スポーツセンター	船庫（既存）・管理研修棟の整備	整備済み	須崎市（スポーツ課）																																						
	新船庫・トレーニング室の整備	整備済み																																							
	かまこし（1,000m）の整備	整備済み																																							
春野総合運動公園	屋内運動場防球ネットの改修	計画の見直し ※着工時期	公園下水道課（スポーツ課）																																						
春野総合運動公園	屋内水泳場天井の耐震改修	整備済み	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	野球場の耐震改修	計画どおり	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	体育館防災施設照明LED化整備	計画の見直し ※大別野（2020年度）	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	屋内運動場防災施設照明LED化整備	計画の前倒し （※2019.8）	公園下水道課																																						
土佐西南大規模公園	テニスコート改修（張芝）	整備済み	公園下水道課																																						
<p>【取組③】</p> <p>スポーツ施設だけでなく、例えば、福祉施設や商業施設のオープンスペース、統廃合された学校施設など、スポーツ施設以外の既存施設の有効活用により、スポーツができる場の創出を図ります。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 既存施設の有効活用（スポーツ課） 	<p>ア 既存施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回高知県スポーツ振興推進本部会議（5/25） 第1回高知県スポーツ振興県民会議（競技力向上部会）（5/30） 第1回高知県スポーツ振興県民会議（地域スポーツ推進部会）（5/31） 第1回高知県スポーツ振興県民会議（6/14） 第2回高知県スポーツ振興推進本部会議（8/21） 第2回高知県スポーツ振興県民会議（地域スポーツ推進部会）（9/3） 第2回高知県スポーツ振興県民会議（競技力向上部会）（9/4）※台風接近のため中止 第2回高知県スポーツ振興県民会議（9/12） 第3回高知県スポーツ振興推進本部会議（1/17） 第3回高知県スポーツ振興県民会議（地域スポーツ推進部会）（1/29） 第3回高知県スポーツ振興県民会議（競技力向上部会）（1/31） 第3回高知県スポーツ振興県民会議（2/8） 																																								

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31:目標値
身近な地域でスポーツ活動する場が増えている	-	-	-

対策
の
概要

既存の施設の有効活用やオープンスペース等のスポーツ施設以外の施設におけるスポーツができる場の創出を図るとともに、誰もが安心して活用できるスポーツ施設や地域の活性化につながるスポーツ施設の整備を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開放している学校の使用施設数及び団体登録数が昨年度を上回る。 ※新規登録は、市町村から送付される利用団体の申請書で適宜確認する。 団体登録数 83 (H29:87) 団体人数 1703 名 (H29:1576 名) <p><成果></p> <p>利用団体人数は130名近く増加している。</p> <p><課題></p> <p>団体登録数増加に向けて、各市町村との連携が必要。</p>	<p>開放事業の活用状況について、市町村に情報提供を行い、域内の体育会やスポーツ指導関係者等に県立学校施設の積極的な活用を促す。また、各関係団体の研修会等において、県立学校体育施設利用についての周知を図る。</p>
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ参加人口の拡大や競技力向上、新たな大会の開催や合宿誘致など、多面的なスポーツ振興につながる整備計画(案)ができています。 <p><成果></p> <p>概ね計画どおり整備が進んでいる。 (計画変更が必要な場合は、関係者と協議を行い、計画の見直しを行っている)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ参加人口の拡大や競技力の向上、オリンピック・パラリンピック事前合宿やプロ・アマ合宿の誘致など、新たな整備に向けた関係者との調整・検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備施設の進捗管理
<p><成果></p> <p>-</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 利用可能な施設の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 統廃合された学校や民間企業の施設など、施設の有効活用について、県民会議等で検討する。

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 2- (1) 新たなスポーツ推進体制による戦略的な競技力強化

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>各競技ごとに県内の小学生から一般までの有望選手を強化選手に指定し、県外の優秀な指導者を特別強化コーチとして配置して、年間を通じて定期的に質の高い強化練習を行う「全高知チーム」の活動を支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツ選手育成強化事業（全高知チームの活動支援）（スポーツ課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 全高知チームの数（9 団体） 	<p>ア 「全高知チーム」への活動支援</p> <p>①「全高知チーム」の認定（8 団体）</p> <p>サッカー・ラグビー・カヌー・剣道（4/11）、水泳飛込（4/26）、陸上競歩（6/5）、柔道（9/13）、卓球（9/20）</p> <p>②「全高知チーム」の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興監による特別強化コーチとの協議及び「全高知チーム」の視察巡回 カヌー（5/12）、剣道（5/12、7/15、10/19、11/17、1/12）、水泳飛込（5/19、7/21、10/14）柔道（10/13、2/2） ラグビー（5/19、6/16、7/21、8/19、9/17）卓球（11/10） レスリング（6/2、7/21）、ソフトボール（6/30、7/21、9/18） サッカー（6/18） 陸上競歩（7/15、12/22） 「全高知チーム」特別強化コーチによる強化練習 レスリング 全種別（3/10、11、6/2、3、7/21～23、11/17、18、23～25、1/26、27、2/9～11） ソフトボール 全種別（3/11、6/30、7/1、21、9/8、9、10/14、11/11、23、1/12、27） ラグビー 少年男子（4/14、5/19、6/15～17、7/14、15、8/18、19、9/16、17） 剣道 全種別（5/12、13、6/23、24、7/14、15、9/21～23、10/19～21、11/17～19、12/14～16、1/11～13） カヌー 全種別（5/12、13、6/9、10、9/21～23、12/22～25） 水泳飛込 少年女子（5/18～20、6/15～17、7/20～22、8/2～6、9/8、9、10/13、14、11/9～11、22～25、11/26～12/4） サッカー 少年男子（5/24、6/18、25、9/12、13、10/3、11/1、1/21、28、2/10） 陸上競歩 少男・成女（7/14、15、12/21～23）、短距離・跳躍（9/22、23） 卓球 全種別（11/10、11、12/1、2、24、25） 柔道 全種別（10/13、14、2/2、3） <p>11 月初旬までにヒアリングを行い、短期・中長期強化計画の見直しについて競技団体・県体協・スポーツ課で協議した。</p> <p>見直した強化計画を、各競技団体の PDCA シートに落とし込み、新たに国体年度を基準としたメルクマールの設定をし、進捗管理の徹底を行った。</p>
<p>【取組②】</p> <p>子どもたちが、自分の適正に応じたスポーツと出会い、可能性をつなぐ「高知県パスウェイシステム」を推進します。「高知県パスウェイシステム」では、子どもたちが自分にあった競技を見つけることのできる測定会や、県内の優れたジュニア選手が多様な運動プログラムを経験し、運動能力を高めることができる取組、さらに、中央競技団体と連携し、種目変更を含めて競技ごとに有望な選手を発掘する選考会を行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツ選手育成強化事業（高知県パスウェイシステム事業）（スポーツ課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> マッチングプログラムへの参加者数（450 名） 高知くろしおキッズ選考会への参加者数（200 名） チャレンジプロジェクトを実施する競技団体数（9 団体） 	<p>ア 高知県パスウェイシステムによる選手の発掘・育成</p> <p>①マッチングプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区別公立小・中学校長会での事業説明及び協力要請（西部：4/19、中部：4/24、東部：4/26）※高知市（6/5） （一社）健康ニッポン及び（一社）スポーツ能力発見協会との協議 マッチングプログラムの開催 西部（7/29：宿毛市総合体育館 申し込み者 31 名）※台風のため中止 東部（8/12：安田町中芸広域体育館 参加者 24 名） 中部（8/19：いの町県立青少年体育館 参加者 150 名） <p>②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア（※タレント発掘事業）</p> <p>○くろしおキッズ（小学生）74 名（4 年：23 名、5 年：31 名、6 年：20 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定式：（4/15） プログラム検討委員会（5/26） プログラム（4・5 年生と 6 年生で実施日が異なるため同じ回に複数日を記載） 第 1 回（4/15）、第 2 回（4/22）、第 3 回（5/12）、第 4 回（5/19） 第 5 回（5/26・6/2）、第 6 回（6/2・6/3）、第 7 回（6/10）、第 8 回（6/17）、 第 9 回（6/30）、第 10 回（悪天候のため中止）、第 11 回（7/28）、 第 12 回（8/11・8/26）、第 13 回（8/25・9/8）、第 14 回（9/8・9/24）

対策の概要

早い段階から自分にあった競技に出会い、障害の有無に関わらず、誰もがトップ選手を目指すことができる仕組みの構築と、選抜された有望選手が優秀な指導者に日常的に質の高い指導を受けられる環境の充実を図り、裾野の拡大と重点的な競技力の強化が継続的に行われる体制をつくります。

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全高知チーム：既設 10 団体 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 特別強化コーチとの協議により、全高知チームの趣旨説明と競技団体の作成した育成プログラム、短期戦略プランとPDCAシートの監修を特別強化コーチに依頼 全高知チームとして活動しているラグビー少年男子が国体で初入賞した。(7位) 設立予定の9競技がすべて揃い、柔道競技も加わり10競技団体で全高知チームを立ち上げることができた。 国体を基準とするメルクマールの設定をし、より具体的にPDCA管理が実施できるように見直しを行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> より効果的な取組に向けて、関係者の意識の統一と昨年度作成した各団体の育成・強化計画の見直しが必要。 全高知チームの中で、四国ブロック大会を突破できなかった競技があった。 全高知チームの活動について、サポートコーチ以外の県内の指導者の参加が少ない。 全高知チームの強化練習の質的向上。 全高知チームは現在10競技で設立しているが、より質の高い活動を求めることが必要であるとともに、より多くの団体で設立を目指す必要がある。 選手強化におけるPDCAの徹底が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別強化コーチによる指導(～3月) 県内指導者による合同練習(～3月) <ul style="list-style-type: none"> 特別強化コーチの質の高い指導を県内の指導者で共有し、日頃の練習に取り入れるように促す。 来年度の新たな全高知チームの設立に向けて、県スポーツ課と県体育協会が該当団体の関係者と設立に向けた協議を行う。 競技団体の実情に応じた効果的な強化 全高知チームによる重点強化 選手強化におけるPDCAの徹底
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> マッチングプログラムへの参加者数(450名) 参加者数：205名(西部：31名、東部：24名、中部：150名) ※西部地区は台風により中止したため、申し込み者数をカウント 高知くろしおキッズ選考会への参加者数(124名) 平成31年度キッズ合格者(4年20名、5年5名、計25名) アンケートの実施・集計(2～3月) チャレンジプロジェクトを実施する競技団体数(9団体) ※H30.12月に最終確認 <p><成果></p> <p>①マッチングプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム後のアンケートにおいて、今後の運動への取組に関して肯定的な意見が約8割あった。 <p>②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム検討委員会の委員から、プログラム実施に係る留意点や評価基準の明確化などについて助言があり、事業の運営に反映できている。 保護者プログラム キッズ・ジュニアと一緒にプログラムを行い知識を共有させることで、プログラム内容に対する意識が高まった。 JALネクストアスリートプロジェクトの実施(約320人参加) 	<p>①マッチングプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日の検討(情報収集) スタッフの確保及び測定内容・方法の検討 プログラム内容や分析・評価、周知方法等に関して関係団体と協議 より安全で効果的な運営の検討 <p>②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア</p> <ul style="list-style-type: none"> 育成プログラム(各種トレーニングや競技体験等) 来年度の日程調整及び各競技団体との本年度の成果と課題の確認(3月) より効果的な内容や運営方法を検討(3月) 修了式実施(3月) <p>③チャレンジプロジェクト(競技別プログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジプロジェクトの実施(次年度も含めて)について、県体育協会と連携して該当競技団体と協議 チャレンジプロジェクトの実施 ラグビー・ライフル射撃(3月)

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
	<p>第15回(9/15・10/14)、第16回(10/14・10/21)、 第17回(10/21・11/4)、第18回(11/4・11/10)、 第19回(11/10・11/17)、第20回(11/17・12/1)、 第21回(12/1・12/9)、第22回(12/9・12/15)、 第23回(12/15・12/16)、第24回(1/19)、第25回(1/26) ・夏期合宿(8/3~8/5)</p> <p>〇くろしおジュニア(中学生)34名(1年:17名、2年:9名、3年:8名) (1年生と2・3年生で実施日が異なるため同じ回に複数日を記載) ・認定式(8/3) ・プログラム 第1回(8/3・5/26)、第2回(10/14・8/4)、第3回(10/28)、第4回 (11/17・12/9)、第5回(1/19)</p> <p>③チャレンジプロジェクト ・サッカー(2/23,24)徳島県での四国4県対抗戦で来年度の国体選手選考を実施。 柔道(2/11,24)11日は中学・高校、一般の選手を対象に全高知の選手選考を 実施。</p>

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
全高知チームの数	2 競技団体	10 競技団体	10 競技団体
競技者育成プログラムに基づく育成強化を実践している競技団体数	36 競技団体	42 競技団体	40 競技団体

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>③ボールゲームフェスタの実施 (幼児(年中)～小学3年生81組、小学4～6年生80名の参加)</p> <p><課題></p> <p>①マッチングプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの参加者の受け入れ体制や参加者へフィードバックする内容の充実 ・効率的な運営を検討する必要がある ・夏の開催となり、熱中症等の安全面に課題が生じた ・測定結果の情報提供はできたが、競技団体へ繋げる情報提供ができなかった。 <p>②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア(※タレント発掘事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内容の充実及び講師によるキッズの能力評価についての充実 ・高知くろしおジュニアの出席率の向上 <p>③チャレンジプロジェクト</p> <p>各全高知チームの特別強化コーチの協力を得て、各全高知チームにおいて、効果的な発掘、選手選考を促す必要がある。</p>	

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 2- (2) 系統立てた育成・強化体制の確立

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>各競技団体ごとに競技者育成プログラムに基づいた育成・強化を推進するとともに、PDCAサイクルにより、競技団体の取組の評価・改善を徹底します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none">・競技スポーツ選手育成強化事業（育成プログラムによる育成強化）（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none">・競技者育成プログラム提出団体 36→46 団体へ	<p>ア 競技者育成プログラムによる育成強化</p> <ul style="list-style-type: none">①競技団体の取組状況を把握 PDCAシートの確認（4月～） ※提出団体 35種目（全47種目中）②競技者育成プログラムの作成依頼 競技団体担当者への説明会（5/7） ※提出団体 42種目（全47団体中） スポーツ課、県体協の競技担当者が連携し、各競技団体に育成プログラム及びPDCAシートの作成について説明。（5/19・20）③育成プログラムの作成方法（見本）を県体育協会のHPに掲載。 全高知チームを立ち上げている競技団体は11月初旬までにヒアリングを行った。その他の競技団体は11月末までに行い、短期・中長期強化計画の見直すとともに進捗管理を行った。
<p>【取組②】</p> <p>子どもたちが、自分の適正に応じたスポーツと出会い、可能性をつなぐ「高知県バスウェイシステム」を推進します。「高知県バスウェイシステム」では、子どもたちが自分にあった競技を見つけることのできる測定会や、県内の優れたジュニア選手が多様な運動プログラムを経験し、運動能力を高めることができる取組、さらに、中央競技団体と連携し、種目変更を含めて競技ごとに有望な選手を発掘する選考会を行います。【再掲】</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none">・競技スポーツ選手育成強化事業（高知県バスウェイシステム事業）（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none">・マッチングプログラムへの参加者数（450名）・高知くろしおキッズ選考会への参加者数（200名）・チャレンジプロジェクトを実施する競技団体数（9団体）	<p>ア 高知県バスウェイシステムによる選手の発掘・育成</p> <ul style="list-style-type: none">①マッチングプログラム ・地区別公立小・中学校長会での事業説明及び協力要請 （西部：4/19、中部：4/24、東部：4/26）※高知市（6/5） ・（一社）健康ニッポン及び（一社）スポーツ能力発見協会との協議 ・マッチングプログラムの開催 西部（7/29：宿毛市総合体育館 申し込み者31名）※台風のため中止 東部（8/12：安田町中芸広域体育館 参加者24名） 中部（8/19：いの町県立青少年体育館 参加者150名）②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア（※タレント発掘事業） <p>○くろしおキッズ（小学生）74名（4年：23名、5年：31名、6年：20名）</p> <ul style="list-style-type: none">・認定式：（4/15）・プログラム検討委員会【5/26】・プログラム（4・5年生と6年生で実施日が異なるため同じ日に複数日を記載） 第1回（4/15）、第2回（4/22）、第3回（5/12）、第4回（5/19）、 第5回（5/26・6/2）、第6回（6/2・6/3）、第7回（6/10）、第8回（6/17）、 第9回（6/30）、第10回（悪天候のため中止）、第11回（7/28）、 第12回（8/11・8/26）、第13回（8/25・9/8）、第14回（9/8・9/24）、 第15回（9/15・10/14）、第16回（10/14・10/21）、 第17回（10/21・11/14）、第18回（11/4・11/10）、 第19回（11/10・11/17）、第20回（11/17・12/1）、 第21回（12/1・12/9）、第22回（12/9・12/15）、 第23回（12/15・12/16）、第24回（1/19）、第25回（1/26）・夏期合宿（8/3～8/5） <p>○くろしおジュニア（中学生）34名（1年：17名、2年：9名、3年：8名） （1年生と2・3年生で実施日が異なるため同じ日に複数日を記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・認定式（8/3）・プログラム 第1回（8/3・5/26）、第2回（10/14・8/4）、第3回（10/28）、第4回（11/17・12/9）、第5回（1/19） <p>○チャレンジプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none">・サッカー（2/23、24）徳島県での四国4県対抗戦で来年度の国体選手選考を行った。・柔道（2/11、24）11日は中学・高校・一般の選手を対象に全高知の選手選考を行った。

対策
の
概要

各競技団体によるジュニアから成人まで系統立てた一貫指導を促進するとともに、各年代に応じた重点的な育成・強化を進め、幅広い年代の競技力向上を図ります。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・競技者育成プログラム提出団体 36→42種目へ
(5種目が未提出)

<成果>

- ・新規に競技者育成プログラムを作成する競技団体が増えているとともに、既に作成している団体においても、より質の高い取り組みを目指してプログラムの見直しが進められている。

<課題>

- ・育成プログラム、PDCAシートが未提出の種目がある。
- ・提出済みの団体においては、より効果的な取組を展開するために育成プログラム及びPDCAシートの見直しを定期的・継続的に行うことが必要。
- ・福井団体の結果を踏まえて、育成・強化計画の見直しが必要。

- ・育成プログラム、PDCAシートが未提出の競技団体に対して、県スポーツ課と県体育協会が連携し、今年度中の提出に向けて作成のサポートを行う。
- ・育成プログラム、PDCAシートの修正に関して、他の競技団体の作成資料の提供や中央競技団体の協力依頼などの支援を行う。

【KPI の状況】

- ・マッチングプログラムへの参加者数 (450名)
参加者数：205名 (西部：31名、東部：24名、中部：150名)
※西部地区は台風により中止したため、申し込み者数をカウント
- ・高知くろしおキッズ選考会への参加者数 (124名)
平成31年度キッズ合格者 (4年20名、5年5名、計25名)
- ・アンケートの実施 集計 (2～3月)
- ・チャレンジプロジェクトを実施する競技団体数 (9団体)
※H30.12月に最終確認

<成果>

①マッチングプログラム

- ・プログラム後のアンケートにおいて、今後の運動への取組に関して肯定的な意見が約8割あった。

②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア

- ・プログラム検討委員会の委員から、プログラム実施に係る留意点や評価基準の明確化などについて助言があり、事業の運営に反映できている。

保護者プログラム

キッズ・ジュニアと一緒にプログラムを行い知識を共有させることで、プログラム内容に対する意識を高まった。

JALネクストアスリートプロジェクトの実施 (約320人参加)

③ボールゲームフェスタの実施

(幼児(年中)～小学3年生81組、小学4～6年生80名の参加)

<課題>

①マッチングプログラム

- ・より多くの参加者の受け入れ体制や参加者へフィードバックする内容の充実
- ・効率的な運営を検討する必要がある
- ・夏の開催となり、熱中症等の安全面に課題が生じた
- ・測定結果の情報提供はできたが、競技団体へ繋げる情報提供ができなかった。

②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア (※タレント発掘事業)

- ・プログラム内容の充実及び講師によるキッズの能力評価についての充実
- ・高知くろしおジュニアの出席率の向上

③チャレンジプロジェクト

各全高知チームの特別強化コーチの協力を得て、各全高知チームにおいて、効果的な発掘、選手選考を促す必要がある。

①マッチングプログラム

- ・開催日の検討 (情報収集)
- ・スタッフの確保及び測定内容・方法の検討
- ・プログラム内容や分析・評価、周知方法等に関して関係団体と協議
- ・より安全で効果的な運営の検討

②高知くろしおキッズ・高知くろしおジュニア

来年度の日程調整及び各競技団体との本年度の成果と課題の確認 (2～3月) 今後の方向性に向けより効果的な内容や運営方

- ・育成プログラム (各種トレーニングや競技体験等)

修了式実施 (3月)

③チャレンジプロジェクト (競技別プログラム)

- ・チャレンジプロジェクトの実施 (次年度も含め)
- ①) について、県体育協会と連携して該当競技団体と協議

チャレンジプロジェクトの実施
ラグビー ライフル射撃 (3月)

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

ジュニアからの系統立てた指導体制の確立を進めるうえで核となる、高等学校の運動部活動の充実を図るため、県立高等学校の中から運動部活動強化拠点校及び運動部活動強化推進校を指定し、専門的な指導ができる顧問の配置や活動費の支援を行います。

また、県内の私立高等学校の中で、近年の競技実績が高い運動部がある学校を強化推進校として指定し、活動費の支援を行います。

<具体的な事業>

- ・運動部活動強化校支援事業（保健体育課）
- ・高知県私立高等学校運動部活動強化校支援事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・私立高等学校の強化推進校である、明德義塾高校の卓球部（男・女）、相撲部の3部活動が全国大会で団体入賞する。

ア 運動部活動の支援

①県立高等学校の強化

区分	学校名
強化拠点校 (東・中・西部の各地域の拠点校)	東部：安芸高等学校 中部：阿豊高等学校、高知工業高等学校 西部：中村高等学校
強化推進校A (優秀な実績を有する部)	山田高等学校 陸上競技部 高知東高等学校 レスリング部 高知南高等学校 レスリング部 高知丸の内高等学校 女子ソフトボール部
強化推進校B (地域の特色をいかした活動を行う部)	幡多農業高等学校 ボード部 梶原高等学校 アーチERY部 佐川高等学校 ソフトボール部 嶺北高等学校 カヌー部 室戸高等学校 女子硬式野球部 須崎高等学校 カヌー部 梶原高等学校 硬式野球部 幡多農業高等学校 馬術部

②私立高等学校の強化

- ・明德義塾高校へ支援制度の説明（4/23）
- ・私学管理職研修での支援制度の説明【計画：6/1】
- ・該当学校への支援に関する事務手続きの完了（8/8）

【取組④】

県内トップ選手の活動をさらに充実させるための経費面の支援を行うとともに、県競技団体が中央競技団体と連携し、計画的・戦略的にトップ選手の育成・強化を行う一貫指導体制の整備を支援します。【再掲】

<具体的な事業>

- ・競技スポーツ選手育成強化事業【特別強化選手支援】（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数（S指定：10名、A指定：25名、B指定：55名）

ア トップ選手の育成・強化

- ・活動費の交付（4月～）
- * S指定 8名
〔水泳（飛込）、レスリング、フェンシング、ウイリアムズラグビー、テフ陸上、パラバドミントン〕
- * A指定 23名
〔水泳（競泳）、陸上競技、卓球、剣道、クレー射撃、レスリング、ゴルフ、ソフトボール、パラ射撃、パラクレーシング〕
- * B指定 50名
〔水泳（競泳・飛込・アーティスティックスイミング）、陸上競技、ホッケー、バスケットボール、卓球、柔道、レスリング、ゴルフ、ソフトボール、パラカー、車いすバスケットボール〕
- 特別強化指定選手を対象とした第1回メンタルサポート講習会実施（7/19）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

(平成 30 年度全国高等学校総合体育大会結果 上位成績)
 高知工業高等学校 自転車(1km タイムトライアル)4 位、自転車 (3km 追い抜き) 8 位、水泳 (高飛込) 8 位
 高知東高等学校レスリング部 女子 53kg 級 2 位、女子 62kg 級 3 位
 (平成 30 年度四国高等学校総合体育大会結果 上位成績)
 岡豊高等学校 陸上 5000m 競歩男子優勝、ソフトボール男子 2 位、柔道男子団体 3 位、100kg 級優勝、弓道団体男子優勝、弓道団体女子 2 位、弓道個人女子 2 位、ボクシングバンタム級 2 位等
 高知工業高等学校 自転車 (1kmTT、3km 追い抜き) 優勝、自転車 4km タイムトライアル 2 位、少林寺拳法規定組演武優勝、団体演武総合 2 位、等
 中村高等学校 カヌー女子カヤックペア優勝 (西土佐分校)
 高知東高等学校レスリング部 47kg 級女子 2 位、50kg 級女子 2 位、53kg 級女子優勝、74kg 級女子 2 位、等
 高知南高等学校 50kg 級女子優勝、62kg 級女子優勝 等

- ・私立高等学校の強化推進校である、明德義塾高校の卓球部 (男・女)、相撲部の 3 部活動が全国大会で団体入賞する。
 ※中間確認でインターハイで卓球部男子団体 5 位、女子団体 3 位、相撲部が全国選抜大会で団体 2 位
 ※H31.3 月に最終確認
 ※県立学校 (参考) (平成 30 年度全国高等学校総合体育大会結果上位成績)
 高知工業高等学校 (拠点校)
 ・自転車(1km タイムトライアル)4 位、自転車 (3km 追い抜き) 8 位、水泳 (高飛込) 8 位
 高知東高等学校レスリング部 (推進校 A)
 ・女子 53kg 級 2 位、女子 62kg 級 3 位

<成果>

- ① 県立高等学校の強化
 - ・各強化校での取組が計画的に進んでいる。
 - ・全国総体では個人種目で 5 つの入賞ができた。
- ② 私立高等学校の強化
 - ・明德義塾高等学校 (卓球 男・女、相撲) 3 部活を認定。(8/8)
 - ・H30 年度インターハイで卓球部男子団体 5 位、女子団体 3 位入賞。
 - ・第 57 回全国選抜高校相撲十和田大会で団体 2 位入賞。

<課題>

- ① 県立高等学校の強化
 県立学校に係る運動部活動の方針に基づく運動部活動の運営と強化校の在り方については検討する必要がある。
- ② 来年度の強化支援校の決定

【KPI の状況】

・特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数 (S 指定 : 10 名、A 指定 : 25 名、B 指定 : 55 名)
 ・2019 年度の特別強化選手の各カテゴリーの指定選手数の確定数 (S 指定 : 12 名、A 指定 : 30 名、B 指定 : 38 名)
 ※平成 30 年度の特別強化選手の数 (S 指定 : 8 名、A 指定 : 23 名、B 指定 : 50 名)

<成果>

- ・競技スポーツ選手育成強化事業の取組により、特別強化選手の中で、全国大会入賞や世界大会出場・優勝などの成果が出ている。
- ・特別強化 S 指定選手 (ウィルチエアーラグビー選手 : 日本代表キャプテン) が、8/5 ~ 8/10 にオーストラリアで開催された世界選手権で優勝。
- ・特別強化 S 指定選手 (パラバドミントン選手) アジアパラ大会に日本代表として出場し、SL3 男子シングルスベスト 8。
- ・特別強化 A 指定選手 (パラ射撃選手) アジアパラ大会に日本代表として出場。

① 県立高等学校の強化

- 県立学校に係る運動部活動の方針に基づく運動部活動の運営と強化校の在り方について検討し、必要に応じて改善を図る。
- ・スポーツ課と連携し、指定校の取組状況を定期的に情報交換を行い、必要に応じて改善を図る

② 私立高等学校の強化

- 指定校の取組状況を把握し、必要に応じて改善を求める。(9 月 ~ 3 月)
- ・来年度の強化校指定のため、情報収集を行い、強化支援校を決定する。決定後は該当校への支援内容の説明やヒアリングを順次行う。
- ・来年度の強化指定運動部活動として、明德義塾高校の野球部が加入予定。

- ・選手の活動状況や関係者のサポート体制などについて、該当者へのヒアリングにより実態を把握する (9 月 ~ 3 月)

--	--

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
国民体育大会の入賞競技数	15 競技	10 競技	17 競技
特別強化選手の数	73 名	81 名	85 名
全国中学校体育大会の入賞競技数	6 競技	5 競技	9 競技
全国高等学校総合体育大会の入賞競技数	6 競技	5 競技	9 競技
中央競技団体等（障害者スポーツ）に登録されている県内競技者数	192 名		200 名

<p>【主な成績】</p> <ul style="list-style-type: none">*S 指定：ウチアキアキ（世界選手権 優勝）、リリング（世界大会出場、IH 3位、アジア選手権 2位）、飛込（日本選手権 1位）*A 指定：リリング（IH 1,2位）、卓球（IH 3位、日本代表）*B 指定：リリング（世界大会出場、全国中学選抜 1位）、陸上（日本Jr 3位、飛び込み（世界大会出場）） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・個々の選手や競技団体の実情に応じた支援体制の充実	
---	--

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 2- (3) 指導者の育成及び受け入れの推進

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組①】

将来、本県のスポーツ界を担う指導者の育成に向け、コーチングに必要な総合的な内容を学ぶことができる研修会を開催します。

<具体的な事業>

- ・コーチアカデミーの開催（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・コーチアカデミーの修了者数（25名）

ア 指導者の育成

① コーチアカデミーの開催

- ・講師との日程調整（4月～）
- ・全日程の確定

【計画】

回	開催月	テーマ
1	9月	コミュニケーション
2	10月	コーチに求められる能力としてのトレーニング科学
3	10月	新しい時代にふさわしいコーチング
4	11月	7つの習慣
5	11月	コーチに求められる能力
6	12月	女性スポーツの広がりや女性アスリートへの配慮
7	12月	障がい者スポーツとは
8	12月	地域タレントの育成におけるフィジカルトレーニング

【取組②】

「スポーツの楽しさを伝え、様々な動きを取り入れながら、基礎基本を身につけることのできる」指導者、「全国入賞レベルの指導ができる」指導者、「競技団体のマネジメントができる」指導者など、育成する指導者像を明確にし、計画的な指導者の育成を行います。

<具体的な事業>

- ・コーチアカデミーの開催（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・コーチアカデミーの修了者数（25名）

ア 指導者の育成

① コーチアカデミーの開催

- ・講師との日程調整（4月～）
- ・全日程の確定

【計画】

回	開催月	テーマ
1	9月	コミュニケーション
2	10月	コーチに求められる能力としてのトレーニング科学
3	10月	新しい時代にふさわしいコーチング
4	11月	7つの習慣
5	11月	コーチに求められる能力
6	12月	女性スポーツの広がりや女性アスリートへの配慮
7	12月	障がい者スポーツとは
8	12月	地域タレントの育成におけるフィジカルトレーニング

【取組③】

すべてのスポーツ指導者の障害者スポーツに関わる意識が高まるよう、障害者スポーツに関する理解啓発や研修会の充実を図ります。

<具体的な事業>

- ・コーチアカデミーの開催（スポーツ課）
- ・障害者スポーツ指導員養成事業（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・コーチアカデミーの修了者数（25名）
- ・障害者スポーツ指導員の増加（218名→230名）

ア 指導者の育成

① コーチアカデミーの開催

- ・講師との日程調整（4月～）
- ・全日程の確定

【計画】

回	開催月	テーマ
1	9月	コミュニケーション
2	10月	コーチに求められる能力としてのトレーニング科学
3	10月	新しい時代にふさわしいコーチング
4	11月	7つの習慣
5	11月	コーチに求められる能力
6	12月	女性スポーツの広がりや女性アスリートへの配慮
7	12月	障がい者スポーツとは
8	12月	地域タレントの育成におけるフィジカルトレーニング

② 障害者スポーツ指導員養成事業

- ・高知県障害者スポーツ指導者協議会との委託契約の締結（5/10）
- ・上級障がい者スポーツ指導員養成講習会への派遣（前期）（8/30～9/2実施）（後期）（11/3～11/6実施）

対策の概要

継続的に質の高い指導が実践されるよう、育成する指導者像を明確にした計画的な指導者育成を進めるとともに、県外や国外の優秀な指導者の招へいや本県への受入れを積極的に進めます。

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチアカデミーの修了者数 (22名) <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の日程及び講師が確定した。 ・各競技団体推薦の30名の受講。1回目の講義内容により、受講者同士で積極的な意見交換ができる関係が築けた。 ・受講者の意識が高く、積極的に参加できている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカリキュラムの実施 ・スポーツに関する多様な指導者を計画的に育成するためのプランの検討が必要 民間クラブチーム等の指導者が研修を受講する動機付けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県体育協会と連携し、講師との事前打合せを徹底する ・県体育協会、県障害者スポーツセンターなどと連携し、今後の指導者育成計画について高知県スポーツ振興県民会議等で協議する ・競技団体が組織的、計画的な指導者育成を行うための指導者育成計画の作成し、計画に基づく研修を主体的に実施するよう促す。
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチアカデミーの修了者数 (22名) <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の日程及び講師が確定した。 ・各競技団体推薦の30名の受講。1回目の講義内容により、受講者同士で積極的な意見交換ができる関係が築けた。 ・受講者の意識が高く、積極的に参加できている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカリキュラムの実施 ・スポーツに関する多様な指導者を計画的に育成するためのプランの検討が必要 民間クラブチーム等の指導者が研修を受講する動機付けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県体育協会と連携し、講師との事前打合せを徹底する ・県体育協会、県障害者スポーツセンターなどと連携し、今後の指導者育成計画について高知県スポーツ振興県民会議等で協議する ・競技団体が組織的、計画的な指導者育成を行うための指導者育成計画の作成し、計画に基づく研修を主体的に実施するよう促す。
<p>【KPI の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチアカデミーの修了者数 (22名) ・障がい者スポーツ指導員の増加 (218名→230名) (10月現在 220名) <p><成果></p> <p>①コーチアカデミーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の日程及び講師が確定した。 ・各競技団体推薦の30名の受講。1回目の講義内容により、受講者同士で積極的な意見交換ができる関係が築けた。 ・受講者の意識が高く、積極的に参加できている。 <p>②障害者スポーツ指導員養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月～12月に実施する指導員養成講習会への派遣及び講習会の開催に向けて準備が進んでいる。 ・上級障がい者スポーツ指導員養成講習会〔前期〕〔後期〕への派遣 <p><課題></p> <p>①コーチアカデミーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカリキュラムの実施 ・スポーツに関する多様な指導者を計画的に育成するためのプランの検討が必要 民間クラブチーム等の指導者が研修を受講する動機付けが必要。 <p>②障害者スポーツ指導員養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の増加 	<p>①コーチアカデミーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県体育協会と連携し、講師との事前打合せを徹底する ・県体育協会、県障害者スポーツセンターなどと連携し、今後の指導者育成計画について高知県スポーツ振興県民会議等で協議する ・競技団体が組織的、計画的な指導者育成を行うための指導者育成計画の作成し、計画に基づく研修を主体的に実施するよう促す。 <p>②障害者スポーツ指導員養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ指導員養成講習会（中級）の実施 (次年度8月～12月頃までに前期、後期、各4日の計8日間の開催予定)

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組④】

「全高知チーム」の取組や有望選手を発掘する取組などを通して、県外の優秀な指導者に特別強化コーチとして、本県スポーツに関わってもらふ機会を増加させるなど、移住を含めて本県への受入れに向けた取組を進めます。

<具体的な事業>

・競技スポーツ選手育成強化事業（全高知チームの活動支援）（スポーツ課）

<取組のKPI>

・全高知チームの数（9団体）

ア 「全高知チーム」への活動支援

① 「全高知チーム」の認定（8団体）

サッカー・ラグビー・カヌー・剣道（4/11）、水泳飛込（4/26）、陸上競歩（6/5）、柔道（9/13）、卓球（9/20）

② 「全高知チーム」の活動支援

・スポーツ振興監による特別強化コーチとの協議及び「全高知チーム」の視察巡回

カヌー（5/12）、剣道（5/12、7/15、10/19、11/17、1/12）、水泳飛込（5/19、7/21、10/14）柔道（10/13、2/2）

ラグビー（5/19、6/16、7/21、8/19、9/17）卓球（11/10）

レスリング（6/2、7/21）、ソフトボール（6/30、7/21、9/18）

サッカー（6/18） 陸上競歩（7/15、12/22）

・「全高知チーム」特別強化コーチによる強化練習

レスリング 全種別（3/10、11、6/2、3、7/21～23、11/17、18、23～25、1/26、27、2/9～11）

ソフトボール 全種別（3/11、6/30、7/1、21、9/8、9、10/14、11/11、23、1/12、27）

ラグビー 少年男子（4/14、5/19、6/15～17、7/14、15、8/18、19、9/16、17）

剣道 全種別（5/12、13、6/23、24、7/14、15、9/21～23、10/19～21、11/17～19、12/14～16、1/11～13）

カヌー 全種別（5/12、13、6/9、10、9/21～23、12/22～25）

水泳飛込 少年女子（5/18～20、6/15～17、7/20～22、8/2～6、9/8、9、10/13、14、11/9～11、22～25、11/26～12/4）

サッカー 少年男子（5/24、6/18、25、9/12、13、10/3、11/1、1/21、28、2/10）

陸上競歩 少男・少女（7/14、15、12/21～23）、短距離・跳躍（9/22、23）

卓球 全種別（11/10、11、12/1、2、24、25）

柔道 全種別（10/13、14、2/2、3）

11月初旬までにヒアリングを行い、短期・中長期強化計画の見直しについて競技団体・県体協・スポーツ課で協議した。

見直した強化計画を、各競技団体のPDCAシートに落とし込み、新たに国体年度を基準としたメルクマールの設定をし、進捗管理の徹底を行った。

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
日本スポーツ協会公認指導者数	1,237名	1,243名	1,350名
コーチアカデミー修了者数（累積）	45名 (H29)	66名 (H30)	70名
障害者スポーツ指導員数	初級：133名 中級：69名 上級：16名	初級：138名 中級：67名 上級：17名	初級：140名 中級：72名 上級：18名

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

・全高知チーム：既設 10 団体

<成果>

- ・特別強化コーチとの協議により、全高知チームの趣旨説明と競技団体の作成した育成プログラム、短期戦略プランとPDCAシートの監修を特別強化コーチに依頼
- ・全高知チームとして活動しているラグビー少年男子が国体で初入賞した。(7位)
- ・設立予定の9競技がすべて揃い、柔道競技も加わり10競技団体で全高知チームを立ち上げることができた。

国体を基準とするメルクマールの設定をし、より具体的にPDCA管理が実施できるように見直しを行った。

<課題>

- ・より効果的な取組に向けて、関係者の意識の統一と昨年度作成した各団体の育成・強化計画の見直しが必要。
- ・全高知チームの中で、四国ブロック大会を突破できなかった競技があった。
- ・全高知チームの活動について、サポートコーチ以外の県内の指導者の参加が少ない。
- ・全高知チームの強化練習の質的向上。

全高知チームは現在10競技で設立しているが、より質の高い活動を求めることが必要であるとともに、より多くの団体で設立を目指す必要がある。選手強化におけるPDCAの徹底が必要。

- ・特別強化コーチによる指導(～3月)
- ・県内指導者による合同練習(～3月)

- ・特別強化コーチの質の高い指導を県内の指導者で共有し、日頃の練習に取り入れるように促す。
- ・来年度の新たな全高知チームの設立に向けて、県スポーツ課と県体育協会が該当団体の関係者と設立に向けた協議を行う。

競技団体の実情に応じた効果的な強化
全高知チームによる重点強化
選手強化におけるPDCAの徹底

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 2-(4) スポーツ医科学の効果的な活用

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
<p>【取組①】</p> <p>県下全域において、スポーツ活動を行う者が質の高いスポーツ医科学サポートを受けられるよう、県中央部にスポーツ医科学拠点を整備するとともに、東部と西部におけるスポーツ医科学のサテライト機能の充実を図ります。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医科学拠点の整備（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中にスポーツ医科学拠点が整備されている。 	<p>ア 施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者との協議（4月から随時） ・建築設計業務委託入札（6月から7月） ・建築設計業務委託契約締結（7月） ・スポーツ医科学拠点の実施業務の精査 ・スポーツ医科学拠点の設置機器の精査 ・スポーツ医科学拠点整備に伴う倉庫新築工事着手（9月～） ・スポーツ医科学拠点の整備工事入札公告（10月） ・スポーツ医科学拠点整備に伴う倉庫新築工事完了（～11月） ・スポーツ医科学拠点整備に伴う物品関連入札完了（11月） ・スポーツ医科学拠点の整備工事入札及び契約締結（11月） ・スポーツ医科学拠点整備工事着手（11月～）
<p>【取組②】</p> <p>スポーツ医科学面からのサポートの質的向上を図るため、大学や日本スポーツ振興センターと連携し、スポーツ医科学の専門的な知見を有する人材の活用を積極的に行い、各競技団体や運動部活動、障害者スポーツチームなどのスポーツ現場に対して、データによる動作分析やメンタルトレーニング、専門的な体力測定に基づくトレーニング指導などを広く提供します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医科学サポート事業（競技力向上サポート）（スポーツ課） <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックサポートを利用する競技団体、運動部活動の総数が前年度比5%増 	<p>ア スポーツ医科学サポートの実施</p> <p>①トータルサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象団体との打合せ（5月） ・メディカルチェック 第1回メディカルチェック委員会（5/22） 第1回メディカル判定委員会・内科（9/25） 第1回メディカル判定委員会・整形外科（9/28） 第2回メディカル判定委員会・内科・整形外科（2/5） ・専門体力測定 明徳義塾高校ゴルフ部 26名（4/21、22） パラクライミング 3名（6/3） 高知中・高校陸上部 6名（7/27） ・第1回メンタルサポート講習会（特別強化選手S/A指定）7/17・7/19（指導者）（選手） ・第2回メンタルサポート講習会（特別強化選手S/A指定）9/3・9/6（指導者）（選手） <p>②ベーシックサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門体力測定の実施に関する関係団体等への周知（5/11） <周知先団体> 高知県体育協会加盟競技団体、高知県高等学校体育連盟、県内各高等学校 ・専門体力測定 岡豊高校女子バレー部7名（6/10）、中央高校女子バレー部16名（6/13） 明徳義塾ソフト部9名（7/31）、中村高校女子陸上部9名（8/1） 男子陸上部（8/23）、東高校ハンドボール部14名（8/28）、 中央高校女子バレー部18名（9/5）、丸の内高校及び高知県カヌー協会5名（10/20）、個人測定者1名（10/27）、今治東高校陸上部11名（11/24） 明徳義塾高校女子ソフトテニス部7名（12/18）、高知小津高校女子ソフトテニス部7名（1/14） ・トレーニング指導 岡豊高校女子バレー部（7/20）、明徳義塾ソフト部（8/31）、東高校ハンドボール部（10/17）、鏡野中学校選択授業（10/17）、丸の内高校カヌー部（12/6） 明徳義塾高校女子ソフトテニス部（1/18）、高知小津高校女子ソフトテニス部（1/25）

対策
の
概要

競技力向上や健康づくりなど様々なスポーツ活動において、スポーツ医学が効果的に活用されるよう、多様な団体や個人に対してスポーツ医学面からのサポートを展開します。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・今年度中にスポーツ医学拠点整備されている。

<成果>

- ・スポーツ医学拠点整備に向けた実施業務や設置機器を確認
- ・スポーツ医学拠点整備に向けた施設的设计業務の契約及び設計確認
- ・スポーツ医学拠点整備に向けた工事入札公告及び入札、契約締結
- ・スポーツ医学拠点整備工事着手

<課題>

- ・整備後の具体的な活用方法の周知
- ・スポーツ医学拠点整備に向けての実施業務に合わせた機器の最終確認
- ・来年度 4 月の運用開始に向けて関係者との調整が必要。

- ・拠点施設整備の進捗管理
- ・スポーツ医学拠点設置後の活用増に向けた周知
- ・工事（9月～3月）
- ・利用開始（4月）
- ・来年度 4 月の運用開始に向けて、年内に業務の流れの確認や関係者との調整などを行う。

【KPI の状況】

- ・ベーシックサポートを利用する競技団体、運動部活動の総数が前年度比 5% 増 ※H31.3 月に集計

<成果>

- ・トータルサポートの対象選手及び団体には、事業の理解が得られ、具体的なサポートがスタートしている。
- ・ベーシックサポートの周知がなされ、利用を希望する団体からの問い合わせが増えている。
- ・ベーシックサポートについて専門体力測定、トレーニング指導、実施団体が昨年度に比べ増加している
- ・トータルサポート事業（メンタルサポート）について実施団体の増加、障害者スポーツへのサポートを実施。

・スポーツ医学について各競技団体の理解が進んでいる。

<課題>

- ・より質の高いサポートができるよう体制の整備が必要。
- ・スポーツ医学を活用する選手や団体の増加
- ・競技団体における活用体制の充実や、関係団体との連携体制の構築が必要。

- ・全ての選手や競技団体が対象となるベーシックサポートの活用について、年間を通して定期的に周知を行う
- ・県体育協会と連携し、スポーツ医学活用の効果があった事例を競技団体関係者が集まる会議等を捉えて積極的に紹介し、理解啓発する
- ・トータルサポートの対象選手及び団体に積極的に呼びかけを行い、サポートへの理解、実施を求める。
- ・新たに整備するスポーツ医学拠点を核として、関係団体が連携した質の高いサポートを実施。
- ・競技団体内にスポーツ医学コーディネーターを位置づけ、スポーツ医学拠点との連携を強化する。

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

<p>【取組③】</p> <p>運動部活動や競技ごとの強化事業を通じて、アスレチックトレーナーなどの有資格者からサポートを受けることのできる機会の拡大を図るため、スポーツトレーナーの資格取得につながる県独自の講習会を実施することなどにより、スポーツトレーナーの養成を図ります。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医科学サポート事業（指導者等育成）（スポーツ課） <p><取組の KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医科学コーディネーターの競技団体への配置 5 競技団体 	<p>ア スポーツ医科学をサポートする人材の育成</p> <p>①スポーツ医科学コーディネーターの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県体育協会との打合せ（5月） ・スポーツ医科学講習会（2/2） <p>②スポーツ医科学サポーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスレチックトレーナー協議会との打合せ（5/17） ・理学療法士協会との打合せ（5月） ・協力依頼団体との打ち合わせ （メンタル）高知大学（1/28） （栄養）高知県スポーツ栄養士研究会（1/29） （コンディショニング）高知県アスレティック協議会（1/29）
---	---

2 第 2 期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31 目標値
スポーツ医科学担当者を配置し、組織的にスポーツ医科学を活用している競技団体の数	-		10 団体以上

C 取組の成果・課題・留意点

【KPIの状況】

- ・スポーツ医科学コーディネーターの競技団体への配置 5 競技団体
- ※H30.11月に確認

<成果>

- ・スポーツ医科学サポーターの育成に関しては、関係者から概ね理解が得られている。
- ・スポーツ医科学講習会を実施し、スポーツ医科学の理解が各競技団体に広がっている。
- ・スポーツ医科学サポーター育成の具体的な方向性が明確になっている。

<課題>

- ①スポーツ医科学コーディネーターの育成
 - ・スポーツ医科学コーディネーターを早期に配置し、具体的な取組につなげる必要がある
- ②スポーツ医科学サポーター
 - ・スポーツ医科学サポーターの養成に向けた具体的な取組を早期に進める必要がある

A 今後の取組の方向

- ①スポーツ医科学コーディネーターの育成
 - ・県体育協会と連携し、スポーツ医科学コーディネーターの配置について、各競技団体に説明するとともにコーディネーターを対象とした講習会を実施する
 - 医科学分野活用のための講習会の実施（10月～3月）
 - ・スポーツ医科学について各競技団体への理解を進めるために定期的に講習会を実施する。
- ②スポーツ医科学サポーター
 - ・スポーツ医科学サポーターの養成に向けて、高知県理学療法士協会や高知県アスレティックトレーナー協議会と協議する。（3月）

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 2- (5) スポーツ施設・設備の整備

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況																																								
<p>【取組①】 スポーツ施設や設備について、市町村や競技団体と連携し、必要な整備を計画的に進めます。【再掲】</p> <p><具体的な事業> ・拠点施設の整備（スポーツ課）</p> <p><取組のKPI> ・スポーツ参加人口の拡大や競技力向上、新たな大会の開催や合宿誘致など、多面的なスポーツ振興につながる整備計画ができています。</p>	<p>ア 拠点施設の整備 ・エリアの拠点となるスポーツ施設や各競技団体の活動拠点となるスポーツ施設の整備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>整備内容</th> <th>取組み状況</th> <th>所管課</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立青少年センター</td> <td>陸上競技場の改修</td> <td>計画どおり</td> <td>生涯学習課</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">須崎市海洋スポーツセンター</td> <td>船庫（既存）・管理研修棟の整備</td> <td>整備済み</td> <td rowspan="3">須崎市（スポーツ課）</td> </tr> <tr> <td>新船庫・トレーニング室の整備</td> <td>整備済み</td> </tr> <tr> <td>カーゴス（1,000m）の整備</td> <td>整備済み</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内運動場防球ネットの改修</td> <td>計画の見直し ※着工時期</td> <td>公園下水道課（スポーツ課）</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内水泳場天井の耐震改修</td> <td>整備済み</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>野球場の耐震改修</td> <td>計画どおり</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>体育館防災施設照明LED化整備</td> <td>計画の見直し ※次年度（2020年度）</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>春野総合運動公園</td> <td>屋内運動場防災施設照明LED化整備</td> <td>計画の前倒し （～2019/8）</td> <td>公園下水道課</td> </tr> <tr> <td>土佐西南大規模公園</td> <td>テニスコート改修（張芝）</td> <td>整備済み</td> <td>公園下水道課</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	整備内容	取組み状況	所管課	県立青少年センター	陸上競技場の改修	計画どおり	生涯学習課	須崎市海洋スポーツセンター	船庫（既存）・管理研修棟の整備	整備済み	須崎市（スポーツ課）	新船庫・トレーニング室の整備	整備済み	カーゴス（1,000m）の整備	整備済み	春野総合運動公園	屋内運動場防球ネットの改修	計画の見直し ※着工時期	公園下水道課（スポーツ課）	春野総合運動公園	屋内水泳場天井の耐震改修	整備済み	公園下水道課	春野総合運動公園	野球場の耐震改修	計画どおり	公園下水道課	春野総合運動公園	体育館防災施設照明LED化整備	計画の見直し ※次年度（2020年度）	公園下水道課	春野総合運動公園	屋内運動場防災施設照明LED化整備	計画の前倒し （～2019/8）	公園下水道課	土佐西南大規模公園	テニスコート改修（張芝）	整備済み	公園下水道課
施設名	整備内容	取組み状況	所管課																																						
県立青少年センター	陸上競技場の改修	計画どおり	生涯学習課																																						
須崎市海洋スポーツセンター	船庫（既存）・管理研修棟の整備	整備済み	須崎市（スポーツ課）																																						
	新船庫・トレーニング室の整備	整備済み																																							
	カーゴス（1,000m）の整備	整備済み																																							
春野総合運動公園	屋内運動場防球ネットの改修	計画の見直し ※着工時期	公園下水道課（スポーツ課）																																						
春野総合運動公園	屋内水泳場天井の耐震改修	整備済み	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	野球場の耐震改修	計画どおり	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	体育館防災施設照明LED化整備	計画の見直し ※次年度（2020年度）	公園下水道課																																						
春野総合運動公園	屋内運動場防災施設照明LED化整備	計画の前倒し （～2019/8）	公園下水道課																																						
土佐西南大規模公園	テニスコート改修（張芝）	整備済み	公園下水道課																																						
<p>【取組②】 スポーツ医学をサポートする施設や、学校のトレーニング設備など、スポーツ活動をサポートする施設・設備について、必要な整備を計画的に進めます。</p> <p><具体的な事業> ・スポーツ医学拠点の整備（スポーツ課）</p> <p><取組のKPI> ・今年度中にスポーツ医学拠点が整備されている。</p>	<p>ア 施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者との協議（4月から随時） 建築設計業務委託入札（6月から7月） 建築設計業務委託契約締結（7月） スポーツ医学拠点の実施業務の精査 スポーツ医学拠点の設置機器の精査 スポーツ医学拠点整備に伴う倉庫新築工事着手（9月～） スポーツ医学拠点の整備工事入札公告（10月） スポーツ医学拠点整備に伴う倉庫新築工事完了（～11月） スポーツ医学拠点整備に伴う物品関連入札完了（11月） スポーツ医学拠点の整備工事入札及び契約締結（11月） スポーツ医学拠点整備工事着手（11月～） 																																								

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
日常的な活動の拠点となる施設がある競技団体が増えている	-	-	-

対策の概要
 競技者がより質の高い活動ができるよう、各競技の拠点となる施設を中心に必要な施設・設備の整備を計画的に進めます。

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ参加人口の拡大や競技力向上、新たな大会の開催や合宿誘致など、多面的なスポーツ振興につながる整備計画(案)ができています。 <p><成果></p> <p>概ね計画どおり整備が進んでいる。 (計画変更が必要な場合は、関係者と協議を行い、計画の見直しを行っている)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ参加人口の拡大や競技力の向上、オリンピック・パラリンピック事前合宿やプロ・アマ合宿の誘致など、新たな整備に向けた関係者との調整・検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備施設の進捗管理
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度中にスポーツ医科学拠点が整備されている。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ医科学拠点整備に向けた実施業務や設置機器を確認 スポーツ医科学拠点整備に向けた施設の設計業務の契約及び設計確認 スポーツ医科学拠点整備に向けた工事入札公告及び入札、契約締結 スポーツ医科学拠点整備工事着手 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 整備後の具体的な活用方法の周知 スポーツ医科学拠点整備に向けての実施業務に合わせた機器の最終確認 来年度4月の運用開始に向けて関係者との調整が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点施設整備の進捗管理 スポーツ医科学拠点設置後の活用増に向けた周知 工事(9月~3月) 利用開始(4月) 来年度4月の運用開始に向けて、年内に業務の流れの確認や関係者との調整などを行う。

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 3-(1) スポーツを通じた経済・地域の活性化

1 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

【取組①】

数多くのプロスポーツのキャンプや大会、アマチュアスポーツ合宿を誘致し、県民のスポーツに対する機運の醸成を図るとともに、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげます。

<具体的な事業>

- ・プロスポーツの誘致（スポーツ課）
- ・アマチュアスポーツの誘致（スポーツ課）

<取組の KPI>

- ・アマチュアスポーツ合宿による県外宿泊者数（人泊）50,000 人泊

D これまでの取組状況

ア プロスポーツの誘致

①プロ野球球団へのキャンプ誘致・プレシーズンマッチ開催

- ・各球団訪問による誘致活動（4月～計27回）
- ・高知県フェアの開催：千葉ロッテ（4/1）、阪神2軍（7/20）、西武（8/1）、西武2軍（8/12）

②Jリーグチームへのキャンプ誘致活動

- ・各チーム訪問による誘致活動（4月～計26回）
- ・高知県フェアの開催：徳島ヴォルティス（4/22）、横浜F・マリノス（5/12）、町田ゼルビア（10/14）、アルビレックス新潟（10/28）
- ・2018FIFA ワールドカップロシア パブリックビューイング in 高知城（6/19）

③プロゴルフ大会の継続開催に向けた活動

- ・各主催社へ継続開催の協議交渉（5/10、29）
- ・ギャラリー数の増加に向けた受入定例会（5月～計14回）

ガシオワールドオープンゴルフトーナメントの開催（11/22～25）

イ アマチュアスポーツの誘致

①戦略的な誘致活動

- ・旅行会社との協議（東京：4/2、26、5/11）
- ・高知県観光説明会でのアマチュアスポーツ合宿誘致 PR（広島：6/27、岡山 6/28）
- ・高知県教育旅行＆スポーツ合宿説明会（大阪：7/26）

②新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致

- ・バドミントン日本代表合宿（3/30～4/6）
- ・日本卓球リーグ高知大会 2018（5/30～6/3）
- ・バドミントン日本代表 U19 合宿及びシンガポールバドミントン U19 合宿（8/20～24）

【取組②】

新たなターゲットの受入れを実現するため、スポーツ施設の利用状況の把握や、競技の特性を踏まえた対策の検討を行う場を設けるほか、新たなターゲットの受け入れに向けて県競技団体を通じた PR の強化を行い、アマチュアスポーツの誘致を進めます。

<具体的な事業>

- ・アマチュアスポーツの誘致（スポーツ課）

<取組の KPI>

- ・アマチュアスポーツ合宿による県外宿泊者数（人泊）50,000 人泊

ア アマチュアスポーツの誘致

①戦略的な誘致活動

- ・旅行会社との協議（東京：4/2、26、5/11）
- ・高知県観光説明会でのアマチュアスポーツ合宿誘致 PR（広島：6/27、岡山 6/28）
- ・高知県教育旅行＆スポーツ合宿説明会（大阪：7/26）

②新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致

- ・バドミントン日本代表合宿（3/30～4/6）
- ・日本卓球リーグ高知大会 2018（5/30～6/3）
- ・バドミントン日本代表 U19 合宿及びシンガポールバドミントン U19 合宿（8/20～24）

対策
の
概要

プロやアマチュアスポーツのキャンプや大会・合宿の誘致及び自然環境を生かしたスポーツツーリズムを推進するとともに、地域におけるスポーツサービスの提供を行うことにより、スポーツ産業の創出や若者の定着につなげます。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

・アマチュア合宿助成金（前期）の申請宿泊数増（8,180人泊、対前年度比+513人泊）
※H31.3月に集計

<成果>

・2018FIFAワールドカップロシア パブリックビューイング in 高知城（入場者数680名）当日メディア：テレビ8社、全国紙4社、地方紙2社、雑誌2社
・アマチュア合宿助成金（前期）の申請宿泊数増（8,180人泊、対前年度比+513人泊）

NPBウエスタン・リーグ公式戦（9/8、9 阪神 vs ソフトバンク ※雨天中止）
カシオワールドオープンゴルフトーナメントの開催（観客数 11,821人）

<課題>

ア プロスポーツの誘致

- ①プロ野球球団へのキャンプ誘致・プレシーズンマッチ開催
 - ・キャンプ誘致において、球団からの要望に可能な限り柔軟に対応することが必要
 - ・プレシーズンマッチは、定期的に球団からアドバイスを受けながら、球団や他県の動きを情報収集し、効果的に参加の要請を行うことが必要
- ②Jリーグチームへのキャンプ誘致活動
 - ・受入対応可能施設が少ないため、新規誘致が難しい状況
- ③プロゴルフ大会の継続開催に向けた活動
 - ・大会開催時の集客数拡大に向けた取組の検討が必要

イ アマチュアスポーツの誘致

- ①戦略的な誘致活動
 - ・大阪等他都市への訪問協議が必要。

ア プロスポーツの誘致

- ①プロ野球球団へのキャンプ誘致・プレシーズンマッチ開催
- ②Jリーグチームへのキャンプ誘致活動
 - ・各球団との継続的な協議。
- ③プロゴルフ大会の継続開催に向けた活動
 - ・両大会の継続開催に向けた関係者との継続的な協議

イ アマチュアスポーツの誘致

- ①戦略的な誘致活動
 - ・県内スポーツ施設の利用状況の把握と誘致ターゲットの選定
 - ・競技特性を踏まえた効果的な誘致対策の検討
- ②新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致
 - ・競技団体との連携強化
- ③受入体制の強化
 - ・市町村、集落活動センター等との連携強化

【KPI の状況】

・アマチュア合宿助成金（前期）の申請宿泊数増（8,180人泊、対前年度比+513人泊）
※H31.3月に集計

<成果>

・アマチュア合宿助成金（前期）の申請宿泊数増（8,180人泊、対前年度比+513人泊）

<課題>

- ①戦略的な誘致活動
 - ・大阪等他都市への訪問協議が必要。

①戦略的な誘致活動

- ・県内スポーツ施設の利用状況の把握と誘致ターゲットの選定
- ・競技特性を踏まえた効果的な誘致対策の検討
- ②新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致
 - ・競技団体との連携強化
- ③受入体制の強化
 - ・市町村、集落活動センター等との連携強化

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組③】

サイクリングや登山、カヌーなど本県の自然環境を生かしたスポーツアクティビティの活性化に向けて、インフルエンサーからのアドバイスなどを環境整備や効果的なプロモーションに生かし取組を進めます。【再掲】

<具体的な事業>

- ・自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進（スポーツ課）

<取組の KPI>

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数（新規イベント数）1,500人（5大会）
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人

ア サイクリング

- ①「ぐるっと高知サイクリングロード」環境整備
 - ・サイクリングコース環境整備に向けた道路課との協議（随時）
- ②サイクリング観光のプロモーション強化
 - ・海外旅行会社及びインフルエンサー（タイ）の招へいによるプロモーションビデオの製作・公開（12/12）
 - ・SNSやパンフレットを活用したPR活動（随時）
 - ・サイクリングイベント出展によるPR（三重県：8/18、19）（愛媛県10/27、28）
千葉県（11/8～10）
- ③県境をまたぐサイクリングの推進
 - ・四万十・南予横断2リバービューライド担当者会（5/10、8/6）
 - 四万十・南予横断2リバービューライド ⇒ 荒天のため中止（9/9）
 - ・四国4県連携イベント担当者会（4/20、9/6）
 - ・サイクリングアイランド四国推進協議会（5/23、10/30）

イ サーフィン

- ①サーフィン高知県知事杯担当者会（5/11、6/8）
- サーフィン大会の開催（10/22）

【取組④】

国内外で開催されるサイクリングイベントへの出展やサイクリング関連雑誌等での紹介などにより、県推奨のサイクリングコース（「ぐるっと高知サイクリングロード」）のプロモーション強化を行うとともに、四国一周サイクリングルートのプロモーションの実施や、県域を跨ぐサイクリングイベント等を開催します。【再掲】

<具体的な事業>

- ・自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進（スポーツ課）

<取組の KPI>

- ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数（新規イベント数）1,500人（5大会）
- ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人

ア サイクリング

- ①「ぐるっと高知サイクリングロード」環境整備
 - ・サイクリングコース環境整備に向けた道路課との協議（随時）
- ②サイクリング観光のプロモーション強化
 - ・海外旅行会社及びインフルエンサー（タイ）の招へいによるプロモーションビデオの製作・公開（12/12）
 - ・SNSやパンフレットを活用したPR活動（随時）
 - ・サイクリングイベント出展によるPR（三重県：8/18、19）（愛媛県10/27、28）
千葉県（11/8～10）
- ③県境をまたぐサイクリングの推進
 - ・四万十・南予横断2リバービューライド担当者会（5/10、8/6）
 - 四万十・南予横断2リバービューライド ⇒ 荒天のため中止（9/9）
 - ・四国4県連携イベント担当者会（4/20、9/6）
 - ・サイクリングアイランド四国推進協議会（5/23、10/30）

イ サーフィン

- ①サーフィン高知県知事杯担当者会（5/11、6/8）
- サーフィン大会の開催（10/22）

【取組⑤】

高知龍馬マラソンなど、広域から誘客できる魅力あるスポーツ大会の県内での開催の拡充を図ります。

<具体的な事業>

- ・高知龍馬マラソン（スポーツ課）

<取組の KPI>

- ・1万人規模の大会継続

ア 高知龍馬マラソンの開催

- ・ファンラン種目に関する協議（4月～）
- ・他県大会の聞き取り調査（4月～）
- ・関係機関等との調整
 - 高知県社会福祉協議会（4/9、6/28）
 - 帯屋町商店街（5/16、10/16）
 - 県警（5/18、6/7、6/13、7/20、8/23、9/13、10/30）
 - 障害者スポーツセンター（7/3）
 - とさでん交通㈱（10/12）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500人(5大会) ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人 <p><成果></p> <p>自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 227人(2大会) サイクリングイベントの県外参加者数 726人</p> <p><課題></p> <p>ア サイクリング</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自転車活用推進法に基づく、国土交通省のガイドラインが未設定のため、整備が遅れる可能性がある。 ②出展イベントの選定が必要(効果の大きいイベントの調査) ③参加者増に向けた大会の磨き上げが必要 ④集客増につながる取組の検討が必要(効率の良い集客方法等) ⑤4県連携事業の協議が必要(開催方法などで課題がある) <p>イ サーフィン</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーフィン高知県知事杯のPR強化が必要(ギャラリーなど) ②サーフィン高知県知事杯のPR強化が必要(ギャラリーなど) 	<p>ア サイクリング</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道路課と連携したコース環境の整備 ②インフルエンサーを活用したPR活動(招請、動画UP等) ③各イベント開催に向けた関係者との協議 ④イベントの開催 ⑤4県連携サイクリングイベントの検討(サイクリングアイランド四国) <p>イ サーフィン</p> <ol style="list-style-type: none"> ①担当者会の開催 ②サーフィン知事杯の開催
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 1,500人(5大会) ・サイクリングイベントの県外参加者数 1,500人 <p><成果></p> <p>自然を生かしたイベントによる新規入込者数(新規イベント数) 227人(2大会) サイクリングイベントの県外参加者数 726人</p> <p><課題></p> <p>ア サイクリング</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自転車活用推進法に基づく、国土交通省のガイドラインが未設定のため、整備が遅れる可能性がある。 ②出展イベントの選定が必要(効果の大きいイベントの調査) ③参加者増に向けた大会の磨き上げが必要 ④集客増につながる取組の検討が必要(効率の良い集客方法等) ⑤4県連携事業の協議が必要(開催方法などで課題がある) <p>イ サーフィン</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーフィン高知県知事杯のPR強化が必要(ギャラリーなど) 	<p>ア サイクリング</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道路課と連携したコース環境の整備 ②インフルエンサーを活用したPR活動(招請、動画UP等) ③各イベント開催に向けた関係者との協議 ④イベントの開催 ⑤4県連携サイクリングイベントの検討(サイクリングアイランド四国) <p>イ サーフィン</p> <ol style="list-style-type: none"> ①担当者会の開催 ②サーフィン知事杯の開催
<p>【KPIの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知龍馬マラソン：1万人規模の大会継続 <p>フルマラソンエントリー数 13,481人(昨年度実績12,827人) フルマラソン出走者数 11,956人(昨年度実績11,194人) ハーフマラソンエントリー数 352人(うち伴走者98人) ハーフマラソン参加者数 314人(うち伴走者77人)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会の開催に向けて関係者との調整・協議が順調に進んでいる。 <p><課題></p> <p>魅力ある大会づくり</p> <p>次回大会(2020大会)をより安全で魅力ある大会にするため、課題を整理して準備を進める必要がある。</p>	<p>次回大会に向けて関係者と2019大会の検証・反省を行う。(3月)</p>

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

【取組⑥】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2019ラグビーワールドカップなどの大規模なスポーツイベントにおける事前合宿を受け入れるとともに、国内外に本県をPRするため、来高した選手やメディアによる情報発信を積極的に行います。

＜具体的な事業＞

- ・オリンピック・パラリンピック東京大会事前合宿招致活動（スポーツ課）
- ※事前合宿招致活動を通じた情報発信を含む

＜取組のKPI＞

- ・海外スポーツ団体等による合宿
- ・各種メディアによる情報発信数の増加（前年度比）

ア オリピック・パラリンピック事前合宿招致活動

- ・覚書の締結
- ・チェコオリンピック委員会（4/10）
- ・スポーツシンガポール（4/20）
- ・事前合宿に向けた協議
- ・チェコオリンピック委員会関係者（7/20・高知市）
- ・スポーツシンガポール関係者（7/26・シンガポール）
- ・チェコカヌー協会関係者（11/3・須崎市）
- ・スポーツシンガポール関係者（11/19・シンガポール）
- ・対象国からの視察受入
- ・シンガポール水泳連盟関係者の視察（7/18・19）
- ・シンガポールライフル射撃協会関係者の視察（9/24・25）
- ・スロバキアカヌー協会関係者の視察（10/25・須崎市）
- ・相手選手確保のための活動
- ・日本卓球リーグ実業団連盟への依頼（6/4、日本卓球リーグ高知県大会開催時）
- ・メール等による継続的な交渉（随時）
- ・キルギス大使館への訪問による担当者協議（8/3）

イ RWC2019（トンガ）

①誘致活動

- ・アドバイザー（ラトゥ氏）との協議（4/14、5/13、19）
- ・事前キャンプ実施の決定通知書手交（5/19）
- ・トンガ王国首相等の来高調整
- ・招致委員会の設置に向けた検討

②レガシーの構築

- ・アドバイザー（ラトゥ氏）との協議（4/14、5/13、19）【再掲】
- ・トンガコミュニティジャパン及びトンガ有識者との協議（5/13）

ウ 事前合宿招致活動を通じた取り組み（インフルエンサーを活用した情報発信）

- ①事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信
- ・チェコオリンピック委員会公式HPにおける・チェコ観光協会SNS「チェコへこう」における高知県（覚書締結）の情報発信（4/20）
- ・オランダ自転車デジタル雑誌「Soigneur」における県内自転車イベント（無限大チャレンジライド）の情報発信（4/26）
- ・チェコソフトボール協会公式HPにおける高知県合宿の情報発信（5/7）
- ・チェコカヌー代表選手SNSによる情報発信（11月合宿中）
- ・国際ビジネスコミュニケーション協会公式HPにおける情報発信（11/30）
- ・高知医科大学公式HPにおける情報発信（11/20）

②ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進

- ・文化交流
- ・在オランダ日本国大使館主催の日本語弁論大会における「よさこい高知賞」受賞者を招へいた文化交流の実施（7/18～19・宿毛市ほか）
- ・チェコカヌー代表チームと地域住民との歓迎交流会（11/18・須崎市）
- ・県内飲食店におけるチェコ生ビールの提供開始
- ・オリンピックオフィシャルスポンサーとの連携によるPR
- ・東京2020大会応援高知県限定P.Cバック缶ビールの発売（アサヒビール）
- ・東京2020大会ロゴ入Tシャツ（アシックス）

③聖火リレーの取り組み

- ・聖火リレー実施日の公表
- 高知県実施日：2020年4月20、21（7/21公表）
- 市町村に対する聖火リレーの説明（「第4階高知県・市町村2020年東京オリンピック・パラリンピック活用協議会」にて・8/14）
- ・実行委員会の実施
- 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県実行委員会（9/11）
- 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県ルート検討委員会（10/19）
- 第2回東京2020オリンピック聖火リレー高知県ルート検討委員会（11/27）
- 東京2020オリンピック聖火リレー市町村担当者向け説明会（12/4）
- 第2回東京2020オリンピック聖火リレー高知県実行委員会（12/25）
- 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県ランナー検討委員会（2/5）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPI の状況】

- ・海外スポーツ団体等による合宿
 ※5件 (2月現在)、H31.3月に最終確認
- ・各種メディアによる情報発信数の増加 (前年度比)
 ※7件 (2月現在)、H31.3月に最終確認

<成果>

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会事前合宿に向けた関係国との覚書の締結
- ・海外メディア等による情報発信

<課題>

ア オリンピック・パラリンピック招致活動

- ・受入競技種目の決定
- ・練習相手、施設の確保、必要な器材の調達
- ・受入体制の強化

イ RWC2019 (トンガ)

- ・トンガチームの受入体制の構築
- ・県民の機運醸成を図る取り組みの検討
- ・トンガとの交流内容について

ウ 事前合宿招致活動を通じた取り組み (インフルエンサーを活用した情報発信)

- ①事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信
 - ・関係者への依頼
- ②ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進
 - スポーツ交流 (海外トップ選手等の地域スポーツイベントへの参加)
 - ・関係者との継続的な協議が必要

ア オリンピック・パラリンピック招致活動

- ・受入競技種目の決定に向けたシンガポール及びチエコとの協議
- ・県内競技団体やネットワークアドバイザーに支援を仰ぎ練習相手へアプローチする
- ・施設管理者への事前連絡、調整会議等におけるスポーツ施設の確保
- ・必要な器材の調達案の作成
- ・受入体制の強化に向けた関係機関等との協議

イ RWC2019 (トンガ)

- ・首相及び CEO による高知県訪問の調整
- ・招致委員会の設置 (年度内)
- ・代表チームとの協議 (必要備品の確認等)
- ・トンガ応援プロジェクトの継続実施 (トンガ訪問によるラグビーボールの寄贈)
- ・アドバイザーの人脈を生かしたトップリーグや大学チームの合宿誘致

ウ 事前合宿招致活動を通じた取り組み (インフルエンサーを活用した情報発信)

- ①事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信
 - ・選手等による SNS を活用した情報発信
 - ・招へいする参加者のネットワークを活用したメディアによる情報発信
- ②ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進
 - スポーツ交流 (海外トップ選手等の地域スポーツイベントへの参加)
 - ・イベント事務局との協議による招へい者の活用方法の検討

P 対策に位置付けた主な取組

D これまでの取組状況

<p>【取組⑦】</p> <p>スポーツツーリズムを中山間振興につなげるため、スポーツ合宿誘致等における集落活動センターの受入体制(宿泊・食の提供等)の充実や誘客の仕組みづくりを支援します。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター推進事業(中山間地域対策課) <p>【再掲】</p> <p><取組のKPI></p>	<p>ア スポーツ合宿誘致等における集落活動センターの受入体制の充実支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター推進事業費補助金等による支援 宿泊：集落活動センターであいの里端川(延べ620人泊) 集落活動センターかきせ(延べ94人泊) 食の提供：集落活動センター佐賀北部(15回1,451食)
<p>【取組⑧】</p> <p>高知龍馬マラソンにおいて、障害のある人や特別な配慮が必要な人も安心・安全に参加することができるよう多様性を重視した大会として、県内外、国外から多く参加者が集う魅力ある大会づくりを行います。</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知龍馬マラソン(スポーツ課) <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1万人規模の大会継続 	<p>ア 高知龍馬マラソンの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンラン種目に関する協議(4月～) ・他県大会の聞き取り調査(4月～) ・関係機関等との調整 高知県社会福祉協議会(4/9、6/28) 帯屋町商店街(5/16、10/16) 県警(5/18、6/7、6/13、7/20、8/23、9/13、10/30) 障害者スポーツセンター(7/3) とさでん交通㈱(10/12)
<p>【取組⑨】</p> <p>総合型地域スポーツクラブ等を各市町村のスポーツ活動の拠点(「地域スポーツハブ」)として育成し、地域のニーズに応じた公益性の高いスポーツ活動の展開を支援することにより、地域スポーツを通じたビジネス化の促進や地域におけるスポーツ活動の活性化につなげます。【再掲】</p> <p><具体的な事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツハブ展開事業(スポーツ課) <p><取組のKPI></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域スポーツハブ」設置数(設置目標4) ・促進委員会の開催(全5回予定) ※設置後に促進委員会にて地域のスポーツ資源やニーズについて情報共有を行い、各ハブで取組決定→KPIに反映 	<p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <p>①地域スポーツハブの設置に向けた説明会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市(5回実施) ・南国市(5回実施) ・土佐清水市(4回実施) ・四万十町(6回実施) ・合同説明会(5/21) <p>②地域スポーツコーディネーターの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市(総合クラブとさ)：4月 ・土佐清水市(スポーツクラブスクラム)：7月 ・南国市(まほろばクラブ南国)：7月 <p>③促進委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市(2回実施)・南国市(6回実施)・土佐清水市(4回実施) <p>④事業の実施</p> <p>①)地域スポーツハブ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市【3事業(12回)】・土佐清水市【4事業(7回)】・南国市【1事業(1回)】 <p>②)地域スポーツハブ(広域型)事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの広場(南国市：11/23、越知町：1/21)

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
県外からのスポーツによる入込客数	8万9千人		11万人
市町村で行われているスポーツイベント(大会)の数	271回		330回

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向
<p>【KPIの状況】</p> <p>-</p> <p><成果></p> <p>-</p> <p><課題></p> <p>-</p>	<p>・集落活動センター推進事業費補助金等による支援</p>
<p>【KPIの状況】</p> <p>・高知龍馬マラソン：1万人規模の大会継続</p> <p>フルマラソンエントリー数：13,481人（昨年度実績12,827人）</p> <p>フルマラソン出走者数：11,956人（昨年度実績11,194人）</p> <p>フアンランエントリー数：352人（うち伴走者98人）</p> <p>フアンラン参加者数：314人（うち伴走者77人）</p> <p><成果></p> <p>・大会の開催に向けて関係者との調整・協議が順調に進んでいる。</p> <p><課題></p> <p>魅力ある大会づくり</p> <p>次回大会（2020大会）をより安全で魅力ある大会にするため、課題を整理して準備を進める必要がある。</p>	<p>・次回大会に向けて関係者と2019大会の検証・反省を行う。（3月）</p>
<p>【KPIの状況】</p> <p>・「地域スポーツハブ」設置数（設置目標4）</p> <p>設置数：3（土佐市、南国市、土佐清水市）※四万十町は調整中</p> <p>・促進委員会の開催（全5回予定）</p> <p>土佐市：2回（7/18、10/22）</p> <p>南国市：6回（7/20、8/20、9/18、10/16、11/12、1/29）</p> <p>土佐清水市：4回（7/27、9/28、11/15、1/31）</p> <p>※H31.3月に最終確認</p> <p><成果></p> <p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <p>・3市町で地域スポーツハブが設置され、促進委員会が開催された。</p> <p>・土佐市、土佐清水市、南国市では、促進委員会からの提案に基づき事業が実施された。</p> <p>HP、SNS等による情報発信が各地域スポーツハブで行われた。</p> <p>県体育協会事業として地域スポーツハブ事業（広域型）が2地域で実施された。</p> <p><課題></p> <p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <p>新規連携先の開拓</p> <p>・収集するスポーツ情報の内容の精査・拡充</p> <p>・効果的な情報発信の方法</p> <p>・情報収集に基づいた事業の磨き上げ</p> <p>四万十町の地域スポーツハブ立ち上げに向けたコーディネーターの確保</p>	<p>ア 地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実</p> <p>・事業参加企業拡大に向けた企業訪問の実施</p> <p>・スポーツ情報やニーズの調査対象の拡大</p> <p>・HPやSNS等情報発信ツールの活用方法の検討</p> <p>・効果的な情報発信ルートの開拓</p> <p>・収集した情報の整理・分析</p> <p>市、町のニーズや特性に基づく効果的な事業展開の立案</p> <p>事業実施に向けた関係団体との調整</p> <p>・本年度事業の評価</p> <p>各地域スポーツハブにおける次年度事業計画の作成</p> <p>・次年度地域スポーツハブ候補団体の選出</p> <p>各地域スポーツハブにおいて児童・生徒のスポーツ環境拡充に向けた取り組み</p> <p>→バドミントン体験教室等の実施</p>

基本方向 10 スポーツの振興を図る

対策 4- (1) オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興

7 対策に位置付けた取組の実施状況

P 対策に位置付けた主な取組

【取組①】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップ2019大会の事前合宿の受入れや、ホストタウンの取組、オリンピック・パラリンピック教育などを実施することにより、同大会の機運の醸成を図るとともに、大会後のレガシーとして、世界レベルの指導者の招へいや、相手国との指導者や選手の交流などのスポーツ振興、来県する世界レベルの選手による県内体験型観光資源の磨き上げなどといった観光振興のほか、相手国の文化を学ぶ教育活動といった教育面の交流などにつながる取組を進めます。

<具体的な事業>

- ・オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（保健体育課）
- ・オリンピック・パラリンピック東京大会事前合宿招致活動（スポーツ課）

<取組のKPI>

- ・海外スポーツ団体等の合宿や視察受入回数の増加（前年度以上）
- ・来県時等のスポーツ交流の増加（来県等により交流する団体数の増加）

D これまでの取組状況

ア オリンピック・パラリンピック事前合宿招致活動

- ・覚書の締結
チェコオリンピック委員会（4/10）
スポーツシンガポール（4/20）
- ・事前合宿に向けた協議
チェコオリンピック委員会関係者（7/20）
スポーツシンガポール関係者（7/26）
チェコカヌー協会関係者（11/3）
スポーツシンガポール関係者（11/19）
- ・対象国からの視察受入
シンガポール水泳連盟関係者の視察（7/18、19）
シンガポールライフル射撃協会関係者の視察（9/24・25）
スロバキアカヌー協会関係者の視察（10/25・須崎市）
- ・相手選手確保のための活動
日本卓球リーグ実業団連盟への依頼（6/4）
バドミントン実情団チーム（ゴニスス・ヨネックス）への依頼（9/4）
- ・メール等による継続的な交渉（随時）
キルギス大使館への訪問による担当者協議（8/3）

イ オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツ参加の拡大

- 事前合宿の招致活動を通じた取組
 - 海外ナショナルチーム
 - ・チェコ
ソフトボール男子U19（4/27～5/8）
カヌー代表チーム（11/1～30）
 - ・シンガポール
シンガポールバドミントンU19（8/20～24）
ロシア
ロシアカヌー代表選手（11/9～25、12/2～18）
 - ②日本代表チームの招致
 - ・バドミントン日本代表合宿（3/30～4/6）
 - ・バドミントンU19日本代表合宿（8/20～24）
 - ソフトボール女子日本代表合宿（11/26～12/3）
 - ホストタウンの取り組み
 - ①ホストタウン登録
 - ・キルギス（4月新規登録）
 - シンガポール高知市追加（12月登録）
 - ②交流事業の開催
 - ・ホストタウン登録市町との情報共有会議の開催（5月）
 - ・ホストタウンミーティングの実施（8/30）
- オリンピック・パラリンピック等に関連する取組
 - ①オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携
 - ・異文化教室「シンガポールを学ぼう！」（10/12・南国市）
 - ・異文化教室「チェコを学ぼう！」（10/18・須崎市）
 - ②「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（スポーツ庁委託事業）の実施【再掲】
オリンピック・パラリンピック教育研修会の実施 8/24、2/19
あすチャレ！ School in KOCHI の実施・・・ 7小学校
ゆめチャレ！ School in KOCHI の実施・・・ 2小学校
パラスポ体験教室の実施・・・・・ 6小学校、1中学校
障がい者スポーツ選手による記念講演会の実施・・ 1小学校、3中学校
トップアスリート夢先生派遣事業の実施・・ 20小学校、9中学校
宿毛市（教育推進地域）によるオリパラ教育の実践
指導資料（Impossible）を活用した授業実践
・教職員対象の研修会（コールボールの体験）及び講演会の開催

対策
の
概要

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップ2019大会の開催を好機と捉え、参加国の事前合宿の招致を通じて大会の機運の醸成を図るとともに、スポーツの振興や地域の活性化につながる取組を行います。

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

【KPIの状況】

- 海外スポーツ団体等の合宿や視察受入回数の増加（前年度以上）
- ※5件（2月現在）、H31.3月に最終集計
- 来県時等のスポーツ交流の増加（来県等により交流する団体数の増加）
- ※7件（2月現在）、H31.3月に最終集計

<成果>

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会事前合宿に向けた関係国との覚書の締結
- 2019年及び2020年事前合宿実施予定種目の把握
- 海外スポーツ団体等との交流
- 海外メディア等による情報発信
- オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた取組が計画通り進んでいる。

<課題>

ア オリンピック・パラリンピック招致活動

- 練習相手の確保
- 施設の確保
- 必要な器材の調達
- 受入体制の強化

イ オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツ参加の拡大

- 事前合宿の招致活動を通じた取り組み
 - 海外ナショナルチームの県内合宿
 - ホストタウン登録国との交渉強化
 - 日本代表チームの招致
 - 競技団体との連携強化
- ホストタウンの取組
 - 交流事業の開催
 - ホストタウン登録市町と連携強化
- オリンピック・パラリンピック等に関する取組
 - 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（スポーツ庁委託事業）の実施

オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた取組が着実に進んでいる。
小学校・中学校においては、指導資料（Impossible）の活用が広がりにつつある。推進地域の教員間での教材価値の共有ができてきている。

オリンピック・パラリンピック教育は進みつつあるが、未実施の学校への対策が必要である。

バラスポーツ体験等を指導する講師が不足している。

高等学校に対するオリンピック・パラリンピック教育の推進についてもさらに検討する必要がある。

ウ オリンピック・パラリンピック等を契機とした競技力の向上

- 事前合宿招致活動を通じた取組（合宿時における技術指導等）
 - 海外ナショナルチーム
 - 海外チームと競技団体との調整が必要
 - 日本代表チーム
 - 競技団体を通じた日本代表チームとの調整が必要
- 大会後のレガシーとなる継続した交流
 - 関係団体等との調整

ア オリンピック・パラリンピック招致活動

- 県内競技団体やネットワークアドバイザーに支援を仰ぎ練習相手へアプローチする
- 施設管理者等への事前連絡、調整会議等におけるスポーツ施設の確保
- 必要な器材の調達案の作成
- 受入体制の強化に向けた関係機関等との協議

イ オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツ参加の拡大

- 事前合宿の招致活動を通じた取組
 - 海外ナショナルチームの県内合宿
 - キルギスレスリング（3月予定）
 - 日本代表チームの県内合宿
 - ホストタウンの取組
 - 交流事業の開催
 - ホストタウン登録市町と県の連携を強化するための協議の場の継続
 - オリンピック・パラリンピック等に関連する取組
 - オリンピック・パラリンピック等経済界協議会等との連携
 - 同団体幹事企業との継続的な協議と事業実施
 - フラッグツアー関連事業の実施（第4四半期）
 - 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（スポーツ庁委託事業）の実施
 - 日本体育大学、日本財団パラリンピックサポートセンター、高知県障害者スポーツセンター、県内の総合型地域スポーツクラブ等と連携した取組を進める。
- 体育主任研修会等において、オリンピック・パラリンピック教育に関する指導資料（Impossible）の活用やオリパラ研修会への参加、推進地域や推進校の実践、バラスポーツの実施等を通して、県内の全公立学校での取組を推進する。

ウ オリンピック・パラリンピック等を契機とした競技力の向上

- 事前合宿招致活動を通じた取組（合宿時における技術指導等）
 - 海外ナショナルチーム
 - キルギスレスリングの県内合宿の招致
 - 大会後のレガシーとなる継続した交流
 - オランダプロサッカーチーム指導者を招へいしたサッカー教室の開催（3/8～10）

〈高等学校のみ〉

モデル校による「スポーツの価値教育」の推進（公益財団法人日本アンチドーピング機構（JADA））

モデル校：県立須崎高等学校、県立窪川高等学校

モデル校授業公開：県立須崎高等学校（8/29,8/31）

県立窪川高等学校（9/10,9/13）

※3学期に東京にて実践発表：2/3

- ・オリンピックパラリンピック教育実施要項を作成し県内の公立学校に配布済。（保健体育課ホームページに掲載）
- ・各事業の派遣校の決定及び決定通知の送付（7月）
- ・モデル校による「スポーツの価値教育」の推進（公益財団法人日本アンチドーピング機構（JADA））（高等学校）
 - モデル校：県立須崎高等学校、県立窪川高等学校
 - モデル校とJADA職員との打合せ（7/2）
 - モデル校授業公開：県立須崎高等学校（8/29,8/31）
 - 県立窪川高等学校（9/10,9/13）
- 2学期にモデル校で授業公開、3学期に東京にて実践発表を予定。

ウ オリンピック・パラリンピック等を契機とした競技力の向上

（1）事前合宿招致活動を通じた取組（合宿時における技術指導等）

①海外ナショナルチーム

・チェコスフトボール男子U19の県内合宿期間中、県内男子ソフトボールチームと練習試合を実施（4/28～4/30、5/3～5/6）

・バドミントンU-19日本代表合宿への高知県選手の参加（8/20～24）

・チェコカヌー代表チームの県内合宿期間中、チェコの指導者及び選手が県カヌー協会所属選手を指導（11/18）

②日本代表チーム

・バドミントン日本代表合宿期間中、講習会を実施（4/5）

・ソフトボール女子日本代表合宿期間中、代表選手が県ソフトボール協会所属の中高生にソフトボール教室を実施（12/2）

③大会後のレガシーとなる継続した交流

・シンガポールスポーツスクールへの県内選手の派遣（7/23～29）

※期間中、指導者同士のミーティングを実施（7/26）

エ オリンピック・パラリンピック等を契機とした地域の活性化

（1）事前合宿招致活動を通じた取組（インフルエンサーを活用した情報発信）

①事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信

・チェコオリンピック委員会公式HPにおける高知県（党書締結）の情報発信（4/16）

・チェコ観光協会SNS「チェコへ行こう」における高知県（党書締結）の情報発信（4/20）

・オランダ自転車デジタル雑誌「Soigneur」における県内自転車イベント（無限大チャレンジライド）の情報発信（4/26）

・チェコスフトボール協会公式HPにおける高知県合宿の情報発信（5/7）

・チェコカヌー代表選手SNSによる情報発信（11月合宿中）

・国際ビジネスコミュニケーション協会公式HPにおける情報発信（11/30）

・高知工科大学公式HPにおける情報発信（11/20）

②ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進

・文化交流

・在オランダ日本国大使館主催の日本語弁論大会における「よさこい高知賞」受賞者を招へいた文化交流の実施（7/18～19・宿毛市ほか）

・チェコカヌー代表チームと地域住民との歓迎交流会（11/18・須崎市）

・県内飲食店におけるチェコ生ビールの提供開始

・オリンピックオフィシャルスポンサーとの連携によるPR

・東京2020大会応援高知県限定PCバック缶ビールの発売（アサヒビール）

・東京2020大会ロゴ入りTシャツ（アシックス）

C 取組の成果・課題・留意点

A 今後の取組の方向

エ オリンピック・パラリンピック等を契機とした地域の活性化

(1) 事前合宿招致活動を通じた取組 (インフルエンサーを活用した情報発信)

- ① 事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信
 - ・関係者への依頼

新たな情報発信者等の掘り起こし

② ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進

- ・スポーツ交流 (海外トップ選手等の地域スポーツイベントへの参加)
- ・関係者との継続的な協議が必要

エ オリンピック・パラリンピック等を契機とした地域の活性化

(1) 事前合宿招致活動を通じた取組 (インフルエンサーを活用した情報発信)

- ① 事前合宿等で訪れたトップアスリートやメディア等を活用した情報発信
 - ・選手等による SNS を活用した情報発信
 - ・招へいする参加者のネットワークを活用したメディアによる情報発信 (自転車関係者)

② ホストタウンの取り組み等を通じた継続的な交流の促進

オランダ自転車協会 CEO 及び元オランダチャンピオンの四万十 足指無限大チャレンジライドへの参加 (3/9~10)

P 対策に位置付けた主な取組	D これまでの取組状況
	<p>③聖火リレーの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖火リレー実施日の公表 高知県実施日：2020年4月20、21（7/21公表） 市町村に対する聖火リレーの説明（「第4階高知県・市町村2020年東京オリンピック・パラリンピック活用協議会」にて・8/14） ・実行委員会の実施 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県実行委員会（9/11） 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県リレー検討委員会（10/19） 第2回東京2020オリンピック聖火リレー高知県リレー検討委員会（11/27） 東京2020オリンピック聖火リレー市町村担当者向け説明会（12/4） 第2回東京2020オリンピック聖火リレー高知県実行委員会（12/25） 第1回東京2020オリンピック聖火リレー高知県ランナー検討委員会（2/5）

2 第2期高知県スポーツ推進計画における指標の状況

	H29	H30	H31目標値
<p>オリンピック・パラリンピック等を契機に、県民のスポーツに対する意識が高まり、大会後もスポーツの価値や魅力を通じた活力ある地域づくりが行われている。</p>	-	-	-

C 取組の成果・課題・留意点	A 今後の取組の方向

